

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第11号



全日本大学ソフトボール連盟



全日本大学ソフトボール連盟

ご あ い さ つ



全日本大学ソフトボール連盟会長
大 内 敬 哉

学連機関誌「ウインドミル」第11号の発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

学連におきます本年度の諸行事は無事終了いたしました。私はこの時期になりますと一年間の総決算として種々反省をいたすのであります。本年度は国際大会に男女共に選抜チームが日本を代表して参加できましたことは、学連創設以来の記念すべき年であったと思います。女子チームにおきましては、過去に国際大会への参加は数回ありましたが、男子チームの参加は今回が初めてのことであり、戸惑いもありました。しかし、様々な面で(財)日本ソフトボール協会のご支援を賜り、無事大会に参加できましたことに対し、心より謝意を申し上げます。今般男子が参加した「第1回アメリカン・チャレンジシリーズ」は、将来女子の「アメリカンカップ」と同様に、男子の「アメリカンカップ」にするべき大会であり、2008年より毎年開催されるものと聞き及んでおります。男子選抜チームは、アメリカに次ぎ第2位に好成績でありました。一方女子の選抜チームは、タイ・バンコクで開催されました「第24回ユニバーシアード競技大会」に参加し7ヶ国中第3位(銅メダル)を獲得し帰国しました。いずれにせよ近い将来ソフトボール競技が男女共にオリンピック競技種目入りを目指すI・S・F(国際ソフトボール連盟)の方針に寄与する大切な両大会への参加でありました。今後学連も、(財)日本ソフトボール協会と共に互いに協力し合い、来たるべくアベックでオリンピック競技入りの時期に備えるべきであると存じます。

最後になりましたが「ウインドミル」第11号の発刊にご協力賜りました関係各位に感謝申し上げ、「ウインドミル」が国内ばかりでなく、国際的にもソフトボールの情報発信基地となるべき発展を心より祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

ウインドミル

第11号

目 次

ごあいさつ ●会長 大内敬哉	1
〔巻頭言〕 ●共に生きる	4
副会長 中野紀明	
〔事業報告〕 ●平成19年度の事業報告と今後の活動方針	5
理事長 末井健作	
〔報告〕 ●第1回 アメリカンチャレンジシリーズ報告	
大会概要	6
参加スタッフのレポート	9
参加選手のコメント集	13
●第24回ユニバーシアード競技大会	
大会概要	17
参加選手のレポート	19
参加スタッフのレポート	27
〔紹介〕 ●国際ルールとの比較	30
後藤春日	
●2007年世界で活躍した学連登録選手	34
〔研究紹介〕 ●大学女子ソフトボール選手のための体力評価基準の作成	35
東山智郁子 他	
全国大会の記録 ●文部大臣杯第42回全日本大学男子選手権大会	39
●文部大臣杯第42回全日本大学女子選手権大会	50
●第52回全日本総合男子選手権大会	57
●第58回全日本総合女子選手権大会	58
共催大会の記録 ●第21回東日本大学選手権大会	59
●第38回西日本大学選手権大会	61
後援大会の結果 ●第6回豊田・デンソー・豊田織機・東海理化杯	63
●第4回全国国公立大学オープン大会	64

●第9回千葉オープンフェスティバル	-----	65
●第7回「峠のまち」Matsuida Cup	-----	66
●第3回北信越大学オープン大会	-----	67
各地区の大会結果●北海道・東北地区 選手権大会	-----	68
●関東地区 春季リーグ戦	-----	68
関東学生選手権大会	-----	70
秋季リーグ戦	-----	71
第38回関東大学選手権大会	-----	73
●北信越地区 選手権大会	-----	75
新人選手権大会	-----	75
●東京地区 春季リーグ戦	-----	75
秋季リーグ戦	-----	78
●東海地区 春季リーグ戦	-----	80
第4回東海地域大学選手権大会	-----	83
秋季リーグ戦	-----	85
●近畿地区 春季リーグ戦	-----	88
秋季リーグ戦	-----	92
●中国地区 インカレ予選会	-----	98
選手権大会	-----	99
●四国地区 春季大会	-----	99
インカレ予選会	-----	100
秋季大会	-----	101
●九州地区 春季大会	-----	102
秋季大会	-----	103
調査研究委員会●原稿等の募集・投稿規定	-----	104
広報記録委員会●全日本大学ソフトボール連盟表彰	-----	105
●第6回東海オープン出場チーム募集	-----	106
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----	108
●全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿	-----	109
●平成19年度加盟大学一覧	-----	110
編集後記	-----	112

【巻頭言】

共に生きる

副会長 中 野 紀 明（国士舘大学）

我が国の大学には、数え切れないほどの学生スポーツサークルがある。もしも「学生の文化」というものがあるとすれば、それは紛れもなくサークルを母胎に成立していることであろう。その意味では学生スポーツサークルは、まさしく「学生の学生による学生のための組織」を形成していることになる。学生はこの組織の中で、人間であることを確かめあい、励ましあえる仲間をつくり、価値観をつくり出す。この組織の良さは、学生自身の良心以外に拘束するものがないことであり、人間関係を大切にしながら、自分で納得する生き方を形成していく土壌をもっていることにある。

サークルでは、寄り集う者の情動表出が許されるし、喜怒哀楽などはそこでの特質である。参加者は情動を素直に、率直に表現することで、人間らしさの原初的な意義を確認する。こうした“解放感覚”をサークルは出発点としている。

一方、我が国のスポーツ観は「する」ことよりも、「みる」ことにあると言われて久しい。その要因として二つ挙げられる。一つ目は、過去のオリンピックや世界大会などで、選手に過度な責任意識を課し、挙げ句の果てに押し潰して切り捨てたこと。二つ目は、スポーツが一部の人々によってコントロールされていること。これはスポーツが商品化され、

それぞれ個性のない画一化されたスタイルが横溢されていることにも現れている。ユニフォームで思考まで画一化されるはずがないとする見方もあるが、目標達成のための統一的态度が要求されている実態は枚挙に遑が無い程である。ユニフォームの効果は運動そのものよりも、思考を一つに統べ合わせることに向けられている。したがって、画一化されたスポーツスタイルは、画一化された態度を生む要因となる。

問題は学生にとって、スポーツサークルはどのような意味があり、どのような展望をもち得るのかということである。感性レベルの解放感覚をどのようにして、持続力の高揚や仲間との連携強化につなげていくかということである。スポーツは集団が同時に共通の体験をすることに利点がある。“同じ釜の飯を食う”ことの大切さは、仲間づくりの必須条件でもある。共通体験を同時に共有することによってメンバーは固い連帯を構成する。スポーツは決して一人のものではない。スポーツこそ人間の解放感覚を育て、そこでの共通体験が強い連帯感をつくりあげていくのである。

逆を言えば、スポーツの脆さは、技能向上至上主義に陥って、連帯感づくりを曖昧にすることである。

【事業報告】 平成19年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 末 井 健 作（兵庫県立大学）

本学連の事業である文部科学大臣杯第42回全日本大学ソフトボール選手権大会は（主管：京都府ソフトボール協会、福知山ソフトボール協会、舞鶴市ソフトボール協会、後援：京都府他）、歴史と文化の町、京都府において男女別会場で実施しました。京都府協会に主管いただくのは2度目（第37回大会：宇治市）であり、大会運営も大変素晴らしく、各会場に多くのソフトボールファンが応援に詰め掛け大盛況のうちに終えることができました。主管くださいました京都府ソフトボール協会、福知山ソフトボール協会、舞鶴市ソフトボール協会および関係者の皆様の献身的な運営とご協力に厚く御礼申し上げます。

男子は国士舘大学が昨年に続き2連覇（通算3回目）を果たし、女子は園田学園女子大学が実に18年ぶりの4回目の優勝を遂げました。本大会は男女とも新旧の争いを今後も続けることが予測され、さらにレベルアップが期待されると思います。一昨年から学生役員は開会式の開会宣言や監督会議の受付等の役割を担うようになりましたが、今大会は閉会式の閉会宣言も行いました。今後は学生役員の役割が重要になるといえます。

後援しました東日本、西日本大学選手権大会およびオープン大会（5地区：7大会）は、関係者のご協力により成功裡に終えることができました。今後、オープン大会は全地区（9地区）での実施を目指していますが、そのためには学生役員の運営面での役割が必要となります。各地区の学生役員の組織の確立と学生役員相互の連携を図りたいと考えています。

本年度は男女とも国際大会に出場することができ、男子は(財)日本ソフトボール協会のご支援によりUSチャレンジシリーズに出場しました（参

加国はベネズエラがキャンセルし、アルゼンチンと3カ国）。会場と会期は女子のUSカップと同じであったことから、大変な盛り上がりでテレビ中継されました。予選リーグはUSAに勝ちましたが決勝で負け2位になり銀メダルを獲得しました。男子は過去3回のNZ遠征を行い地道に国際大会へ参加する機会を願っていただけに、この経験が活かされさらなる飛躍を期待したいものです。女子は(財)日本オリンピック委員会・ユニバーシアード委員会および(財)日本ソフトボール協会のご支援により、第24回ユニバーシアード競技大会（2007/バンコク）に出場し、銅メダルを獲得しました。過去2回の世界大学女子選手権大会において2回連続3位だっただけに、今回は「金メダル」を目指して挑戦しましたが残念ながら実現することができませんでした。しかし、早田選手団団長や瀬古JOC理事からは、参加した団体競技の中でソフトボールが唯一のメダルを獲得し、選手村でのソフトボール選手の生活態度が素晴らしいと高く評価されたことや、解団式で今後のソフトボール競技の発展と活躍を期待すると激励されたことは、特記すべきことであります。男女とも国際大会に参加できたことは学連としても画期的なことで在り、国際的にも活躍できる選手の育成を目指して取り組んでいきたいと思ひます。

また、加盟大学チームは地域との連携を図るため子供からハイシニアを対象にソフトボールの指導を推進したいと考えています。学生の皆さんには、ソフトボールの指導を通じて社会への貢献と普及活動に協力してくれることを願っています。

今後とも、関係者の皆様の絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

【報 告】 第1回 アメリカンチャレンジシリーズ報告

2007年 7月13日～15日

アメリカ・オクラホマ州 オクラホマシティ

KFC American Challenge Series (アメリカンチャレンジシリーズ)

この大会は女子の「第3回ワールドカップ (KFC WORLD CUP OF SOFTBALL)」と同時開催されるもので、女子ソフトボールの「オリンピック競技復活」だけでなく、「男子と揃ってのオリンピック競技入り」をめざすISF (国際ソフトボール連盟) の方針に則って開催されたものである。

大会会場: ASA National Softball Hall of
Fame & Stadium
2801 N.E. 50th St.

The National Softball Hall of Fame displays the history of softball and its greatest players. The ASA Hall of Fame Stadium is regarded as the nation's No.1 softball venue and hosts national and world-class competitions, including the NCAA Women's College World Series. (現地「案内」パンフレットより)
〔訳〕ASA・国立ソフトボール・ファーム・ホール&スタジアム
国立ソフトボール・ファーム・ホールは、ソフトボールの歴史と最も偉大なプレーヤーたちを展示している。ASAファーム・ホール・スタジアムは、国内No.1のソフトボール会場として知られており、国内競技会や、NCAA女子大学ワールド・シリーズを含む世界的規模の競技会を主催している。

※ASA(The Amateur Softball Association):

アマチュア・ソフトボール協会

※NCAA(National Collegiate Athletic Association):

全米大学体育協会

日本代表 (大学男子選抜)

【スタッフ】

団 長: 大内 敬哉 (全日本大学ソフトボール連盟会長・中京大学)

監 督: 高橋 伸次 (高崎経済大学)

コーチ: 石井賀一郎 (中京学院大学)

総 務: 森田 啓之 (兵庫教育大学)

通 訳: 谷 達也

〔支援: 中野元・濱貴一 (熊本学園大学) 〕

【投 手】小藤 透 (神戸学院大学: 4年)
山本 逸平 (国際武道大学: 4年)
米良 英起 (熊本学園大学: 3年)
諸見里 俊 (国土舘大学: 3年)

【捕 手】平山 靖 (福岡大学: 4年)
前田 貴則 (中京学院大学: 3年)

【内野手】浦本 大嗣 (国土舘大学: 4年)
上野 正典 (日本体育大学: 4年)
楠本 圭 (日本体育大学: 4年)
長岡 孝 (立命舘大学: 4年)
澤田 優生 (国土舘大学: 3年)
筒井 拓友 (日本体育大学: 3年)

【外野手】小田澤正紀 (国土舘大学: 4年)
安井 琢磨 (国土舘大学: 3年)
中西 健太 (中京学院大学: 3年)
福重 遙 (中京学院大学: 3年)
青山 紀彦 (早稲田大学: 3年)

【予選リーグ】

日本 (大学選抜・JPN): 3勝1敗・首位通過

アルゼンチン (ARG): 2勝2敗

アメリカ (USA): 1勝3敗

・第1戦 7月13日

ARG 4010010:6

JPN 0000000:0

投-捕: ●諸見里 (4回)・山本 (3回) -
平山 (4)・前田 (3回)

〔評〕 1回、満塁で「イリーガル・コール」され、得点を与えてしまう。その後も「イリーガル・コール」を受けるとともに、ストライク判定も納得できない状況で、リズムを完全に崩し4点を失う。3回にも相手適時打によって1点を失い、5回から代わった山本も6回に1点を失った。日本とは全く異なる主審のストライク・ゾーンや「イリーガル・コール」などによって、日本は完全に混乱状態に陥り、ペースを全くつかめないまま試合は終了してしまった。打線もこの試合わずか1安打と全くふるわなかった。"クセのある"国際審判のジャッジに戸惑いながら、この大会に前途多難さを感じさせる初戦となった。

・第2戦 7月13日

USA 3001100:5

JPN 310012x:7

投一捕:○小藤(7回)ー平山(7回)

本塁打:青山1号(1回)、福重1号(2回)

三塁打:福重、安井

〔評〕 1回、初戦同様、塁を埋めた状況で「イリーガル・コール」を2度受ける。それで、3失点となり、第一試合同様、雰囲気は悪くなった。しかしその裏、学生たちはこうしたジャッジに対して完全に開き直り、「勢いのある声」とともに気分を大いに盛り上げた。そこに、裏の攻撃に4番青山の3ランが飛び出し、氣勢が上がった。また、2回には9番福重が逆転ソロホームランを放ちリードした。中盤、アメリカに逆転されても慌てず、粘り強い試合展開をし、終盤の逆転につなげた。小藤ー平山のバッテリーは、緩急をつけながら左右の揺さぶりを巧みに操って相手を翻弄し、終盤を抑え切ったのが勝因といえる。

・第3戦 7月14日

JPN 3300000:6

ARG 0000000:0

投一捕:○米良(4回)・小藤(1回)・山本

(2回)ー前田(7回)

本塁打:筒井1号(1回)

二塁打:澤田、長岡、安井

〔評〕 なんといってもこの試合は投手陣が踏ん張

った。1回の立ち上がりで筒井が3ランを放ち、2回にも3得点して、投手陣の負担を軽くさせたのが勝因だった。米良が4回をノーヒットに抑えた後、その勢いで小藤、山本もノーヒット・ピッチングを行い、終わってみれば結局この試合をノーヒット・ノーランで完勝した。これで、諸見里を温存できた。

・第4戦 7月14日

JPN 0001120:4

USA 2000000:2

投一捕:○諸見里(7回)ー平山(7回)

本塁打:安井1号(6回)、青山2号(6回)

二塁打:安井

〔評〕 この試合は、諸見里ー平山の頑張りが勝因といえる。それによって、中盤から打線にリズムが出てきて、4回、5回にヒットや相手エラーなどで1点ずつ得点し、同点に追いついた。そして、6回2者連続のホームランで突き放した。この試合では、午後7時開始のゴールデン・タイムによる全米(ライブ)放送が行われており、日本の大学生チームの力を広く誇示することができた。歴史的勝利だった。同時に、スタジアム全体が「USAコール」が巻き起こるなど、完全アウェイの異様な雰囲気・環境だったことを考えると、大学生の頑張りは素晴らしかった。本当に見事な勝利だった。

【決勝トーナメント(最終順位決定戦)】

・順位決定戦

予選リーグ2位(ARG)対 同3位(USA)は9対13でアメリカが勝利。

・ファイナル(優勝決定戦) 7月15日

JPN 00000:0

USA 00214x:7(5回コールド)

投一捕:●小藤(4回)・山本(1/3)・米

良(0/3)ー平山(4回1/3)・

前田(0/3)

〔評〕 1回、2回となんとか0点に抑えた小藤だったが、3回に2点適時タイムリーを打たれ、その後アメリカのペースになってしまった。惜しむらくは、3回表にノーアウト1・2塁とチャンス

をつくりながらも、先取点をとれなかったのが痛かった。5回にも得点され、山本、米良と継投したものの、アメリカのパワーを止めることはできなかった。「国際試合」の教訓をいやと言うほど痛感させられた。

アメリカ主催のしかも第1回大会で、そのうえ大学生による日本代表に対しては、「決して負けない」・「なにがなんでも勝利する」という審判も含めたアメリカの「国際試合運営」にやられた感じだ。この「国際試合」経験を貴重な財産として、引き継いでいくことが大切ではなかろうか。それによって、今後「国際試合」に向けた取り組みをより内容のあるものにしていくことができるだろう。「したたかな」試合運びと打者、投手の「かけひき」など、この「国際試合」を通じて新たな次元での課題が明確になったように思える。

このような貴重な体験をしながら、2007年大学連盟（男子）は間違いなく新しい歴史的段階へと歩み出したことを実感している。

※「国際的審判」の特徴

- ・外角のボールは、「ボール」2つ分「外」でも、「ストライク」となる。
- ・外角を狙って踏み込んで「打つ」ため、内角の「ストライク」ボールが打者に当たった場合でも「デッドボール」になる。内角・真ん中低めの「ストライク」が必要。
- ・初回はとにかく「イリーガル・コール」が多い。

（文責：中野 元 ・ 濱 貴一）

現地でのトレーニング・コンディショニング

〈7月9日〉－入国当日－

午後3時ごろホテル到着。チェックイン後すぐにホテル周辺を散歩、軽いジョギング、ストレッチ、キャッチボール等で長旅の体をほぐす。

〈7月10日〉

午前9時から午前の部の練習が予定されていたが、前夜の雨の影響で練習会場の使用が禁止。会場周辺でのジョギング、キャッチボール等の軽い調整にとどまる。

午後3時からの午後の部では会場使用が許され、選手たちにとっては久しぶりのグラウンド練習となった。ウォーミングアップに十分な時間をかけて、その後キャッチボール、トスバッティング、ロングティー、フリーバッティング、シートノックで汗を流す。

〈7月11日〉

午前の部では、バッテリーと野手に別れての練習。バッテリーは遠投やブルペンでの投げ込みを行い、野手はフリーバッティング、シートノック、バント練習を行う。

午後の部では、シートノックの後、3チームに分かれてミニゲーム（各3イニング）を行う（ノーアウト・ランナー一塁×2回、ノーアウト・ランナー二塁×1回）。また、ランナー・三塁に対するフォーメーションの確認も行う。

〈7月12日〉－大会前日－

午前の部でランナー・三塁でのケースバッティング（含サインプレー）とゲームノック（表裏7イニング）を行う予定であったが、雨天のために実施できずホテル内で待機。

ようやく雨もあがった午後4時からキャッチボール、トスバッティング、シートノック、またバッテリーもブルペンでの軽めの調整を行う。

総評・反省

本事業への参加は、年度末（2007年3月）からの急展開の中でバタバタと準備が進められた。当初、新学期早々の平日開催という選手選考会、また本大会も前期末試験の直前開催、しかも自費参加という条件にどれだけの選手がエントリーしてくれるのか危惧していたが、全国から44名もの選手が集まってくれたことに大学男子選手の国際大会への期待の大きさを窺うことができた。

今回、大学選抜チームで本事業に参加できたことは、大学連盟はもとより多くの大学男子選手たちにとってもその意義は大きく、世界への視野が開けたことで、新たな目標とそのための取り組みが今後展開されてくるのではないかと思われる。またそれは、日本代表（ナショナルチーム）の予

備的存在である大学男子選手の総体的なレベルアップにもつながっていくものと考える。

大学選抜チームの健闘は、結果からもわかるように各国のナショナルチームに対してまったく引けをとらないものであった。とくに予選リーグでの1位通過は、大学選抜チームでも十分にその力が通用することを証明するものであり、大きな自信につながるものであった。かくしてその勢いで臨んだファイナルではあったが、チームとしてのつながりに欠け、流れをつくるができなかった。最後は国際経験の差が出たのではないかと感じている。

今回は、財政的な事情もありチームとしてのか

たちを整える強化合宿もできず、また現地での練習も実質一日半といった準備時間しか与えられなかった。個々の能力の高さで局面を開ききった側面はあるが、選手17名個々の性格をも含めた適性の把握が十分とはいえず、ゲームを作っていく上でのチームとしてのパラダイムを確立するまでには至らなかった。

このような反省をふまえて、次の機会には十分な準備期間を設けて臨まれることを期待するとともに、大学男子選手に、またこのような晴れの舞台を与えていただきますようお願い申し上げる次第です。(文責：高橋伸次)

2007男子アメリカン・チャレンジシリーズに参加して

団長 大 内 敬 哉 (全日本学連会長)

2007年7月13日(金)～15日(日)まで、アメリカ・オクラホマシティで開催された「第1回アメリカン・チャレンジシリーズ」に日本ソフトボール協会のご支援を賜り、全日本大学男子選抜チームが参加することができ、国際大会としての所期の目的を果たし、無事帰国できたことは、役員並びに選手諸君のご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。

思い起こせば、学連として男子チームの国際大会の出場は、長年の夢でありました。過去に女子選抜チームの参加は数回あり、本年の8月にもタイ・バンコックで挙行されました「第24回ユニバーシアード競技大会」に日本を代表して参加し、7ヶ国中銅メダル(第3位)という好成績で帰国しました。女子ソフトボールが、オリンピック種目として開催された1995年アメリカ・アトランタオリンピック以来、男子ソフトボール競技が何かと女子競技と比較され、その低調さが心配されて今日まで来たのでありますが、今般の大会は女子ソフトボールのオリンピック競技復活だけの問題

ではなく、男子とアベックでのオリンピック競技入りを目指すI.S.F(国際ソフトボール連盟)の方針に寄与する重要な大会の参加であり、私は団長としてその責任の重大さに愕然といたしましたのであります。しかしながら、日本ソフトボール協会のご協力により、現地での3日間の強化合宿期間を戴き、大会に臨むことができました。現地では連日40℃近い気温で、選手たちは酷暑との戦いでもあり、ベストな体調を維持することは困難でありましたが、ゲームには本当に日頃の練習の成果を発揮し、よく健闘してくれました。4ヶ国による大会でありましたが、ベネズエラが突如不参加となり、アメリカ、アルゼンチン、日本の3ヶ国で開催されることになりました。日本学生選抜チームは、当初より目標であったアメリカを相手に予選では2勝し、予選第1位で決勝戦に臨んだのでありますが、国際大会での勝ち方とはそんな簡単なものではなく、予選では1位であっても最終の1敗で第2位となり涙を吞みました。

この大会では優勝こそできなかったものの、我

がチームにとっては誠に貴重な経験をさせて頂きました。今回の貴重な経験を礎とし鋭意努力し、今後に備えたく存ずる次第であります。特に今般の遠征では、日本ソフトボール協会の尾崎専務理事と現地でお逢いでき、何かとお世話になり、更に日本女子代表Aチームの井川総監督、斉藤監督、浦野コーチ、その他選手の皆さんにも会い、ゲー

ムも観戦することができました。本当に有意義な遠征でありました。

最後になりましたが、我がチームの高橋監督以下、スタッフの皆さん、現地まで応援に駆けつけて下さった熊本学園大学の中野部長、濱監督にも心より謝意を申し上げます。

誇らしげに、選手とともに歴史的な第一歩を刻む

監督 高 橋 伸 次（高崎経済大学）

渡米を翌日に控えた前夜、ホテル内のこぢんまりとした地下ロビーで簡単な結団式が行われた。団長でもある大内会長の第一声は、今回の国際大会への出場が大学連盟にとっていかに歴史的なことであるかということ、そしてその第一陣としての意識と、あくまでも学生スポーツマンとしての態度を促すものであった。凜とした空気のなかで「JAPAN」のユニフォームを手にした彼らの顔は忘れられない。実に誇らしげで頼もしいものであった。

これまで、大学男子には女子のような強化目標となる国際大会がなく、大学連盟内に置かれている選手強化委員会においても、とりわけ男子については、かかる強化に向けてのモチベーションは必ずしも高いとはいえない状態が続いていた。今回のことは、この前月に新たに開催された「ISF男子ワールドカップ」にナショナルチームが参加したことによる代役という感は否めないが、大学男子にとっては、思いもかけない大きな目標を得たその意義には大きいものがある。この、世界につながる道が開けたことの意味は、大学における男子強化のための手段が具体化していくだけでなく、また今や、大学選手は日本代表の予備的存在でもあり、大学選手の総体的なレベルアップが国際競技力の向上に資することになるであろう、ということからも理解できよう。

ところで、日本協会からの全面的なバックアップが望めないかたちの本事業は、したがって運営的にも、また特に財政的な面において恵まれない環境であった。そのため、関係スタッフはもとより選手にもさまざまな負担を強いることになった。しかしそのことによって、逆に大学連盟が選手選考から出国・帰国までのすべてを主導的かつ自立的な立場で運営できたことは、大学連盟の組織的自信として大きな産物となった。選手とともに、まさに手作りで成し遂げることができたことは、大学連盟全体としても誇れることではないだろうか。

かくして、現地でのわずかな準備だけで臨んだ大会ではあったが、各国のナショナルチームに対しても怯まない戦いぶりを見せてくれた。それは、大学生チームでも十分に世界と戦えることを証明するものであった。しかしその一方で、自分たちの戦い方ができたかどうかについての評価には心許なさを感じている。というのも、今回は選手個々の適性を把握できる十分な時間がなく、ゲームを作っていく上でのチームとしてのパラダイムが見えない中での戦いであったからである。それだけに、選手たちにも多くの戸惑いを感じさせたであろうし、結局は個々の能力の高さに頼った局面づくりに終始したのではないかと思っている。そういった手探り状態の中にあってもなお、自分の

役割を見失うことなく澁刺とプレイしてくれた選手たちは実に逞しいものであったし、何よりも経験豊かな石井コーチの存在は心強いものであった。大学男子チームとしての国際試合初勝利は、7月13日午後7時プレイボールの対アメリカ戦であった。誰もが、歴史的瞬間に立ち会えたことに感動した記念すべき夜であった。

思い起こせば、5月15日の選手選考会には全国から44名もの選手が集まってくれた。こころの準備

も何もない、ただただ慌ただしい参会ではなかっただろうか。このことに、彼らの国際大会への期待の大きさを窺うことができたし、大学男子を取り巻くこれまでの環境に足りなかったものがはっきりと見えたような気がした。

あの日からわずか2ヶ月。この歴史的な第一歩は、その期待を胸に駆けつけてくれた多くの選手とともに刻むことのできた足跡であると思っている。

2007年男子ソフトボール第1回USAチャレンジシリーズを終えて

コーチ 石井 賀一郎（中京学院大学）

大学連盟としては従来、4年に1回選抜チームを編成し海外遠征を実施、世界に目を向けて少しでも視野を広げていただく取り組みをしていました。今回、日本ソフトボール協会からの暖かいご配慮もいただき、男子では初めて開催されるUSAチャレンジシリーズへ大学生選抜チームを編成しての参加が決定されました。USAチャレンジシリーズは従来のような親善試合を中心とした遠征ではなく、一つの権威ある大会への参加として勝つことと将来の選手育成を目的としたものでありました。

参加決定されてから大会までの期間も短く、先ずは各支部からの推薦書類選考及び実技選考等をあわただしく進めましたが、技術的にも推薦された優秀な選手の集まりなので優劣がつけにくく最終選考にはかなり時間を費やすことになりました。更に、スタッフ一同頭を悩ませたのは大会まで強化合宿も出来ず、この若いチームがアメリカやアルゼンチン相手にとどれだけ戦えるか読めない状況であり不安材料もかなりありました。

そんな不安を抱えながらのスタートでありましたが、現地に着いてからゆったりとした感じから徐々に大会に向けての緊張感も増し、特にメインスタジアムを目の前にした時にはその設備のすご

さに選手は勿論のこと、私たちスタッフも更に良い緊張感が生まれてきました。

大会初日、相手はアルゼンチン、選手は少し緊張気味、まあ仕方ないでしょう・・・！

先ずは初戦、勝てば自信がつくだろうし、負けても最終トーナメントに向けての調整と、高橋監督とも話し合いながら試合に挑みましたが、結果は敗退。しかし今後の戦うヒントも得られた試合でした。

次はアメリカ戦、今大会で優勝するためには何とか越えなければならない壁でありました。高橋監督にも少し緊張が見えるが、持ち前の高橋スマイルで徐々に試合前練習で程よい緊張に変わっていったように感じられました。結果はなんと思わぬ勝利、金星ですよ！ 緩急を使った配球によりアメリカ打線を抑えた小藤投手とうまく絡んだ打線により掴んだ勝利はこのチームを変えた一つのポイントでもありました。

予選ラウンドは2試合総当りで2位以下でも1試合多く試合が出来る可能性があって、特に1位通過という意識はなかったのが幸いしたのか、続くアルゼンチン戦、アメリカ戦と2連勝してまさかの1位通過でした。アメリカ戦ではテレビ生放映ということで、多分不利な厳しい展開になると

予想していましたが予想に反して圧勝、若い力と自信がこの短期間でこんなにたくましく成長したチームを見た一面でした。

決勝戦では予想通りアメリカが勝ちあがってきました。予選では2勝しているだけに優勝も不可能ではないと日本チームもかなり盛り上がりを見せました。「相手も必死で来るだろう。力のあるチームですので簡単には勝たせてくれない。しかし、今の日本チームには勢いがある。選手は意外とリラックスしている。何とか勝たせてあげたい！」という気持ちであるがゆえに、心配も大きい……！ 結果は惜しくも敗退し2位で終わりましたが、善戦したこの若い日本チームに対して私はよく頑張ったと心からエールを送りたい。

今回の大会を通じて、若い選手が将来夢を持って全日本を目指し、大学を卒業してもソフトボールに携わっていただければ幸いです。社会へ出て全日本のメンバーとして選ばれたことを誇りにし、決して驕らず模範となるような考えや行動をし、信頼される人材になってもらえると信じています。

最後に、日本ソフトボール協会、大学連盟ならびに大内団長、高橋監督、森田総務及び関係者の皆様方には本当にお世話になりました。貴重な経験をさせて頂いた事に心から感謝しております。選手の皆さん、良き思い出をいただき本当にありがとうございました。今後の皆様方の活躍を期待しております。

ソフトボールの“聖地”での「世界との（での）戦い」

総務 森田啓之（兵庫教育大学）

今回のアメリカ遠征は私にとって、これまでに参加した学連主催のニュージーランド遠征とは異なる、まさに初めての「世界との戦い」であった。参加した全員が感じていたように、日本代表としてプレイすることの重みは裏方の自分も予め分かっているつもりだったが、実際に経験するのとは大違いであった。以下、その中で気づいたことを今後に向けて記しておきたい。

まず、「世界と（で）戦う」ためには、様々な面での「タフさ」と「適応能力」が必要とされるということである。今回の競技場は素晴らしかったが、それであっても午前中は外野の芝生に含まれた夜露により、日頃と同じような感覚でスローインや守備をすることは難しかった。力加減を調整しながらプレイをすることが要求された。他の海外での公式戦では、荒れ地のようなグラウンドで試合をすることさえあるとも聞く。そのような中でまさに重要なのが、「タフさ」と「適応能力」であろう。日本では親心的に、「できるだけ

いい環境で日頃の力を発揮させてやりたい」と考え、素晴らしい環境が用意されることが多いが、「身体的卓越性を競う」場では「同じ条件下」であれば問題はないのである。たとえ不十分な環境であっても、それを受け入れてプレイを修正したり調整したりすることが第一に求められると思う。もちろん、この能力はプレイ面のみに限定されない。食事や休養しかりである。ちなみに、今回の遠征では、私はこんなに頻繁にMacバーガーを食べたことはない！というくらい口にした（笑）。選手にとっても、すべてが慣れない環境であるため、それへの一早い「慣れ」が要求される。幸いなことに、今回のメンバーは本当にタフなメンバーであったが、今後に向けては、日頃から「自分をコントロールする習慣」を身につけておかねばならないと感じた。

二つめは、上記と関わるが、日頃からの「指導」の重要性である。一般に、大学生は一部のチームを除いて、継続的に関わっている指導者を有

するチームはほとんどない。言葉はよくないかもしれないが、「自分たちだけで」あるいは「高校までの貯金だけで」プレイをしているといつてよいだろう。もちろん、このことが「自分で考えるプレーヤー」を育てることになっていることも否定しないが、「より高度なソフトボール（戦術を駆使したチーム戦）」を展開しようとする場合には、世界のソフトボールを視野に入れた指導や助言が必要となる。今後は、定期的に強化に向けた実践的練習を継続的にしなければならないと痛感している。そのためには、チームの利害を越えて、「日本のソフトボール」という視点を関係者が持たねばならないと思われる。

また、今回訪れたオクラホマは、まさにソフトボールの聖地と呼ばれている通り、ソフトボール博物館（大きくはないが、スポーツ文化について考えている私には大変刺激的な場所だった）の存在だけでなく、そこで運営等に携わっている方々、参加者がみな「ソフトボールの愛好家」であった。日本協会においても、ソフトボールを普及させる取り組みが本格的にスタートしたと聞くが、「ソフトボールって素晴らしい！後々まで伝えていかねば！」と思う人々をいかに育てていくかは大きな課題であると痛切に感じた。

最後に、今回の遠征に関して、協会、学連他、多くの人にお世話になった。お礼を言いたい。

アメリカンチャレンジシリーズ参加選手のコメント集

アメリカ遠征での経験

浦本大嗣（国土舘大学4年）

自分にとって初めての国際大会でした！

去年、大学選抜としてニュージーランドで国際試合を経験していたので、緊張やプレッシャーは特になく、いい緊張感がありました。最終的には準優勝と悔やまれる成績でしたが、チームは試合をこなすごとにどんどん強くなっていったと思います。また、このシリーズではキャプテンを任されたので、チームを一つにすることを一番に考えてやりました。ただ、本来ならキャプテンがみんなを励まして引っ張らなければいけないのですが、自分の結果が思うように行かず、逆に励まされてばかり、ホント申し訳ない気持ちでした。

この経験を絶対に忘れることなく、もっと成長し、次に生かしたいと思います。そして、叶うことならまたこのメンバーでチームを作って試合をしたいです。高橋監督を始め、スタッフの皆様には大変お世話になりました。スタッフを始め、メンバーのみんな、また試合等で会う機会があると思いますが、その時はまた色々な話ができると嬉しいです。本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

日本代表で感じたこと

平山 靖（福岡大学4年）

今回運良く大学選抜に選んでいただいて、初めて海外で行われる公式試合に参加させていただきました。強化遠征という形では行ったこともあったのですが、やはり公式戦となると雰囲気が全然違うということに、まず驚きました。ニュージーランドやオーストラリアがいない大会だったので、絶対に勝たないといけないというプレッシャーも感じました。そして、実際に試合をして感じたことは、「自分がやろうと思っていることを貫く」という点と、「臨機応変な部分」を「うまく合わせないといけない」点です。特に、私は捕手でリードが守りにばかり入ってしまって、裏をかいていくことや、勝負にいくことがあまり出来ず、決勝ではやられてしまいました。

しかし、今後に向けての課題も見えてきたので、さらに上を目指して頑張りたいと思います。最後になりますが、今回お世話になりましたスタッフ、チームメイトの皆さん、本当にありがとうございました。これからも、ソフトボールを通じてお会い出来ることを楽しみにしています。

アメリカンチャレンジシリーズに出場して

楠本 圭（日本体育大学4年）

今回アメリカンチャレンジシリーズに出場してたくさんのことを学びました！

まず学生の選抜チームということで、全員が大学生で今回の大会に出場しましたが、初めは他のチームの選手と一つのチームとしてチームワークや連携をとるのも難しかったです。しかし、日にちが経つにつれてすぐにみんな仲良くなり、自ら他の選手に話しかけたりと、楽しくソフトボールができました。今回のアメリカンチャレンジシリーズは男子・女子と合同で大会が行われていました。特に私がビックリしたのは、アメリカはソフトボールの発祥の地ということもあって、とてもソフトボールというスポーツがメジャーな扱いをされているということです。特に女子は世界一のチームなのでファンや観客、グラウンドでの盛り上がり方がとても印象に残っています。そんな大会に参加できたのがとても嬉しかったです。自分達日本の男子は最終的にはアメリカに敗れて準優勝という成績でしたが、アメリカと対戦したメインゲームはテレビ放送もされ、その中で勝てたことがとても嬉しかったです！

今回大学生を代表として大会に出場したとはいえ、「日本代表チーム」として見られる中で技術だけでなく、マナーや、チームの一員としてやるべきことなど、本当にいい経験ができました！監督の高橋先生を中心としたとてもいいチームで試合に臨めたと思います。他のチームの選手とソフトボールの話をして勉強になったこともたくさんありますし、これからソフトボールをやって行く上でプラスになることばかりでした。何よりも一番自分が感じたこと、経験できたこと、誇れることは、最高の仲間が出来てその中でソフトボールができたことだと思います。また来年からもアメリカンチャレンジカップがあると思いますが、日本の大学生の強さをこれからもどんどん世界に広めて行けるように後輩達にも頑張ってもらいたいです。そしてたくさんの人にこの遠征の素晴らしさを感じてほしいので是非参加してほしいと思い

ます。最後に監督をはじめ、スタッフのみなさん、ありがとうございました。

アメリカンチャレンジシリーズに参加して

小田澤正紀（国士舘大学4年）

今回の遠征ではスピード、パワーともに、アメリカなど他国の選手との力の差を感じました。また、普段は違うチームでプレイしている同年代の選手たちと一緒に日本を代表して、一つのチームとして戦えたことは貴重な経験でした。レベルの高い選手の中でプレイできたことは良い刺激でもあり、これらの経験を活かして今後も取り組んでいきたいと思います。

アメリカ・チャレンジシリーズに参加して

上野正典（日本体育大学4年）

今回、学生選抜という形で「アメリカ・チャレンジシリーズ」に出場して、まず他の選手と同様、私自身も日の丸を背負ってプレイすることへのプレッシャーや、重みを感じていました。しかし、実際に試合に入ると、皆すごく集中しており、素晴らしいチームだという印象を受けました。個々の能力も高く、また一人ひとりの役割もお互いが分かっているかのように円滑に行動することができたように思います。試合以外でも積極的にコミュニケーションを図ったり、挨拶を交わしたりなど、ごく当たり前のことを海外で行えたのは人間性を高め、今後も活かせる重要な点であったように感じています。

最後に、チーム内、海外のチーム・選手から得たもの、そしてこのチームでプレイできた事を誇りに思います。

アメリカンチャレンジシリーズに出場して

長岡 孝（立命館大学4年）

私はこの大会に参加させていただき、各国の代表と戦うことで多くの貴重な体験をすることができました。それは「世界で勝つことの難しさ」を痛感させられたことです。日本で当たり前のようになっているプレイが通用しない上、絶対的なパワ

一の違いが大きな壁となりました。どうすれば勝てるのか？それを自らが考え、プレイに実行できる能力を兼ね備えてこそ、日本の代表として戦う良いプレイヤーなのではないかと感じました。難しいことのように思うかもしれませんが、日頃の国内における大会でも自分が所属するチームの名を背負い、勝利をつかむために何をすべきかを各々が考え、実行する能力を養うことが、日本のレベル向上や世界で勝てる国へとになっていくのではないかと思います。

今回、この大会に携わっていただいたすべての方々に感謝すると共に、この経験を活かし、今まで以上に努力していきたいと思います。

初めての国際試合を経験して

山本逸平（国際武道大学4年）

私は、7月13日から15日に行われた第1回アメリカンチャレンジシリーズに参加させてもらいました。私自身初めての海外での試合ということもあり、かなり緊張しました。大会は第1回ということもあって、3チームの参加にとどまりましたが、色々と勉強になりました。個人的には国際ボールの感覚をつかむのに一番苦労しました。試合は、予選でアルゼンチンに1勝1敗、アメリカに2勝して1位で通過することができました。決勝トーナメントでは、残念ながらアメリカに負けて2位という結果でしたが、海外チームのピッチャーの素晴らしさや日本人打者とのパワーの違いや国際試合の怖さ、楽しさを学ぶことができました。私は大学卒業後、指導者として、クラブチームでプレイヤーとしてソフトボールに携わるので、この経験と学んだことを今後のソフトボール人生に生かしていきたいと思います。また、大学生活最後に良い思い出を作ることができて、大会に参加して本当によかったです。

第1回アメリカンチャレンジシリーズを終えて

小藤 透（神戸学院大学4年）

私は今回の遠征で、日本代表としての遠征が三度目となりました。一回目は高校生のときにオー

ストラリア遠征に、二回目はU23日本代表でニュージーランドへ、そして今回は大学選抜としてアメリカンチャレンジシリーズへ行かせて頂きました。日本代表として三度も貴重な経験をさせて頂き、とても感謝しております。

今回が三度目ということもあり、私自身とてもリラックスした状態の中で今回の大会に臨むことが出来ました。現地に到着してからチームのみんなとうまくコミュニケーションをとることができ、今回の遠征は実りある遠征になったと実感しております。私はアメリカ戦を2試合先発させていただいたのですが、不安や緊張が高まる中で、自分の持ち味、魅力を発揮することが出来たと思っております。

この経験を自分の将来のソフトボールに役立てていき、大学選抜やU23日本代表でとどまることなく、ナショナルチームに選出されるよう努力していきます。そして日本のソフトボールの一角を担える人材になっていきたいと思います。

はじめての海外遠征

中西健太（中京学院大学3年）

今回、USAチャレンジシリーズ大会に日本代表として参加させていただいたことを深く感謝しています。私自身、日本代表として海外へ行くことは初めての経験であり、異国の地で試合をするにあたり不安はかなりありましたが、その反面、嬉しさと期待感で程よい緊張感で臨むことができました。

試合前にUSA、アルゼンチンの選手を見たときには、日本人とは体格も違い圧倒されましたが、試合に入ればそんなことは関係なくプレイに集中することができました。また、異国の地でソフトボールを通じて文化も生活も違う人たちと交流を持てたことは、私にとって試合の勝敗以上にかけがえのない経験だったと思います。この貴重な体験を通じて、ソフトボールに関しては自分自身まだまだ力が無いことを痛感しました。これからこの経験を忘れずにこれからの大学生活・ソフトボール人生へ更なる飛躍ができるように頑張り、後輩

にこの貴重な経験を語り継ぎたいと思います。

自信が持てた海外遠征

福重 遥（中京学院大学3年）

海外試合で先ず感じたことは、外国の選手は一般的にしっかりとバットを振っているということです。自分の当てにいくバッティングと比較して、力強いスイングは魅力であり、大変勉強になりました。また、この海外遠征では打席に入るのがすごく楽しみでした。投手も日本と違い、どんどん力で押してくるので、力強く振り抜くことに集中し結果が出たことが自分自身に大きな自信を与えてくれました。日本人選手は外国でも立派に通用すると思います！

試合以外では他大学の先輩や同期の選手とも交流が持て、ソフトボールに関することは勿論、それ以外のことでたくさん話が出来たのは大変プラスになりました。今後もこのような大会に参加出来る機会を大学生にも増やしていただき、より多くの選手に経験してってもらいたいと思います。今回この大会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

もう一度参加したい！

前田貴則（中京学院大学3年）

今回、第1回のUSAチャレンジシリーズに参加できたことに対して大変嬉しく思います。

この大会に参加させていただき、大変多くの事を学ぶことができました。技術面だけでなく、他の大学のチームメイトとも交流を深められ、一致団結して自分も日本代表として一生懸命頑張ることができました。

海外は環境も違い時差もあります。日本ではあまり意識もしなかったことですが、大会期間中の体調管理には気を遣いました。その他、色々な面でいい経験をさせていただき、それらを活かして数少ない国際試合に再度力をつけてチャレンジ出来るように頑張りたいと思います。

アメリカ遠征を終えて

米良英起（熊本学園大学3年）

今回のアメリカ遠征を終えての自分にとっての大きな収穫は、異文化の地でソフトボールをすることができた点です。初めての海外遠征ということで出国前は緊張や、不安な気持ちもありましたが、アメリカについて3日間ほど練習を重ねるうちにメンバーとも打ち解け合えて心も体もベストの状態です。試合に臨むことができました。試合の方は、アルゼンチン戦に先発させてもらったのですが、周りにも助けられ4回を無失点に抑えることができ、自分にとって大きな自信になりました。この経験を今後のソフトボール人生にも生かし、「挑戦者の心と感謝の心」を胸にさらに上のレベルを目指し頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

日の丸を背負って

青山紀彦（早稲田大学3年）

記念すべき“第1回アメリカンチャレンジシリーズ”に大学日本代表とはいえ日の丸を背負い、一国の代表として出場できたことを光栄に思い、そして誇りに思います。また、その“光栄”・“誇り”という言葉の裏には、比例して緊張や不安というものがありました。

そんな誇りあり緊張ありで臨んだ国際大会ではありましたが、多くを学ぶことができ、感じ取ることができました。それは好プレイを当たり前のようにして、その中で気持ちを全面に出してプレイするのが世界で通用するソフトボールだということです。よく言われる“一打席一打席、一球一球を大事に”しなければならぬ、これに付け加えて“一瞬一瞬を大事に”しなければ世界では通用しないのではないかと思います。

今回の国際大会を通じ、私は多く得るものがありました。私はそれを糧に精進していき、更なる高みを目指していきたいと強く思うようになりました。



【報 告】

第24回ユニバーシアード競技大会

2007年 8 月 8 日～19日

タイ バンコク

ソフトボール競技は、ユニバーシアード競技大会（タイ・バンコク）のオープン種目として初めて参加しました。この派遣事業は、(財)日本ソフトボール協会および(財)日本オリンピック委員会のご支援によるものであります。関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

FISUの公認大会である世界女子大学選手権大会は、過去に2回開催されいずれも参加していますが、学生のオリンピックと称されているユニバーシアード競技大会にオープン種目とはいえ参加できたことは、大学ソフトボール界にとって更なる発展を期す絶好の機会となりました。

大学チームは、選手選考会（参加選手44名）を4月20日～22日まで伊豆市において実施し17名を選考しました。選手選考は、(財)日本ソフトボール協会選手強化本部委員とヘッドコーチによって行われ、また、今回の選手選考会には、大学連盟の選手強化委員2名（女子担当）も協力員として選考会をサポートしました。

大学チームは、2回の強化合宿（6月28日～7月1日および7月21日～24日）を伊豆市において行いました。両強化合宿には、男子大学生（投手2名、捕手2名）の協力を得てバッティングの向上を、また、男子チームとの練習試合を組みスピードの強化にも努めました。さらに、日本リーグ1部女子チーム（3チーム）との練習試合を行い、チームとしての課題および選手個々の課題を明確にし、大会までに向上・強化することに努めました。

また、国立スポーツ科学センターにおける選手の身体能力テストや血液検査の結果から、早急に取り組む課題（身体機能の強化および食生活の改善とサプリメントの摂取）が明らかになり、課題のある選手にはチームドクターおよびトレーナーから、大会までに取り組まなければならない具体的な対策の指導が行われました。

チームはこれまでの国際大会の経験を活かして、選手とヘッドコーチ・コーチ・マネージャー・チームドクター・トレーナー全員が一丸となって「金メダル」の目指すことを誓いました、

そして、チームのキーワードは「執念」としました。（末井健作）

日本代表（大学女子選抜）

【役員・スタッフ】

チームリーダー：末井 健作(兵庫県立大学)

監 督：久保田豊司(大阪国際大学)

コーチ：舟山 健一(東北福祉大学)

コーチ：木田 京子(園田学園女子大学)

総 務：藤井まり子(日本ソフトボール協会)

ドクター：山下 義則(香川県白鳥病院附属津田診療所)

トレーナー：篠崎 仁美(株式会社製作所)

【投 手】上村さつき(大阪大谷大学)

重藤恵理佳(日本体育大学)

高橋 真弓(東北福祉大学)

山口 憲子(園田学園女子大学)

【捕 手】鹿島 唯(日本体育大学)

渡邊 華月(園田学園女子大学)

【内野手】池原 恵(園田学園女子大学)

井上 愛(東北福祉大学)

小柳 薫(東京女子体育大学)

加藤 恵里(東北福祉大学)

佐々木 瞳(富士大学)

高橋あゆみ(日本体育大学)

森田 涼(園田学園女子大学)

【外野手】岡本 由香(大阪国際大学)

亀本 伊純(龍谷大学)

城戸絵理沙(東京女子体育大学)

森 さやか(東京女子体育大学)

(守備位置別五十音順)

【日程】

8月6日(月)：日本出発
 8月7日(火)：調整練習
 8月8日(水)：調整練習 総合開会式
 8月9日(木)：調整練習
 8月10日(金)：調整練習 テクニカルミーティング
 8月11日(土)：予選オーストラリア戦0-2
 8月12日(日)：予選アメリカ戦2-3
 予選チェコ戦(サスペンデッドゲーム)
 8月13日(月)：予選韓国戦1-2
 サスペンデッドのチェコ戦
 7-0
 8月14日(火)：予備日 OFF
 8月15日(水)：2thフェイズ イタリア戦2-0
 8月16日(木)：プレイオフ アメリカ戦9-1
 ：ペーシシステム オーストラリア戦
 3-2
 8月17日(金)：ファイナル 台湾戦0-7
 3位：銅メダル決定
 8月18日(土)：総合閉会式
 8月19日(日)：解団式 タイ出発

【予選リーグイニングスコア】

・第1戦(8月11日)
 JPN 0000000 : 0
 AUS 200000x : 2
 投一捕：●上村一渡邊

・第2戦(8月12日)
 JPN 2000000 : 2
 USA 0200001x : 3
 投一捕：●高橋一渡邊

・第3戦(8月13日)
 KOR 0000002 : 2
 JPN 0100000 : 1
 投一捕：上村・●重藤・上村一渡邊
 三塁打：池原

・第4戦(8月13日)
 CZE 00000 : 0
 JPN 0340x : 7 (5回コールド)

投一捕：○山口・高橋一渡邊

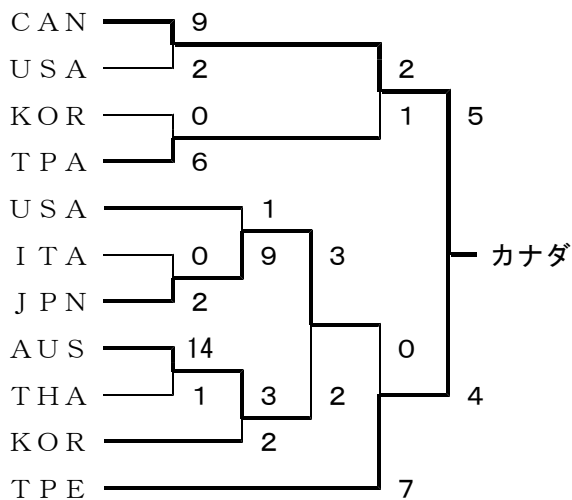
本塁打：森、二塁打：池原

【予選リーグ戦結果】

予選A	C	TP	TH	I	R	勝 敗	順
CAN	*	○	○	○	○	4-0	1
TPA	●	*	○	○	○	3-1	2
THA	●	●	*	●	○	1-3	4
ITA	●	●	○	*	○	2-2	3
RSA	●	●	●	●	*	0-4	5

予選B	U	J	A	K	C	勝 敗	順
USA	*	○	○	●	○	3-1	2
JPN	●	*	●	●	○	1-3	4
AUS	●	○	*	●	○	2-2	3
KOR	○	○	○	*	○	4-0	1
CZE	●	●	●	●	*	0-4	5

【決勝トーナメント結果】



※国名の略称

CAN：カナダ、TPA：台湾、THA：タイ、

ITA：イタリア、RSA：南アメリカ

USA：アメリカ、AUS：オーストラリア、

KOR：韓国、CZE：チェコ

【決勝トーナメントリーグイニングスコア】

・3位/4位戦(8月15日)

JPN 2000000 : 2

ITA 0000000 : 0

投一捕：○高橋・重藤・山口一渡邊・鹿島

・渡邊

・2回戦(8月16日)

JPN 010242:9
USA 000100:1(6回コールド)

投一捕:○高橋・重藤・上村一渡邊

三塁打:池原、小柳、加藤2

・準々決勝(8月16日)

AUS 00001001:2
JPN 00000012x:3

投一捕:○山口一渡邊

三塁打:小柳

・3位決定戦(8月17日)

TPA 312001:7
JPN 000000:0(6回コールド)

投一捕:●高橋・山口一渡邊

ユニバーシアード参加選手のレポート

ここでは、選手が第24回ユニバーシアード大会で得た貴重な体験を、・国際試合に出場して、・日本チーム、・外国の選手との違い、・コンディショニング(体調管理)、・後輩または海外で試合をするためのアドバイス等について報告します。

上村 さつき(大阪大谷大学4年生)

私は、昨年に引き続いての国際大会出場だったので、ストライクゾーンの違い、海外の選手の特徴がどんな感じかも分かっていたので、今回はどんな試合が出来るのかとても楽しみにしていました。

日本の選手と海外の選手の違いとして改めて感じることは、やはり体格の違いとパワーの違いでした。いろんな国によって違いはありますが、共通して感じたことは打撃力の強さはとても強いということでした。私はピッチャーなので、海外の選手と投手として対戦しましたが、日本の選手に比べて1球に対し迷いなく思い切りスイングする選手が多く、相手選手が空振りするだけですごい圧力を感じる事が多くありました。しかし、打ち損ないやフライといった打球になると全力で1塁ベースまで走らない選手も多く、また、守備も来たボールを捕って投げるといった形にこだわらない外国人らしい大雑把な一面も見え、日本ではあまり見られない所も多くありました。

今回は、現地の気候を事前に知る事が出来ていたこともあり、体調を崩す事も無く気候に対応する準備も出来たので苦労はしませんでした。しかし、そんな中でも私が最も困ったのは、やはり食事面です。好きな物が食べられない、食べ物の味

が口に合わないことや、臭いや調理の仕方の違いなどのことで、現地に行かないと分からない事もあり、それがとても困りました。

今大会を振り返り、海外試合を経験するにあたって私が一番大事だと思う事は、常に向かっていく気持ち、また、失敗や負けを引きずらないといった精神面の強さだと感じました。毎日連戦をする中で疲労や疲れも溜まります。慣れない環境での生活でストレスも感じると思います。しかし、それが海外で戦うという事だと思います。最後の決勝トーナメントとなると、もう最後は勝ちたいという気持ちと気持ちのぶつかり合いです。だからいかにそこまで気持ちを持って行くか・・・それが海外試合ではとても大切だと思います。

私はチームの為に何が出来たでしょうか？ 私には何が足りなかったのか？ 何故結果を残せなかったのか？という事をとても考えました。大学選抜チームの一員として選んで頂き、素晴らしい経験をさせて頂いた反面、その期待に答える事が出来ず、自分自身が情けなくとても悔しい経験にもなりました。また、試合に出られない状況での少ないチャンスをものにしないといけない難しさ、いつそのチャンスが回ってくるか分からない中で、の気持ちや心の準備の仕方など、今まで味わった事の無い精神面での経験もしました。しかし、き

つとこの経験が無かったら私はこの先成長しないと思います。レギュラーが当たり前で試合に出て勝って喜んで、負けて悔しがって、それだけがチームプレイではない事、ベンチで応援する事がレギュラー選手と同じくらい疲れる事、私が試合に出る事でこれだけ悔しい思いをしている人がいる事に気付いたからです。応援してもらう事、チームの代表として日本の代表でプレイする事にもっと感謝しないといけない事、それだけの自覚と責任がある事を改めて実感し、この先の私のソフトボール生活や人生にも生かせるとても良い経験だと思います。最後になりましたが、私にこの様な貴重な経験をさせて頂いたスタッフ・コーチ・ソフトボール関係者の皆様、本当にありがとうございました。この経験を無駄にする事がない様に、また、この悔しい経験、この素晴らしい経験を忘れないでこの先も頑張りたいと思います。

重藤 恵理佳（日本体育大学1年生）

生まれて初めての国際大会だったので、タイに行くのがとても楽しみでした。選手村ではいろいろな国の選手と毎日顔を合わせ、国際試合はスケールが違うなと思いました。最初の頃は、外を歩くことが楽しくて仕方がありませんでした。それと同時に、各国の代表選手と同じ場所にいられることがとても嬉しく、光栄なことだと思いました。そして、世界のソフトボール選手と試合が出来るという事と、自分は世界にどの程度通用するのか、相手チームに胸を借りて思いっきりソフトボールをやろうという気持ちがありました。

外国の選手に対しては、ちょっと先入観がはいついてなんだか恐い気がしました。それに、アメリカの選手などは、日本の選手に比べてとても大きく体格が良いのに加え、すごく勝負強く力があります。試合ではどんなに有利になっても、最後まで気を抜いてはいけなかったと思います。日本のチームは守備が上手く、走力、打力もありました。海外の選手のように、あと少し勝負強くなったら必ず勝てると思います。

コンディショニング調整は、食事が一番大事だ

と思います。海外だといつものようにはいきません。しっかりコントロールしないと体調が悪くなります。試合前は、自分の役目を考えアップすることも必要だと思いました。体調に異変がある場合は、すぐにトレーナーさんに相談するのが一番いいと思います。

世界で勝つためには、当たり前のことですが、外国の選手だからといって気後れするのではなく、普段通りのプレイをすることが一番でした。自分に自信をもって思いっきりプレイすれば、必ず良い結果が得られます。そして、海外に行く時は、日本から食料を持っていったほうが良いです。

高橋 真弓（東北福祉大学3年生）

2007年タイ・バンコクで開催されたユニバーシアード大会に参加して、様々な国との試合を経て一番感じたことは、ほんの一瞬でも集中力が途切れ少しでも弱気な気持ちが出てしまえば、チームの勝敗を分けてしまうことを強く感じました。後が無い試合が続く中で、常に高い集中力が求められます。一瞬の迷いや負けてしまうと思ったその時点で勝負は決まります。

大舞台で一番大切な事はどんな状況でも諦めない、チームを信じ、自分を信じることだと強く実感しました。その為には、日頃から自分が掲げている目標を達成していくことを積み重ね、それにより自信が生まれ、「信じる」自信に繋がってくると思います。

試合前のコンディショニングに関しては、湿度・気温共に高い環境の中で試合を行うので、一番気を付けるのは水分補給をしっかり行い体温調整をする事だと思いました。試合中は熱が体にこもるのを避ける為に、常に氷嚢を関節部分や後頭部に当てて熱を逃すかが大事になると思います。

私は海外の試合を経験して、選手、チームを支えてくれるスタッフ全員で戦うことが、勝利を呼ぶものなのだと思います。同じ目標を達成する為に、自分がチームから与えられた役割を理解し、個々に与えられた役割を果たす事が結果に繋がってきました。

「迷わず、自分の信念を持ち、チーム・自分自身を信じきる」事をこの大会を通して学びました。

山口 憲子（園田学園女子大学3年生）

今回の大会が、私にとって2回目の国際大会となりました。今回は昨年の国際大会の雰囲気とは全く違い、いろんな競技のいろんな選手との交流があり、2度目とはいえとても新鮮な気持ちで望むことが出来ました。

今回の登板で感じたことは、とにかく外国の選手は体格がよく力強い選手ばかりで、まともに力で押していくと言うよりは、いかにかわすピッチングが出来るか、ということがとても重要だと感じました。また、外国の選手の「ここぞ」という場面での「絶対自分がやってやる」とか、「絶対勝つ」という気持ちを強く感じ、そのような面では日本の選手も見習うべき点はあるのではないかと思います。

コンディショニングでは、夕方から始まる試合や朝一の試合などで、疲れもとれないまま次の試合へ望むこともありましたが、そんな中でも自分のベストを尽くすために、食事や睡眠・ストレッチにはとても気を使いました。特に食事に関しては、味覚が違いため口に合わないものが多くありましたが、なるべくバランスよく摂取できるよう心掛けました。

国際大会で戦う時に必要なことは、どんな状況でも柔軟に対応できる精神力と体力、そして自分というものを強く持つことが大切だと思いました。大学の選手が更にレベルアップ出来る様に、多くの選手が上を目指して頑張っていると思います。

鹿島 唯（日本体育大学3年生）

今回のユニバーシアード大会は、タイで開催されるということで気候や食事の面を気にしていましたが、現地では暑さも湿度も思っていたよりも強く感じられず、食事は世界各国の選手が集まるということもあり、種類も豊富で特に問題はありませんでした。最も困ったことは、グラウンド状況の悪さでした。日本でも土の色や固さなどたくさ

んの問題はありますが、短期間でその地に合うことは非常に大変なことでした。会場は2つあり、グラウンド状態が全然違うので、その切り替えも大変だったことを思い出します。また、各国の審判のストライクゾーンの違いや、アウト・セーフの違いに日本チームは苦しんだ時もありました。

選手村では国ごとに宿舎が分けられており、戦っているのは自分達だけじゃないと感ずることができ、過酷な連戦も戦い抜けたのだと思います。日本チームはメダルを獲得すると、宿舎の中で選手が必ず通るエレベーター前に張り出されていい刺激になりました。宿舎前で道具など手入れしていると、他国の選手たちが気さくに話しかけてくれて、競技では敵であっても試合が終われば同じ大学生として通じるものがありました。開会式や閉会式は、大変盛大に行われ感動しました。閉会式ではユニホームなどを交換して、それは帰国の前日の深夜まで続いていました。改めて今大会に参加できたことを光栄に思います。

世界との一番の違いは、やはり体格の違いだと思いました。私たちと同じタイ、韓国、台湾などのアジア系の国は大きな体格の違いはありませんでしたが、アメリカ、オーストラリア、南アフリカ、カナダなどは大柄な選手が多かったと思います。そして、日本の選手が出来ないようなプレーをしていると感じました。しかし戦略として日本とあまり遜色はありませんでした。優勝したカナダのチームは7回2アウトから同点に並び、最後には逆転し、このことに関しては技術も関係していると思います。一番は気持ちの強さが同点にし、逆転まで持っていくことが出来たのだと思いました。また次の塁を絶対盗んでやるという果敢な攻撃もあったと思います。また、日本のチームは、世界を前にして手も足も出なかったわけではないとも思いました。2位の台湾に関してはナショナルチームの選手も入っていて、合同練習や対策が徹底されているのだろうと感じさせられる試合運びでした。攻め方は大変日本と似ていましたが、海外チームの弱点を挙げるとしたら、細かい動きが苦手なところと集中力が欠けているところだと

思います。チャンスの場面では、一気に攻めることが出来て勝利を手にした試合もあったと思います。

コンディショニングについては、今回は食事に困ることがなかったので、空腹のまま試合に臨むことや、プロテインで補わなければいけないことはありませんでした。また、一番大事な水にも困ることはありませんでした。選手村にはプールがあり、アイシングを一気に出来たことは選手たちにとって大変良かったと思います。ただ、練習時間があまり取れず、不足分をトレーニングや各自ランニングで補っていました。

大会を通して、私が今回一番大事だと感じたことは、その土地に慣れることだと思います。そうすることで、いつも通りの自分の調子が保てるはずだと思います。あと何にでも挑戦してみることも大事です。他国の選手に話しかけてみる、タイ料理に挑戦してみるなど、私はそれを行いタイでの生活を満喫できたと思います。海外のチームに勝つために必要なことは、事前に準備できる（国際試合で使うボールを早めに投げ始めること、スピードに慣れるため男子ピッチャーのボールを打つこと、速い打球の捕球等）ことをして、絶対勝ちたいという気持ちを持つことだと思います。

渡邊 華月（園田学園女子大学4年生）

今回、私にとって初の国際試合ということもあり、全てが新鮮で素晴らしい経験になりました。国境やスポーツの枠を越え、各国のアスリートと共に過ごした日々はとても貴重な体験となりました。

日本人選手との違いとして「型に捉われない、大胆なバッティングスタイル」が挙げられると思います。常識を覆すようなスイング、ヒットが、とても印象深く残っています。また、多くの外国人選手に配球をして感じたことは、ボックス内での気魄、気の強さです。チャンスになると目の色を変えて向かってくる闘争心に日本の選手との違いを感じ、国内戦とはまた違った、緊迫した雰囲気を感じることができました。

コンディショニングについては、初戦からの連敗が尾を引き、プレイオフでの戦いには精神的にも体力的にもかなり厳しいものがありました。試合時間が一定せず、変動的な国際戦では、どれだけ自分の体調やモチベーションを万全な状態に合わせることができるかが、とても重要だと実感しました。

最後に、日本人と外国人選手との差は、それほど大きなものではなく、むしろ技術的・戦術的な面では、決して劣っていないと思います。外国人選手を目の前にした時にいかに平常心で普段通りの日本人らしい、そつの無いソフトボールができるかどうかだと思います。今回私たちが掴むことのできなかった「大学世界一」というタイトルを目指し、今後もさらに頑張っていってください。

池原 恵（園田学園女子大学3年生）

今回の大会に参加させて頂いたことで、日本とは全く違うソフトボールを肌で感じることができました。また、この大会を通して最高の仲間とプレイすることができ、チームワークの大切さ、素晴らしさを改めて感じました。各国の選手とコミュニケーションをとることもとても新鮮で良い経験をさせて頂きました。

今回の大会で感じたのは外国人選手の精神力の強さです。日本のピッチャーが厳しい所についていったとしても簡単に打ち損じてくれず、バッターの集中力がひしひしと伝わってきてとても守りづらく、一球に対する執着心はすごいものだと感じました。

コンディショニングの面では、日本にいたうちから下半身を鍛えたり、プロテインやサプリメントで食事面を補ったりしていました。日本と現地（タイ）では気温も違えば環境も違っていました。スタッフの方々が選手村内を事前に調査してくださり、食事の安全面も気遣ってくださったので、慣れるまでに時間はかかりませんでした。練習時間も十分に確保してくださり、アップ等もトレーナーの方が自分達の体調に合わせてメニューを組んでくださったのでいい状態で試合に臨むこ

とができました。海外での試合になると、日本の試合のようにはいきませんが、どんな状況になっても自分をベストに持っていける精神力が必要だと実感しました。

また、スタッフの皆様、このような素晴らしい経験ができる機会を与えてくださった皆様に感謝しています。本当にありがとうございました。

井上 愛（東北福祉大学 1 回生）

私にとって、この大会が初めての国際試合となりました。全てが初めてで、最初は戸惑うことが多かったです。しかし、この大会に選ばれたことは本当に光栄なことであり、一生に一度しか出来ない素晴らしい経験が出来ました。

開催地はタイ・バンコクで、真夏ということもあり猛暑が予想されました。このことを踏まえ、コーチ陣が「暑さ対策」のメニューを組んでくださり、このメニューをこなしたことによって、基礎体力が付き万全の状態試合に臨むことができました。

初めて海外の選手と対戦して私が感じたことは、どの選手を見ても堂々としていると思いました。プレッシャーを感じさせない態度が、私の中で一番印象に残っています。どのチームも独自のカラーがあり、オーラが感じられました。しかしこれは、海外の選手に限ったことではなく、日本チームも海外のチームに負けない強い気持ち「執念」がありました。また、日本チームは外国人選手と体格の差はありますが、技術や戦略的には引けを取らないと思います。

今回、私は試合に直接出る回数は少なかったのですが、学ぶことがたくさんありました。最後まで諦めない強い気持ちや、自分の任された役割をしっかりこなすことなど、当たり前のことかもしれませんが、このことが本当に重要であると身を持って実感しました。この大会に出ることで、各大学から選ばれた選手と一緒にプレイができ、とても良い刺激になったということが私の正直な気持ちでした。今後の課題も見えたので、自分の実力を更に伸ばしていきたいです。

小柳 薫（東京女子体育大学 2 回生）

第24回ユニバーシアード大会は、私にとって台湾での世界選手権に続き 2 回目の国際大会となりました。全員が優勝に向け切磋琢磨し、金メダルを日本に持ち帰れる様、必死になってプレイをしました。勝つ事が出来なかった試合の後には全員で反省点を考え、次は同じ過ちを繰り返さぬ様、自分達の役割を再確認して次の試合に臨みました。結果は3位でしたが、このチームでソフトボールをした事で、全員ソフトの大切さを改めて実感しました。監督を始めスタッフやたくさんの方々と一緒に、全員ソフトが出来た大会だったと思います。また、このような貴重な体験をする機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。

今回の日本チームは、投手を中心とした守りのチームだと思います。それに比べ、他国のチームはバッティングを中心として、試合を組み立てていくといった戦略だと感じました。また、精神力や基礎的な体力やパワーが、カナダや台湾より劣っていると感じました。しかし、チームワークや団結力は、日本チームがどのチームにも劣っていないとこの大会で実感する事が出来ました。この経験を忘れないようにしたいと思います。

コンディショニングは、前回大会の台湾と同じく、タイは高温多湿でじっとしていても発汗する程で、この大会ではウォーミングアップの仕方の重要性を知る事が出来ました。また、いかに最高の形で試合に臨めるか、最高のプレーが出来る状態にしていくかが大切だと思いました。そして、体調の自己管理の大切さも知る事が出来、誰か一人でも体調を崩すと試合が出来ないという自覚と責任が必要だと思いました。

最後に、代表チームは自チームにいる時よりも、チームの事を第一に考えるべきだということです。チーム作りをしてから日が浅いという事もあり、役割を常に頭に置いておかないとチームが全く機能しなくなります。自分の役割は何なのか、という事を明確にして全力を尽くして戦うという事が大切だと思います。

加藤 恵里（東北福祉大学3年生）

今回、ユニバーシアードに初めてソフトボールが取り入れられ、様々な競技団体とともに、日本選手団として国際試合に出場しました。今回の国際試合を通し私が感じたことは、勝つということの難しさと、気持ちと実力が伴って、そこに“執念”があって初めて勝ちにつながるということです。私達は、予選で物凄く苦しいスタートとなりましたが、最後まで執念をもって自分たちのソフトボールができた結果、銅メダルまでたどり着くことができました。本当に1勝することの大変さと重みを実感しました。個人的には、体格、パワー、スピードが上回る外国の選手相手に、自分の力を見出せなかったこと、実力を出し切れなかったこと、また、気温・湿度が高い中で水分補給が不十分だったためにコンディショニングが悪かったことが反省すべき点でした。

ソフトボールは頭のスポーツと言われています。競技性を考えたら、日本はいかに頭を使って、分の悪い相手と戦うか、そしてチームが1つになって戦うかだと思います。日本チームの強さは結束力です。今回、このような結果を残すことができたのも、素晴らしいスタッフの方々と最高の仲間に出会えたからです。今後のソフトボール界をますます発展させていく為にも、今回の国際試合での経験を活かして、日々の活動に取り組んでいきたいと思っています。

佐々木 瞳（富士大学4年生）

今回、第24回ユニバーシアード競技大会という大きな国際舞台に立つことが出来、貴重な体験をさせて頂いた関係者の皆様に感謝申し上げます。

今大会に参加して、「真の心の強さ」がすごく大切だと感じました。代表としての自覚、結果を残すことのプレッシャー、大きな国際大会だけにいつもとは違った緊張感、それらの中でいかに自分の持っている力を出し切ることが出来るか、メンタルの強さが試合の流れを大きく左右していくのだと身に染みて感じました。また、外国選手はチャンスに強く、おもいきったプレーが優れてい

ました。試合では形にこだわるというより、自分のパフォーマンスを発揮する場だと楽しんでいたいように思います。技術的には守備、攻撃共に日本は優れていて自信になりましたが、外国選手との大きな違いはそういったメンタル面だと強く感じ勉強になりました。

日本とは全然違う国で試合するにあたって、その国の気候や食事に慣れ体調を万全にしていける為には、平日頃から鍛えていかなければ最高の状態で臨めないこと、試合までのコンディショニングを整えることの大切さも勉強になりました。

そして、他の大学から選考され集まった混合チームで、同じ目標を持ち共に戦ってきた仲間と出会えたことを嬉しく思います。また、様々なご指導をして下さったスタッフの方々本当にありがとうございました。一緒のチームで共に世界一を目指して戦えたことを誇りに思います。これからも、この経験を生かし日々精進して参ります。ありがとうございました。

高橋 あゆみ（日本体育大学4年生）

私は、これまでのソフトボール生活の中で、素晴らしい環境に恵まれ何度か国際大会に参加させて頂きました。今回の大会はユニバーシアードという学生オリンピックの大きな大会であり、ソフトボールは今回初めての競技種目に加わりました。昨年の世界大学選手権では3位という結果であったので、今回の大会はもちろん「金メダル」を日本に持ち帰るということが目標であり、また絶対条件でありました。今まで以上にプレッシャーを感じながら2回の合宿を行い、選手たちも一丸となってタイ・バンコクへ臨んでいきました。世界の壁は厚く、3位という結果で大会は終わりました。しかし、各大学から代表選手として、一つのチームで大会に臨めたことを誇りに思います。

日本と外国人選手の一番の違いは、パワーとスピードであると私は感じました。体の大きさも日本人選手とは比べものになりません。走・攻・守のすべてが外国人選手より劣っているということを感じました。しかし、日本人の正確さ・技術と

というのは外国人選手には無いものだということも大きく感じました。また、それを上回る外国人選手の気持ちや情熱というものを、今回身近に感じることが出来ました。

タイ・バンコクで大会が行われたこともあり、湿気がとても多く、ソフトボールがしやすい環境であるとは言えない状況の中での試合となりました。しかし、スタッフの方々やチーム全員で体調を整えていくことが出来、万全の状態で試合に臨めたと思います。国際大会では、早くその場の環境に慣れることが一番重要なことであると感じました。

後輩たちにアドバイスすることとしては、ソフトボールは「チームプレイ」ということをしっかり胸に置くということが一番大切だと思います。選手一人一人が一つのプレイについて考え、自分の役割をしっかりと果たすことがチームの勝敗に大きく影響します。「日の丸」を背負って試合に臨めるという経験を私は沢山させて頂きました。プレッシャーを感じながらも自分のプレイが出来る精神力をしっかりと持って試合に臨めば必ず世界の頂点に立てるはずです。

森田 涼（園田学園女子大学1年生）

初めて国際大会に出場させて頂き不安な気持ちで現地に行きましたが、選手・コーチングスタッフのおかげで今までにない素晴らしい経験ができ、ソフトボールを通じてしか味わえない感動、悔しさ、自分の弱さ、技術、パワー、すべてを痛感しました。このような舞台で戦えたことに心から感謝しています。

日本チームと世界との違いは、日本選手は技術、形重視。外国人選手はすべて力。形がどうであれ捕ればいい、打てればいい、そのような印象を受けました。日本選手にしかない技術を磨き、スピード、そつのないプレイをすれば世界でも通用すると感じました。

コンディショニングは日本とは環境が違う中で、いつも通りプレイすることは難しいことですが、特に水分補給の大切さや、ケアの大切さを改めて

感じました。日本とは違う環境の中でコンディショニングを整え対応していくことが選手の勤めであり、責任だと感じました。

国際大会を経験して、一回生ですが世界の舞台で日の丸を背負えることを幸せに思い、感謝する気持ちが自分の力になると思います。また、チームで戦うからこそ強い個人の集まりが結果に繋がると思います。そして、日々の積み重ね、それが一番大切だと思います。

岡本 由香（大阪国際大学3年生）

今回ユニバーシアード競技大会に参加して、初めての国際大会ということで楽しみもありましたがとても緊張しました。大きな会場や、独特の雰囲気など、体験したことのないことばかりだったのでとてもいい経験になりました。

初めて外国人選手と対戦したのですが、やはりパワーの凄さというのを一番に感じました。体格も大きく、勢いが凄いので、それに負けてしまわないようにすることが大変でした。しかし、足を使った攻撃というのは、外国人選手にも通用していたと思います。

常にベストな状態で試合に臨むためには、体調管理が一番重要です。私は、海外で試合があるということでとても慎重に行いました。プロテインを毎日飲んだこともその一つです。水分補給をこまめにしっかり摂り、食事をしっかりするなど当たり前のことですが、見直すといつもきちんとできていないことに気が付きました。普段の生活が、このような場面にとっても大きくつながってくると感じました。

私は今回この大会を経験することができ、本当によかったと思っています。世界のソフトボールを実際に体感できたことや、試合への取り組み方が勉強できたことなど自分自身が成長できることがたくさんありました。次は絶対金メダルを取れるよう取り組んでいきたいと思っています。

亀本 伊純（龍谷大学4年生）

私は国際試合に出場して、貴重な体験ができま

した。国際試合では外国人がどんなことをしてくるのか、想像がつかなくて戸惑うこともありました。しかし、二度の合宿を行い、男子ピッチャーを外国人投手に見立てて打ち込みを繰り返すことで、スピードや変化球に慣れ恐怖感がなくなりました。

外国人には、日本人の特徴を生かした小技や機動力で相手を揺さぶり、相手のミスを誘うような攻撃は効果的だと思いました。

私は日の丸がついているユニホームを着たときに、日本代表であるということを意識しました。国を代表し、戦うことの誇りや、責任、重圧などありましたが、国際試合では様々なことを気づかせてくれ、教えてくれる場所だと思いました。調整については、戦いの場所が海外ということで、環境の違い、食事の違いなど過酷な状況の中で、自分自身のコンディションをより良い状態にしなければならぬと思いました。

この大会ではソフトボールだけではなく様々なスポーツ、世界中の人々と出会うことができ、価値観が変わりました。JOCの全面的なバックアップ、日本ソフトボール協会、JISS、監督、コーチ、トレーナー、マネージャー、男子ピッチャーの支えがあったからチームがひとつになり、銅メダルを取ることができました。今でも、ユニバーシアードを思い出し、あの場所に戻りたいと思う時があります。この経験は一生忘れることはないです。今回の経験を次に生かしたいと思います。

最後に、ソフトボール競技が北京オリンピックでなくなるので、ロンドンオリンピックを目指していた後輩達にユニバーシアードという素晴らしい場所を与えて欲しいです。

城戸 絵理沙（東京女子体育大学3回生）

私は「大学日本代表」という名で、国外で大会に参加するのは初めてでした。国内の大会とは全く雰囲気が違い戸惑うことは多々ありましたが、スタッフの方や経験者の方にアドバイスをもらうなどして万全な態勢で試合に挑むことが出来ました。

試合では、初戦から3連敗と苦戦を強いられました。やはり、外国のチームはパワーがあり、迷いなく積極的にバットを振ってきます。その分、凡打もありますがバットの芯で捉えると長打となり、そこから失点へつながることが多かったのです。また、投手力も高くボール球を振らされ、力負けをしてしまい思うように攻撃が出来ませんでした。しかし、敗戦の反省を生かし、バッテリーは「的を絞らせない」、打撃では「ボール球には手を出さず、ストライクを思いきり叩く」ということを徹底したことにより、銅メダル獲得へと繋がったのだと思います。何試合も戦い抜くということで、体調管理は十分に気をつけました。本大会はタイでの開催であったため、天候はめまぐるしく変化し、猛暑やスコールに悩まされることも多かったのです。しかし、三食しっかりと摂り、着替えや水分補給をこまめにするなど、基本的なことを心掛けることにより環境の変化に対応することが出来ました。

今大会では、もう負けることが出来ないという状況におかれ、味わったことのない緊張感の中での試合が多く、精神的にも大きく成長することが出来ました。どんな苦しい状況でも最後まで諦めず、粘り強く戦うことで勝利が見えてくるのだと思いました。

森 さやか（東京女子体育大学1回生）

第24回ユニバーシアード競技大会に参加させて頂いて、学ぶべき点が多くありました。日本の環境でしかやっていない私だったので、グラウンドの状態、タイの気候等始めは悪戦苦闘していましたが、次第にその環境に対応することが出来ました。また、外国チームの試合を観戦して、気が付いた事がありました。それは、体格、力の差は勿論ですが、チャンスでは必ず点数に繋がるようなプレイが出来る事です。なぜなら、今まで打てなかった選手が、ランナーが出ると打ち、そこから打線が止まらなくなるケースが少なからず見受けられたからです。いくら点数が離れていても、気を抜いてしまうと一気に攻められてしまいます。

その緊張感の中でプレイをするということは良い経験になりました。今回の大会では低めのコントロールや変化球が大変有効でした。しかし、打撃ではチャンスをものに出来なかったケースが目立ってしまった様な気がします。その場面に出くわした時、いかに自分が冷静に出来るかが今後の課

題だと思いました。私は、今回の貴重な体験で学んだ事を大学に持ち帰り、力を付けていきたいとします。

久保田先生を始め、チームスタッフの皆様、応援して下さいの方々には感謝の気持ちで一杯です。有難うございました。

ユニバーシアド参加スタッフのレポート

重点強化策

監督 久保田豊司

国際大学スポーツ連盟（FISU）主催の国際総大会は初参加となるが、大学女子の日本代表チームは、FISU主催の競技別世界選手権が実施された第1回世界女子大学ソフトボール選手権大会（2004／アメリカ）において3位銅メダル、第3回大会（2006／チャイニーズ・タイペイ）においても3位銅メダルを獲得した。この2大会から、試合では外国人とのパワー・スピードの違いを強く感じさせられた。また、アメリカの大会では時差の調整、チャイニーズ・タイペイの大会では暑熱環境下での体調管理と、国際大会で戦い抜くことの難しさを実感した。世界大会において強豪国相手に勝つためには、開催地での環境適応、ハードな試合日程の対策、体力面の強化、日本が誇る高い技術力をどう活かすかが強化ポイントとなった。

試合経過と戦評

予選リーグの第1戦と第2戦は、強敵オーストラリアとアメリカであった。上村投手を先発させてオーストラリアに勝ち勢いづきたいところであったが、初回に四球とエラーから2点を失いこれが結果的に決勝点となり黒星スタートとなった。5回に一死満塁のチャンスを作るが、三振、ピッチャーライナーと後が続かなかった。

第2戦のアメリカでは、初回に小柳の二塁打、渡邊の安打で2点を先取した。しかし、アメリカは2回に二死2・3塁から、センター前に落ちる安打で同点とする。そのまま延長タイブレーカー

となった。日本は3塁にランナーを進めることが出来ず無得点であったが、アメリカはランナーを進め、日本は満塁策で対応し二死まで取ったが安打を打たれ惜しくも敗れた。投手陣は失点を出来る限り抑えていたが、攻撃は得点圏にランナーを進めるものの決定打が出ず打撃陣の奮起が望まれた。

第3戦はチェコとの試合であったが、試合開始後に強いスコールがありサスペンデットゲームとなり韓国戦の後に試合が組まれた。

第3戦となった予選リーグ全勝の韓国との試合は、1点を先取し有利に試合を進めていたが、最終回に逆転され日本はこれ以上負けることの出来ない状況に追い込まれた。ここまでの試合を通して、緊張なのか経験不足なのかは判断できないが、国際試合の経験の必要性を強く感じた。

第4戦のチェコとの試合は、2回に森のランニングホームランからチャンスを作り3点、続く4回には池原の二塁打から4点を取りコールドゲームで勝利した。ようやく投打の歯車がかみ合い、日本チームの本来の力が発揮出来た。これでグループリーグは1勝3敗となり辛うじて4位で予選を通過できた。

ここからは負けることの出来ない試合が続く。プレイオフ進出を懸けたイタリア戦では、初回に城戸の内野安打から相手守備の乱れもあり2点を先取。これを高橋、重藤、山口の継投で守りきりイタリア打線を完封し勝利した。

プレイオフの相手は予選リーグで惜敗している

アメリカであった。2回に小柳の三塁打から1点を先取、4回には加藤の三塁打で追加点、5回には池原の三塁打から城戸・森の安打で4得点と試合を決める。高橋がアメリカ打線を1失点に押さえたことが大きかった。

この試合で日本チームは練習してきたことの全てが上手く決まり、試合もコールド勝ちでチームの士気は一気に上がった。

続く試合は3位以内を確定する重要な試合である。この試合の相手は韓国に勝ったオーストラリアであった。中盤に1点を失い苦しい試合展開であったが、最終回に小柳の三塁打、渡邊の安打で同点とした。延長タイブレーカーでは池原の安打で同点とし、城戸のバンド安打そして小柳のライト前の安打で逆転サヨナラ勝ちを収めた。オーストラリアの打線に対して、粘り強く投げた山口のピッチングは見事であった。

グランドファイナル進出を懸けたチャイニーズ・タイペイ戦では、初回に2ランホームランと連続二塁打で3点を失う。その後も追加点を許し、残念ながら6回コールドゲームで敗れ3位銅メダルが確定した。日本チームは、ランナーは出るものの得点できず、選手の疲労はピークに達していた。

前回からの教訓と課題

コーチ 舟山健一

昨年開催された第2回世界選手権大会のスタッフが続投し、前回大会の経験を活かした大会とすることができた。前回大会での課題として大きく二つ、①混成チームに見られるコールドプレイのミス。連携の意識。②好投手の攻略という課題が挙げられていた。

コールドプレイのミス・連携の意識

昨年の世界選手権で普通のフライを外野手が交錯し落球、これが直接負けにつながったゲームがあった。この経験を踏まえ、今回は合宿の段階から野手間の声の連携を徹底的に行った。日本人とは体格・パワー・スピードが違う海外の選手を相手にすると、打球の予測がつきにくく、配球から

ポジショニングへと連携がとりにくい。この点を選手・スタッフが共通理解し、実際に男子チームとの試合経験から「予測不能も予測のうち」という意識が生まれ、守備においては前回大会のようなミスは起こらなかった。

好投手の攻略

ホームラン・連打・四球の確率は難しいということ、作戦的には少ない安打、チャンスをどう生かすか、全員で攻略する「束になってかかる」ということをミーティングで落とし込んだ。

「守備は意識が統合されやすいが、攻撃は意識が分散されやすい」というソフトボールの性質を共通理解し、徹底したミート打法、先に述べたが作戦的には少ない安打で得点する、相手のミスに一気につけこむという意識を持ち試合に臨んだ。

結果として各選手が「どう打つか」ではなく、「どう得点しどう勝つか」ということを考えながらプレイすることが出来た。ソフトボールは攻守の2つのシステムから成り立っているということもあり、一方的に得点され直接勝ちに結びつかないゲームもあったが、好投手攻略という点では前回大会より飛躍的な成長があったといえる。

今後の課題

私見ではあるが、パワー・スピード・アジリティーこの3点については海外の選手に肩を並べることは出来ても、ひと回り越えるということは難しい。国際大会でというよりも、格上の相手にどう戦うかということを考え戦略を練れば、少なくとも大学というカテゴリーにおいて光明は見える。

勝つという定義を、「相手よりも1点多く取ること」とするならば、ランナーを出しながらもホームは踏ませないディフェンスをし、少ない安打で効率よく得点するゲーム運びを理解すれば勝算はある。日本は基本的な捕球と送球の確実性・バックアップの徹底・投内、内外の連携の部分ではトップクラスであっただけに、「守り勝つ」ということが国際大会の結果につながると感じた。

最後になりましたが、日本協会ははじめ、合宿でご協力いただきました実業団・駿河クラブ、そして多くの関係者の皆様に感謝を申し上げ2007ユニ

バーシアードの報告とさせていただきます。

コンディショニング

コーチ 木田京子

昨年の世界大学ソフトボール選手権大会の経験から、暑さへの対策・ハードな試合日程の対応を目的とした、体力トレーニングへの取り組みを選考後の大会2ヶ月程度前から行った。大学生のチームでは、普段の学業・スポーツの兼ね合いの中でスポーツ選手の認識のバラツキがあるために代表の自覚を求めたかった。手段は篠崎トレーナーに指導して頂き、第1次合宿までの3週間、第1次合宿から第2次合宿までの3週間、第2次合宿から大会までの3段階に分けたトレーニングを実施した。特に、ランニングを中心とした心肺機能の向上・下半身強化と、肩関節等の強化メニューを中心とした。さらに、栄養状態を整えるために、サプリメントを計画的に摂取させ貧血への対応と怪我の防止に努めた。

現地では暑さへの対策を注意し、試合の始まるまでの数日間は体への刺激の入れ方・技術的確認・フォーメーションの確認・感覚的確認を選手と会話しながらコンディショニング調整に取り組んだ。それらを行いながら、メンタル的な不安の解消も意識した。反省面では、実戦からの間隔が空いてしまったことで、試合感が乏しくなってしまう連敗も関係したと考えられる。試合開始後の3日間は、連敗スタートでのメンタルコンディショニングへの対策を注意したが、不安が先走り本来の力を発揮できない悪い状態が続き国際大会への対策を行う必要を強く感じた。

国際大会及び外国人選手に対応する取組み

特に打撃では、国内では白いボールを使用している為、飛距離の簡単に出る白ボールのバッティングでは黄色ボールの対応が出来ないと判断し、打撃修正と選球パターンの徹底を行った。以下が試合までに取り組んだ内容である。

- ・スピードボール・変化球の対応（大学生男子ピッチャーの打ち込み・男子チームや実業団チームとのオープン戦）。

- ・出る・つなぐ・返すといった攻撃手段の選択と意識向上（得点パターン）。

- ・黄色ボールへの感覚の違いを実感させ、さらに若干の技術修正（感覚）を行った。

- ・守備面ではまず投げる感覚の違いから行った。体重移動と回転をしっかりと行わせ、小手先では投げられないと実感させた。当初は暴投が多く見られたが、うまく選手には修正してもらえた。

- ・大柄な外国人選手との接触プレーに対するベース入りや、タッチプレーの指導や余計な進塁を防ぐための意識を向上させた。

- ・大会前から国際大会の画像を見せた。相手投手イメージの拡大のためと、シニアやジュニアチームからの協力を得て情報収集に努めた。

今後への希望

大学世界選手権やユニバーシアードでの上位入賞のためには、大学生のカテゴリーの継続的な強化が必要であると考えます。大会前に選考会を行い、その都度の選抜チームを結成する。今回も選考から2度の合宿を経たが、時間的には足りないと感じた。世界で戦う意識や技術的修正が間に合わない。強化選手の入れ替わりがあるとしても、大学世代のカテゴリーへの強化を意識してもらえればと考える。

また選考では、選抜チームの選手の編成・チームスタッフの姿勢への理解・チームスポーツならではのリーダーシップ等を視野に入れて、将来のある意識の高い選手の選考をするべきであると考えます。

世界で勝つための課題

チームリーダー 末井健作

1) 試合において感じたこと。

- ・ 国際大会でいつも言われている「基本技術」の重要性の再認識。
- ・ 各選手は状況判断する能力と決断力を高めること。
- ・ 厳しい状況において「力強い」プレイができること。
- ・ 日本選手の特性であるagility（敏捷性）の能

- 力を高めプレイすること。
- ・ パワーのスタミナを高めること。
- ・ 環境の変化（天候、グラウンド、生活等）に適応できる能力を高めること。
- 2) 食事内容を考え身体の管理をしっかりとセルフコントロールできること。
- 3) 日頃から目的意識を高いレベルにおき持ち続けること（国内での大会のレベルに満足しない）。
- 4) 自分の課題を積極的に克服する意識と積極的に挑戦する意欲を持ち続けること。
- 5) 国際大会には積極的に参加し、多くの実体験から修羅場において「力強い」プレイができる「こころの鍛錬」の強化に励むこと。

- 6) 今回も南アフリカ、タイチームの役員と話を
する機会があり、今後ソフトボールの普及と発展に日本の役割が大きいことを再認識した。指導者の派遣や用具の提供等できることから始め、関係国との友好関係をさらに深め継続することが普及のために重要である。

最後に、日本チームは残念ながら3位に終わりましたが、チーム一丸となって戦いました。次回の大会では「世界一」を目指して戦えるよう今から選手強化に努めたいと思います。ご支援くださいました日本ソフトボール協会の皆様を始めJOCの皆様の支援に重ねて衷心よりお礼申し上げます。

【紹介】 国際ルールとの比較

東京都ソフトボール協会審判員 後 藤 春 日

（財）日本ソフトボール協会が定めている「オフィシャル・ソフト・ボールルール」（JSAルール）と、外国チームと行われる国際的な公式大会に適用される国際ソフトボール連盟のルール（ISFルール）との主な相違点は、2007年度現在、次の対比表の通りである。なお、表内の文章は、ルールの内容を簡略化して説明したものであり、

ルールブック通りの文章ではないことをお断りしておく。また、自分が経験させていただいた国際大会における実際のルール運用の例を「☞実際の試合では・・・」という欄に記述した。これらはあくまでも参考にしていただくための一例であって絶対的なものではないこと、大会によって異なる可能性があることをご了承いただきたい。

J S Aルールと I S Fルールの比較対比表

事 項	J S A	I S F
故意四球	採用していない。 故意に打者に四球を与え一塁に歩かせる場合、投手は投球する必要がある。	採用している。 打者を一塁に歩かせる旨を球審に伝えればよい。投球する必要はない。どのボールカウントのときでも申し出られる。 ☞実際の試合では・・・ 「Intentional Walk」と球審に伝えればよい。球審はボールデッドを宣告し試合を止め、打者に一塁を与える。一塁を指さして「Walk」だけでも通じる。

DEFOの名称	DEFOと呼ぶ。	FLEX PLAYERと呼ぶ。 ☞実際の試合では・・・ DEFOでも通じることがほとんど。
球技場やダグアウトでの禁煙	特にルール上の記述なし。	禁煙と明確に定められている。 ☞実際の試合では・・・ 役員、審判控室などの球場内でも禁煙が原則。観客席が禁煙の場所も多い。
試合前の打順表交換(最終確認)	両チームの監督と球審によって行われる。 ☞実際の試合では・・・ プレーボールがかかるまでは、選手交代の通告は受け付けない。	両チームの監督やチームの代表者と、その試合を担当する審判員全員で行われる。 ☞実際の試合では・・・ 打順表(Line-ups)が最終確認され正式(オフィシャル)になった後、その場で選手の交代を通告することも可能。例えば、DPがある選手の守備を兼ねる等。
女子の投球距離	13.11m ただし、中学生、高校生、レディース、エルダー、エルディストは12.19m	13.11m 16歳以下は12.19m ☞実際の試合では・・・ 世界ジュニア女子選手権では、13.11mの投球距離。
ジュニア部門の区分	中学生、高校生、それ以上の年齢で区分される。	Girl 16-under (12～16歳) Boy 16-under (16歳以下) Jr. Women 19-under (19歳以下) Jr. Men 19-under (19歳以下)
バット	日本ソフトボール協会の検定マークが必要。	ISF(国際ソフトボール連盟)で公認されたバットリストに載っている必要がある。
グラブの色	投手のグラブは、グラブのひもを含め、球以外の色でなければならない。(メーカーのマークに球と同じ色があるのは可。)	①投手、野手ともに、グラブのひもを含め、球以外の色でなければならない。(メーカーのマークに球と同じ色があるのは可。) ②外側にある白や灰色の見た目上、球と見間違ふ円状のマークは不正である。 ☞実際の試合では・・・ 全てのプレイヤーのグラブに適用されるので、使用するグラブには注意が必要。
ユニフォーム	特に右記の内容に関するルール上の記述なし。	宗教的な理由ならば、ヘッドカバー及び衣服の着用を認める。
医療用のブレスレット、ネック	特にルール上の記述なし。	医療用のブレスレット、及びネックレスは装飾品とみなさないが、着用する場合は体

レス		にテープで装着すること。
得点差コールド	5回以降7点差。	R U N A H E A D R U L E 3回以降20点差 4回以降15点差 5回以降7点差
異物の使用	試合中は球にいかなる異物もつけることは許されない。ただし、審判員により事前に確認されたロジンのみ使用することができる。	I S Fでも同様であるが、 ☞実際の試合では・・・ ①手が白くなるまでロジンの粉が付着している場合は、ボールに異物をつける行為とみなされ、手を拭いてからボールを触るように指導されることが少なくない。 ②ボールにグラウンドの土をとってこすりつける行為は、ボールに異物をつける行為とみなされ、そのボールを交換することが少なくない。 異物の使用とは関係ないが、置いたロジンが投手のリーリスの位置と重なることは打者の目を欺くための不正行為とみなされ、注意を受ける場合も少なくない。アメリカなどでは、ロジンは投手板の後方で61cmの幅の内側に置くよう指導されている。
次打者	攻守交代時に関するルール上の記述は特にない。 ☞実際の試合では・・・ 国際ルールと同じように、最後の準備投球が終わるまで次打者席にすることが指導されている。	その回の最初の打者は、打者席に呼ばれるまで、次打者席にいないといけない。ルールに明記されている。 ☞実際の試合では・・・ 最後の準備投球が終わるまで、その回の最初の打者は次打者席にいないといけない。その次の打者は、ダッグアウト内にいないといけない。
打者席のライン	ラインを消すことに関して、特にルール上の記述はない。	攻撃側のメンバーは、試合中いかなる時、いかなる状況であろうと打者席のラインを消してはならない。試合前の打ち合わせの時に、コーチがラインを消すこともしてはならない。 ☞実際の試合では・・・ ①打者が打者席のラインを消した時は、ボールデッドで、ストライク1個が与えられる。 ②コーチやその他のメンバーがラインを消した時にも、次に打席に立つプレイヤー

		に対して、ストライク 1 個が与えられる。 ③もし最初に違反をした人が故意にラインを消し続けた時は、退場になる。
20 SECOND CLOCK PROCEDURES AND MECHANICS ※競技場に時計を設置し、投手と打者、コーチに対し、スピードアップを図るため、世界選手権とオリンピックの試合のみ採られる特別ルール	日本では採用していない。 ⇒実際の試合では・・・ 以下のスピードアップのためのルールは、日本でもオフィシャルルールとして適用される。 ①投手が、球を受けるか、球審の「プレイ」の指示の後、20秒以内に次の投球をしなかったときは、ボール 1 個が与えられる。（不正投球ではない。）ボールデッド。 ②打者が、球審のプレイの指示の後、10秒以内に打撃姿勢をとらなかったときは、ストライク 1 個が与えられる。ボールデッド。 さらに、打者はサインを見たり素振りをするときは、少なくとも片足を打者席に置くことがスピードアップのために要求されている。 ③打者がサインを見るために、しばしば打者席を外したときは、厳重に注意され、さらに打者席を外したときはストライクが宣告される。（競技者必携：審判委員会申し合わせ事項）	<u>世界選手権とオリンピックの試合のみ採用されている。</u> ⇒このルールが採用される試合では・・・ ①捕手またはどの選手からでも投手に球が返った時点から、時計が20秒よりカウントダウンされる。 ②残り 0 秒になったとき投球していなければ、ボールデッドでボール 1 個が与えられる。 ③打者が、残り12秒になった時点で打者席に両足を入れていなければ、ボールデッドでストライク 1 個が与えられる。 ④打者は投球間少なくとも片足は打者席に残しておかなければならない。打者席を離れてよい下記の場合以外に打者席を離れたときは、ストライク 1 個が与えられる。 【打者が打者席を離れてよい場合】 1) 投球が打たれたとき 2) スイングをしたとき（チェックスイングを含む） 3) 投球をよけるため打者席外に出ざるを得なかったとき 4) ワイルドピッチやパスボールがあったとき 5) 本塁上でプレイが行われようとしたとき 6) タイムが宣告されたとき 7) 投手がピッチャーズ・サークルを離れたとき、または、捕手が捕手席を離れたとき 8) ボールカウントが 3 ボールのとき、次の投球がストライクになり、それを打者がボールと勘違いしたとき ⑤打者は残り17秒、投手は残り 5 秒になったらタイムを要求することはできない。 ⑥捕手は、各イニングにおいて、1 回を超えて投手と打ち合わせしてはならない。

	⑦ コーチは、打者に指示やサインを送るためにコーチーズボックスを離れてはならない。もし離れたら、攻撃側の打ち合わせをしたとみなされる。 ⑧ 打者席とコーチーズボックスのラインを故意に消したときは、ストライク 1 個が与えられる。 ☞ このルールを採用しない試合でも・・・世界選手権やオリンピックに準ずる試合として、時計を使用しなくても部分的に上記のルールを採用する場合がある。例えば、2006年アジア大会、2007年アジア・オセアニア地区オリンピック予選では、打者が打者席外に出たとき、ストライク 1 個が与えられた。たとえペナルティーを課さなくても、打者席を離れないように注意するなど、審判員がゼスチャーや言葉でスピードアップを促し、プレイヤーもそれに積極的に協力するよう求められるのが現状である。打者席を離れないことや、捕手がすぐ投手に返球することなどは常に求められる。スピードアップを促すため手をたたいて知らせる審判員も少なくない。
--	--

東京都ソフトボール協会所属 後藤 春日氏 略歴

2006～2007 日本ソフトボール協会ルール委員

審判歴

1984 日本ソフトボール協会公認第3種審判員資格取得

1989 日本ソフトボール協会公認第1種審判員資格取得

2002 国際ソフトボール連盟公認国際審判員資格（F P）取得

2002～2007 日本女子リーグ担当審判員

2003～世界女子ジュニア選手権・アテネ・オリンピック等々

【紹介】

2007年 世界で活躍した学連登録選手

本年、学連登録選手の世界での活躍は、U S チャレンジシリーズとユニバーシアードだけではありません。(財)日本ソフトボール協会派遣の国外大会に出場した登録選手を紹介します。(編集部)

●第8回世界女子ジュニア選手権準優勝：森さやか(東女体大)・吉良真利菜(東女体大)・田邊奈那

(環太平洋大)・高橋恵(東女体大)

●ISF第1回男子ワールドカップ優勝：高橋速水(日体大)・筒井拓友(日体大)

●2007パシフィックインターナショナルメンズシリーズ4位：高橋速水(日体大)・諸見里俊(国士舘大)・筒井拓友(日体育)・青山紀彦(早稲田大)

【研究紹介】大学女子ソフトボール選手のための体力評価基準の作成

東山 智郁子・末井 健作・吉田 司

(兵庫県立大学環境人間学部)

板谷 昭彦・木田 京子 (園田学園女子大学)

【目的】

ソフトボール競技は、『打つ・走る・捕る・投げる』などの動作を組み合わせた高強度の間欠的運動であり、野球と比べ塁間が短いため、より合理的な動作が必要となる。そのため、ソフトボール競技ではスキルの重要度が高く、その中でも技術が重要視されがちである。

しかし、技術を発揮するにはそのための筋力などが必要になる。したがって、パフォーマンスの向上には、反復練習に加えてパワーやスピードを生み出す筋力などの体力的な要素も重要だと考えられる。筆者らは、長年にわたりソフトボール選手の体力に注目して追跡的研究を行っており、先に宮崎ら(2004)が、ソフトボール選手の体力に関する5段階の評価基準を示した。

本研究では、さらに被験者を増やしソフトボール選手の形態および体力を測定し、新たな5段階の評価基準を作成することを目的とした。

【被験者】

被験者は、関西1部リーグに所属するS女子大学のソフトボール部員18歳～22歳(5年間で78名)であった。被験者の身体的特徴について表1に示した。

なお、測定年毎の測定種目の変更や被験者の故障により、測定種目ごとの人数は異なる。

【測定項目・方法】

1. 音響的骨評価値

超音波骨評価装置 AOS-100S (アロカ株式会社) を用いて、右踵骨部分の測定を行った。

2. 筋厚、皮脂厚

ハンディタイプのエコーカメラ汎用超音波画像診断装置USD-N500 (アロカ株式会社) を用い、立位姿勢で右上腕部と右大腿部の筋厚及び皮脂厚

表1. 被検者の身体的特徴(平均±標準偏差)N=78

身長 (cm)			160.8 ± 5.7
体重 (kg)			59.7 ± 5.9
体脂肪率 (%)			27.6 ± 4.4
除脂肪体重 (kg)			43.0 ± 3.2
BMI			22.6 ± 3.4
音響的骨評価値			3.272 ± 0.301
筋厚 (cm)	右上腕部	前部	1.40 ± 0.39
		後部	2.12 ± 0.76
	右大腿部	前部	4.45 ± 0.76
		後部	4.95 ± 0.87
皮脂厚 (cm)	右上腕部	前部	0.58 ± 0.23
		後部	0.65 ± 0.24
	右大腿部	前部	0.72 ± 0.28
		後部	0.74 ± 0.36
筋横断面積 (cm ²)	右上腕部	前部	7.38 ± 2.99
		後部	12.65 ± 7.50
	右大腿部	前部	64.45 ± 20.33
		後部	45.14 ± 14.29
筋体積 (cm ³)	右上腕部	前部	143.6 ± 76.0
		後部	302.5 ± 214.9
	右大腿部	前部	1784.6 ± 607.4
		後部	2360.7 ± 801.0

の測定を行った。右上腕部については、肩峰点より上腕長の遠位60%の位置の前面・後面を撮影した。右大腿部については、大転子点より大腿長の遠位50%の位置の前面・後面を撮影した。

3. 筋横断面積、筋体積

福永ら(1991)、Miyatani et al(2000)の式を用い、筋厚をもとに筋横断面積、筋体積を求めた。

4. 体力テスト

文部科学省の新体力テストの実施方法で、握力、

上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、ソフトボール投げ、50m走および立ち幅跳びの測定を行った。

5. 全身反応時間

全身反応時間測定器（竹井機器工業株式会社）を用い、全身反応時間の測定を行った。

6. 3 塁打走

本塁から3塁ベースに到達するまでの時間の測定を行った。

7. シャトル・スタミナテスト（3分間走）

10mの距離を3分間往復走り、その距離の測定を行った。

8. 最大酸素摂取量

自転車エルゴメーター（MONARK ERGOMEDIC Model 818e）を使用してペダリング運動を行い、エアロモニタAE-300S（ミナト医科学株式会社）を用い呼気ガス分析を行った。プロトコルは、1分間の安静後、最初の1分間は負荷を0wattに設定し、その後1分毎に30wattずつ負荷を漸増していき運動継続不可能になるまで測定を続けた。被験者には、ペダル回転数を60回転/分に維持させた。

9. 等速性筋力

BIODEX SYSTEM3（BIODEX MEDICAL SYSTEMS）を用いて、利き腕側の肘関節及び右膝関節の等速性伸展・屈曲筋力の測定を行い、体重あたりの値を算出した。

いずれの部位も角速度は、60°/sec（低速）、180°/sec（中速）、300°/sec（高速）の3つとした。伸展・屈曲運動を1試行とし、それぞれの角速度で2セットずつ行った。

10. 無酸素パワー

AEROBIKE800（COMBI社）を用いて、瞬間的に発揮できる最大パワーの測定を行った。負荷1.0kpに設定し、5秒間のペダリング運動によって仕事量を測定し、体重あたりの値を算出した。

【結果と考察】

本研究の被験者（以下、被験者）の全測定項目は、20歳の日本人女性の平均値を上回り、上腕前部の皮脂厚を除くその他の項目で1%水準の有意な差が認められた。

表2. 体力テストの結果（平均±標準偏差）

反復横跳び（回）	57.3 ± 4.0
50m走（s）	7.67 ± 0.36
3 塁打走（s）	9.65 ± 0.43
ソフトボール投げ（m）	51.4 ± 8.5
立ち幅跳び（cm）	187.3 ± 31.2
シャトル・スタミナテスト（m）	500.0 ± 36.0
握力（kg）	33.7 ± 4.8
上体起こし（回）	34.6 ± 8.0
長座体前屈（cm）	49.7 ± 7.4
全身反応時間（s）	0.265 ± 0.039
最大酸素摂取量（ml/kg/min）	40.4 ± 5.1

表3. 等速性筋力（平均±標準偏差）

肘	60°/sec (Nm/kg)	伸展	0.456 ± 0.099
		屈曲	0.418 ± 0.165
	180°/sec (Nm/kg)	伸展	0.348 ± 0.108
		屈曲	0.403 ± 0.158
	300°/sec (Nm/kg)	伸展	0.401 ± 0.124
		屈曲	0.425 ± 0.184
膝	60°/sec (Nm/kg)	伸展	2.001 ± 0.321
		屈曲	1.105 ± 0.213
	180°/sec (Nm/kg)	伸展	1.221 ± 0.284
		屈曲	0.868 ± 0.180
	300°/sec (Nm/kg)	伸展	0.948 ± 0.214
		屈曲	0.942 ± 0.200

シドニーオリンピックのソフトボール日本代表選手（以下、代表選手）と比較すると、代表選手の身長は165.1±7.0cm、体重は66.1±7.0kg、体脂肪率は19.6±4.1%で、身長・体重では代表選手が高い値を示し、体脂肪率では被験者が高い値を示したことから、被験者の除脂肪体重は低いことが確認された。除脂肪体重が低いということは、パワーやスピードを出すための筋も少ないと予測されるため、被験者は除脂肪体重を増やす必要があると考えられる。

膝関節の等速性伸展・屈曲筋力は、最大筋力を測定する60°/secにおいて、伸展筋力は2.001±0.321Nm/kg、屈曲筋力は1.105±0.213Nm/kgであり、屈曲/伸展比は55%であった。深代(1996)の

作成した評価基準によると、バランスが悪いと確認された。筋出力の効率を測定する中速度の屈曲/伸展比は72%であった。屈曲筋力と伸展筋力は同等であることが望ましく、バランスが悪いと筋の障害につながりやすいと言われていることから、被験者は屈曲筋力を増加させる必要があると考えられる。

持久力の指標である最大酸素摂取量において、代表選手の $47.4 \pm 4.8 \text{ ml/kg/min}$ (トレッドミル走) に対し、被験者は $40.4 \pm 5.1 \text{ ml/kg/min}$ (自転車エルゴメーター) であった。山地(2001)は、一般人では、トレッドミル走における最大酸素摂取量100%とすると、自転車エルゴメーターによる最大酸素摂取量は、82.0–97.0%であると報告している。今回の測定値もこの範囲内であるため、代表選手と被験者は同等のレベルであると推測された。

ソフトボール競技の更なるパフォーマンス向上には、除脂肪体重の増加に伴う筋量増加により、筋出力パワーや瞬発力を高めることと、反復練習による敏捷性の増加が大切であると考えられる。

【評価基準】

S女子大学の選手と国内トップレベルの選手において同等の体力値が得られたので、S女子大学の選手のデータを基に、5段階の評価基準を作成した。

各測定結果から、正規化したデータを平均値と標準偏差を基に区分わけして頻度を求め、 χ^2 検定による正規性検定を行ってそれが認められた項目について、表4～7と図1に示した。

この評価基準は、ソフトボール選手の現状を把握し、トレーニングでの目標とするために作成された。選手の体力の維持・向上に活かされることを期待する。

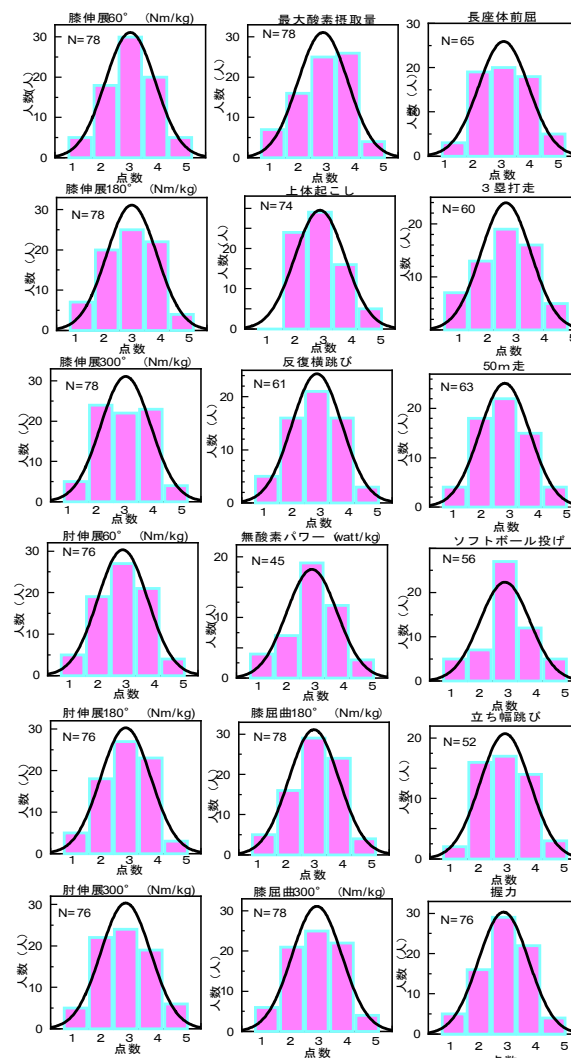


図1. 5段階評価の正規性

表4. 得点表(1)

得点	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	立ち幅跳び (cm)	最大酸素摂取量 (ml/kg)	反復横跳び (回)
5	47～	61.9～	217～	48.2～	64～
4	39～46	54.5～61.8	200～216	43.0～48.1	60～63
3	30～38	47.1～54.4	183～199	37.9～42.9	56～59
2	22～29	39.7～47.0	182～166	32.8～37.8	52～55
1	～21	～39.6	～165	～32.7	～51

表5. 得点表(2)

得点	握力 (kg)	ソフトボール投げ (m)	50m走 (S)	3塁打走 (S)	無酸素パワー (Nm/kg)
5	40.7～	64.3～	～7.0	～9.0	17.3～
4	36.3～40.6	55.8～64.2	7.1～7.4	9.1～9.4	15.3～17.2
3	32.0～36.2	47.2～55.7	7.5～7.8	9.5～9.8	13.4～15.2
2	27.7～31.9	38.7～47.1	7.9～8.2	9.9～10.2	11.4～13.3
1	～27.6	～38.6	8.3～	10.3～	～11.3

表6. 得点表(3) 体重あたりの等速性筋力(肘関節)

得点	60° /sec	180° /sec	300° /sec
	伸展(Nm/kg)	伸展(Nm/kg)	伸展(Nm/kg)
5	0.606～	0.547～	0.587～
4	0.506～0.605	0.438～0.546	0.463～0.586
3	0.407～0.505	0.330～0.437	0.339～0.462
2	0.308～0.406	0.222～0.329	0.216～0.338
1	～0.307	～0.221	～0.215

表7. 得点表(4) 体重あたりの等速性筋力(膝関節)

得点	60° /sec	180° /sec		300° /sec	
	伸展(Nm/kg)	伸展(Nm/kg)	屈曲(Nm/kg)	伸展(Nm/kg)	屈曲(Nm/kg)
5	2.483～	1.647～	1.138～	1.270～	1.242～
4	2.162～2.482	1.363～1.646	0.958～1.137	1.056～1.269	1.043～1.241
3	1.841～2.161	1.079～1.362	0.778～0.957	0.842～1.055	0.843～1.042
2	1.520～1.840	0.795～1.078	0.598～0.777	0.628～0.841	0.644～0.842
1	～1.519	～0.794	～0.597	～0.627	～0.643

参考文献

宮崎有紀子、末井健作、板谷昭彦(2004) 女子ソフトボールに適した体力指標の開発. ウィンドミル, 8 : 29-30.

福永哲夫、安部孝、池川繁樹、小沢治夫、合田浩二、石田良恵、浅見俊雄(1991) 超音波断層法による筋厚・皮下脂肪厚と組織断面積との関係. 体育科学, 19 : 1-6.

Miyatani, M., Kanehisa, H., and Fukunaga, T. (2000) Validity of bioelectrical impedance and ultrasonographic methods for measuring the muscle

volume of the upper arm. Eur J Appl Physiol, 82: 391-396.

深代千之(1996) スポーツ科学への招待, ベースボールマガジン社 : pp135-139

山地啓司(2001) 改訂最大酸素摂取量の科学. 杏林書院: pp15-30

日本女子ナショナルチーム(オリンピック代表チーム) 医科学サポートスタッフ(2001) シドニーオリンピックにおける医科学サポート報告書. (財)ソフトボール協会: pp15-42

文部科学大臣杯第42回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成19年8月24日(金)～8月27日(月)

会場：京都府舞鶴市／東舞鶴運動公園野球場他

大会概要

国士舘大(東京)

2年連続4度目の優勝を飾る!!

大会記録長：山田 元

標記大会が開催された舞鶴市は、京都府の北東部の日本海側に位置しており、戦国武将で歌人としても名高い細川幽斎、忠興親子が築いた田辺城を中心に城下町として栄えた西地区と、戦前は旧海軍の軍港として、また、戦後は海上自衛隊の基地として発展した東地区からなっている。

メイン会場となった東舞鶴公園には、野球場の他、テニスコート場、陸上競技場、弓道場などが設置されており、市民の生涯スポーツ社会の実現に向けた行政の努力が着実に実を結んでいるところである。

大会には、初出場の日本福祉大学(愛知)他2校、一方、最多出場は42回連続の国士舘大学(東京)他2校の古豪、新鋭32チームが参加して、東舞鶴野球場他3会場で、例年にも増して残暑厳しい中で、の3日間にわたる熱戦が繰り広げられた。

ベスト4には、連続優勝をねらう国士舘大(東京)、前年度準優勝の中京学院大(岐阜)、前年度は、共に2回戦で敗退し、今年こそその気概に燃える日本体育大(東京)、広島修道大(広島)が見事勝ち上がってきたが、何れが優勝しても決して可笑しくない戦前の予想ではあったが、やはり大会屈指の豪腕諸見里投手を有する国士舘大が攻撃陣の奮起もあり、1回戦こそ対福岡大に辛勝したものの他の4試合は圧倒的な強さを発揮して、2年連続4回目の栄冠を手中に収めた。

なお、今大会で特筆すべきは、初出場ながら往年の大投手西村信紀監督率いるIPU環太平洋大学(岡山)が準々決勝まで勝ち残ったことである。本

大会結果

大学は、今年4月に開学された新設校で当然ながら選手は、1年生だけでこの快挙は賞賛に値する。今後の活躍に注目したい。

大会講評

打倒「東京勢」に期待する

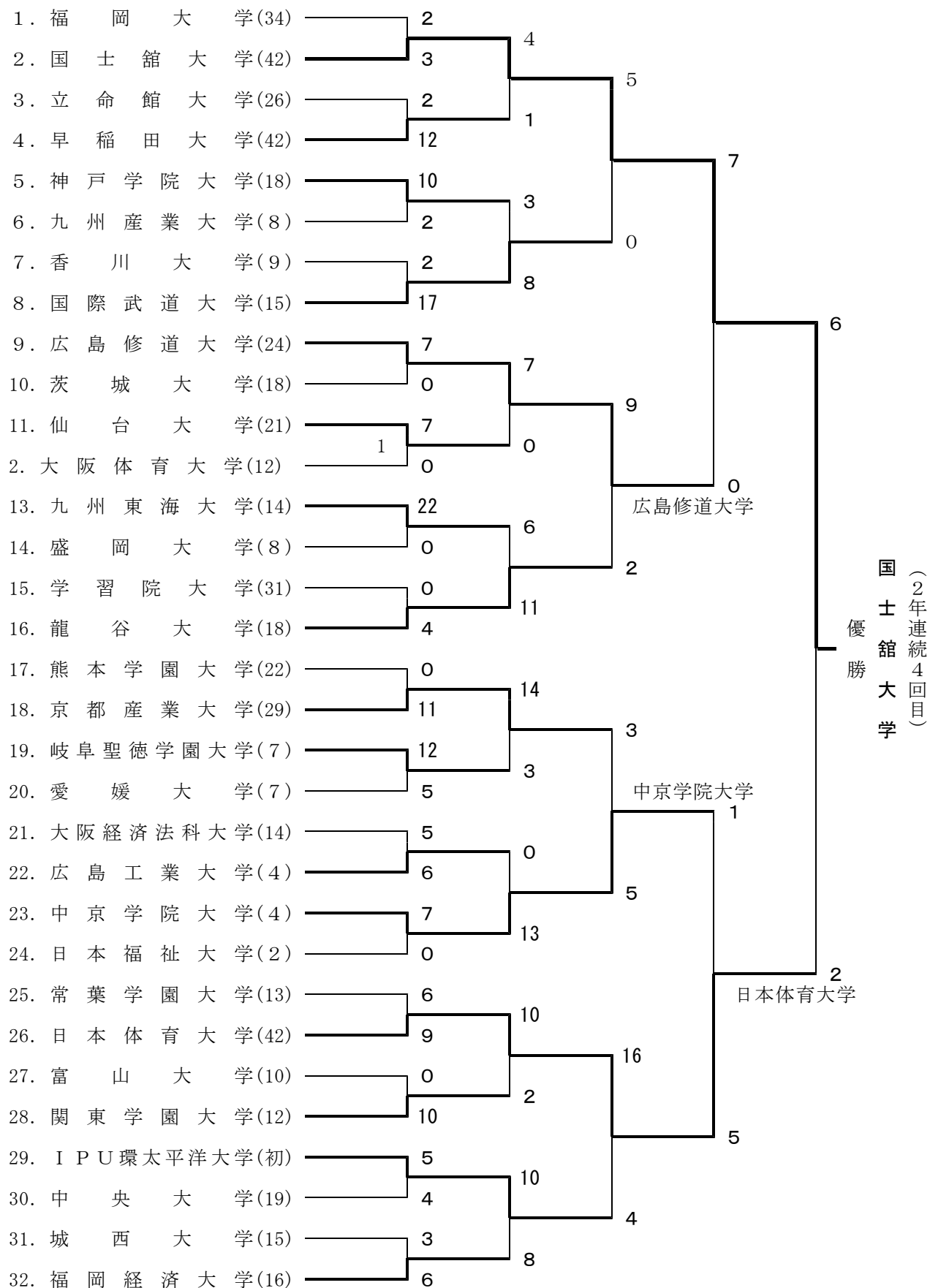
近畿地区常任理事 森田啓之

抽選会で会場にどよめきが起こったほど、上のブロックに東京、関東、近畿、九州の有力校が固まった今大会。特に、福岡VS国士舘、立命館VS早稲田の対決は、ソフトボールファンとしては初日には避けたいカードであった。その中でも、安定した投手力(諸見里)をベースにした国士舘大学が決勝までコマを進めた。

一方、下のブロックでは日本体育大学は、西日本優勝の地元京都産業大学を破って昨年準優勝で勢い上がる中京学院大学を準決勝で下して決勝戦に進出した。また、中国地区の活躍も特筆すべきであろう。第3位となった古豪の広島修道大学、そして、初出場ながらベスト8に入った1年生チーム・IPU環太平洋大学の戦いぶりは、澁漑として素晴らしかった。

決勝は、大学界を代表する好投手(諸見里VS高橋)の投げ合いとなったが、チャンスをうまく生かした国士舘が終始優勢にゲームを進め、2年連続4度目の優勝を果たした。終わってみれば、投打がかみ合い、守備も堅く、唯一防御率が0点台での圧倒的な強さであった。

大会を総括すると、国士舘・日本体育・早稲田の3強を中心とする東京勢の強さがまたまた目立った大会であった。いずれも、42回連続出場を誇る古豪チームであるが、来年の宮城大会に向け、「打倒東京」を掲げて他地区の精進を期待したい。



※ ()内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月25日）1回戦結果

福岡大学 0100001 : 2
 国士舘大学 200001x : 3

〔福〕 ●坪内一平山

（本）栗尾、（三）樺島、（二）青木

〔国〕 ○諸見里一坪松

（本）安井、（二）浦本

国士舘は、1回佐方が内野安打、安井の中堅越えツーランで早くも先制。6回には浦本二塁打で出塁、犠牲バントで送り、小田原の投前安打で生還し、3点目を上げた。一方、福岡大は、2回樺山が三塁打、青木の二塁打で1点を返し、7回にも栗尾のソロで国士舘を追撃するも惜敗した。

早稲田大学 06060 : 12
 立命館大学 00200 : 2

〔早〕 ○吉形一北澤

（本）薩澤、（二）青山

〔立〕 ●松本・小岩一川村

（本）長岡

早稲田は、2回四番青山の遊撃強襲を含め4安打4四死球1暴投などで11人の打者を送り、早々と6点を奪い有利に試合を進めた。4回にも薩澤の右中間本塁打など4安打に、四球、暴投、失策で打者一巡の猛攻で、更に6点を奪った。立命館も3回深川の内野安打の後、長岡の中堅越えツーランで2点を返すのが精一杯であった。

神戸学院大学 40303 : 10
 九州産業大学 01010 : 2

〔神〕 ○小藤・西川（勝）一北村・西川（豪）

（本）丸尾・橋本、（三）橋本、（二）久保川

〔九〕 ●武内・大西・渡辺一森・坂田

神戸学院は、初回二番北村から六番久保川まで、5人の打者で4安打1犠失で4点を先制。更に、3回にも四番西川から八番橋本まで3点追加。5回にも丸尾、橋本の2本塁打などで3点を入れた。九産大は、2回と4回に小刻みに1点宛を返していったものの一方的に敗れた。

国際武道大学 40760 : 17
 香川大学 00011 : 2

〔国〕 山本・○松尾・大石一高嶋・岡嶋

（本）田中・松尾②、（三）栗尾、（二）高嶋②

〔香〕 ●森岡・高橋・畠中一縄田・前川

（本）中平

武道大は、初回一番杉山から六番田中のソロを含む、2長打と2四球で4点を先制。

3回には三番高嶋から11人の打者を送り、六番松尾のツーランを含む、6長短打の連べ打ちで7点。更に4回にも11人の打者で、松尾の2本目のツーランなどで6点追加して、香川大を三番中平の本塁打を含む僅か2安打のみで、悠々逃げ切った。

茨城大学 000000 : 0
 広島修道大学 400021x : 7

〔茨〕 ●土川一長峰

〔広〕 ○原一竹上

（二）土井・竹上・原

広島修道は、初回一番迫川から九番瀧本までの攻撃で、3長短打2四球1犠打1失策などで早くも4点を先制し、有利に試合を進めた。5回にも、一死後竹上、原の連続二塁打と失策、暴投で更に2点追加。6回には、2連続四球の後、土居の右前安打で無死満塁となり、代打桂への四球であっけない押し出しのコールドゲームとなった。茨城大は、広島修道の原投手に2安打と完璧に押さえ込まれた。

仙台大学 001402 : 7
 大阪体育大学 000000 : 0

〔仙〕 ○嶋田一粉川

（本）大道・平良、（二）平良

〔大〕 ●奥村一藤田

（二）西谷

仙台は3回、大道のソロで先制。4回には、佐々木三遊間安打、嶋田四球の二死後、渡邊四球で満塁になり、平良が中堅越え満塁ホームランで4点追加。6回にも、平良の二塁打を含む2長短打と1四球などで更に2点追加した。大体大は、散発の2安打で無念のコールド負けを喫した。

盛岡大学 00000 : 0
九州東海大学 9247x : 22

〔盛〕●千葉—後藤

(三)向井

〔九〕○北村—尾脇

(本)尾脇、(三)小寺、

(二)尾脇②・松村・増田

九州東海は、初回13人の打者を送り、尾脇のスリーランを含む4本の長短打と4四死球3失策などで、早々と9点を奪った。2回には、小寺の三塁打などで2点、3回には、松村、増田、尾脇の連続二塁打などで4点。4回には、12人の打者で2安打4四球3失策1暴投などで7点追加。終わってみれば22点の大量点であった。盛岡大も4安打では、今年もまた悲願の初戦突破はならなかった。

龍谷大学 2010001 : 4
学習院大学 0000000 : 0

〔龍〕○吉田—小熊

(本)柳・住川、(二)藤岡

〔学〕●馬場—神田

龍谷大は、初回一番三遊間安打の新出を塁上において、三番柳が右翼越えツーラン。3回、7回にもそれぞれ2安打を集めて、1点ずつ小刻みに得点した。学習院も良く健闘したが、今年も初戦敗退を喫した。

京都産業大学 00461 : 11
熊本学園大学 00000 : 0

〔京〕○松田・菅村—田中

(本)田中・松田清水、(三)栗岡、(二)松田

〔熊〕●米良—中島

京産大は、3回岡村から井関まで8人の打者で、松田の二塁打を含む3安打2四死球暴投などで4点を先制。4回には、西原から井関まで9人の打者で、田中、松田の本塁打など5本の長短打と2四球で6点を追加。更に5回には、二死後清水のソロで大量11点を奪った。熊本学園は、2安打散発に終わり、今年は残念ながら初戦で敗退した。

愛媛大学 10400 : 5
岐阜聖徳学園大学 07104x : 12

〔愛〕●大西—寺本

(三)中久保、(二)桑原

〔岐〕○笠井—草

(本)道下・太田、

(三)草・尾山・正中、友近、(二)広瀬

愛媛大は、初回一死満塁の後、五番桑原が四球押し出しで先制するも、岐阜聖徳は、2回先頭五番から打者一巡の六番まで11人の打者を送り、二番道下の本塁打を含む7本の長短打と1四球で7点をもぎ取り、一気に逆転した。3回には、愛媛も二番寺本から八番大西まで7人の打者で、中久保の三塁打を含む5本の長短打で4点を取って反撃体制に入ったが後が続かなかった、岐阜聖徳は、3回に1点、更に5回には代打太田の左翼越えツーランを含む、4本の長短打に失策を絡めて、4点を加えてコールド勝ちを収めた。

大阪経済法科大学 0110300 : 5
広島工業大学 000330x : 6

〔大〕●佐野—西森

(本)佐野・田内、(三)田内、(二)高地

〔広〕○松下・蓑田—篠原

(二)水田

大阪経済は、2回に佐野がソロホーム、3回にも死球の走者を置いて田内の左翼線上を破る三塁打で1点を追加したものの、広島工業も4回に一死後、水田の二塁打から始まる4安打で3点を奪い逆転したが、大阪は5回に田内のツーランなど2本の長打で3点を加え、再逆転に成功したが、広島も負けずに一番から四番までの連続安打と1犠打の後、更に六番の安打で5本を数え、これで3点を加えて逆転に次ぐ逆転のシーソーゲームで、広島がかろうじて逃げ切った。

日本福祉大学 000000 : 0
中京学院大学 320011x : 7

〔日〕●小久保—森崎

(三)加藤、(二)玉置

〔中〕木伏・○川井・坂本—前田

(本)松原②・紙漉、(三)砂川

中京学院は、初回松原の中堅越えスリーランで

早くも有利に試合を進めた。2回にも紙漉のツーラン、5回には松原がこの試合2本目の本塁打で、更にリードを拡げ6回には、無死一塁から代打砂川の左中間三塁打で、コールド勝ちを収めた。日本福祉は、5回6回に夫夫先頭打者が安打で出塁したが、2回ともダブルプレイに阻まれて得点することは出来なかった。

日本体育大学 0520002 : 9
常葉学園大学 2001210 : 6

〔日〕○矢野・高橋一松本

(本)松本・矢久、(三)豊永、(二)楠本

〔常〕●米田・伊奈一田島

(本)望月②・長田

常葉は、初回二死から三番長田安打、四番望月の中堅越えツーランで先制するも、日体大は、2回に打者10人の猛攻で、八番松本のツーランを含む6本の長短打と2四球で、一気に5点を奪い逆転に成功。更に3回と7回にも夫夫2点ずつを加えた。常葉も負けじと4回に望月がこの試合2本目の本塁打で1点、5回には長田のツーラン、6回にも1点を返したものの後一步及ばず惜敗した。

富山大学 00000 : 0
関東学園大学 2710x : 10

〔富〕●平井一井戸

〔関〕○福田・山口一大井

(本)福田・高橋・武井

関東学園は、初回福田のツーランで先制。2回には打者一巡の猛攻で、高橋、武井の本塁打を含む6本の長短打で7点を加え、3回にも1点追加し有利に試合を進めた。富山大は、5回に2本の安打を放ったものの反撃もここまで、昨年ベスト8の成績もむなしく初戦で散った。

中央大学 0000103 : 4
IPU環太平洋大学 0020021x : 5

〔中〕●中田一古谷

(本)西川、(三)堀口

〔I〕○奥川一平本

(本)平本

I P Uは、3回二死後平本のソロの後、1四球

2安打で2点を先制。6回には、1安打2死球に捕逸、暴投が重なり2点追加。中央大も5回に1安打1失策で1点を返し、7回には二死後原が安打、堀口が右翼越え三塁打、続く西川の中堅越えツーランで3点を入れて同点とした。しかし、I P Uは松崎安打で出塁のあと、盗塁と失策で三塁へ進んだが次打者は三振に倒れたものの、佐伯が3-2からの好球を見事、中堅前に打ち返してサヨナラ安打となり、初出場ながら過去19回の出場を誇る中央大を破る殊勲を打ち立てた。

城西大学 1000002 : 3
福岡経済大学 1200003x : 6

〔城〕●柴田一加藤

(本)白石、(三)鈴木、(二)加藤

〔福〕○香月一武内

(本)稲子、(二)本田

城西大は、初回白石のソロで先制。その裏、福岡経済も安打出塁の松本を二塁において、二死後武内が左中間安打で同点とし、2回にも二死後、2本の長短打と失策を絡めて2点を加えた。城西も7回に鈴木の三塁打を含む2安打と1死球で3点を入れて、同点に追いついたものの福岡は、二死後武内安打、上田は失策で出塁のあと、稲子が右翼席スタンドへ劇的なサヨウナラスリーランで初勝利をあげた。

(以上1回戦16試合中コールドゲーム10試合)

▼第2日(8月26日)2回戦結果

国士舘大学 1201000 : 4
早稲田大学 0001000 : 1

〔国〕○諸見里一坪松

(二)浦本・安井

〔早〕●吉形一北澤

国士舘は、初回二死後安井死球、盗塁の後浦本の二塁強襲安打で先制。2回には、3安打2四死球で2点、4回にも2本の長短打で1点を追加して有利に試合を進めた。早稲田も4回に濱田が二塁内野安打の後、一死後青山の投前安打、岡野の遊ゴロの間に1点を返したが後が続かず、国士舘

諸見里の前に、3安打の単発と7三振を喫して昨年同様またもや厚い壁を打ち破ることが出来なかった。しかし、敗れたりとはいえ、早稲田吉形は強打を誇る国士舘から、10奪三振をとったことは注目される。

国際武道大学 00100205 : 8
神戸学院大学 20000100 : 3

〔国〕○山本・松尾一高嶋

(本)栗尾・松尾、(三)伊芸、(二)高嶋

〔神〕●小藤一北村

(本)吉田、(二)瀬尾

神戸学院は、初回一番瀬尾が二塁打、北村が手堅く送った送り、三番吉田が中堅越えツーランで先制するも国際武道は、3回二死後安打の杉山を二塁に於いて、三番高嶋が右中間二塁打で1点を返した。6回にも伊芸の三塁打などで2点を奪いリードしたが、神戸もすぐさま瀬尾の中堅前タイムリーで同点となり、本大会初めてのタイブレーカーに入ったが、武道大の猛打爆発、栗尾のソロ、松尾のスリーランを含む5安打で決定的な5点を取った。

神戸も必死の反撃を試みるも、8回からリリーフした松尾の前に、3人で完璧に押さえ込まれた。

仙台大学 00000 : 0
広島修道大学 2230x : 7

〔仙〕●嶋田一粉川

(三)西野

〔広〕○原一竹上

(本)越智、(三)平岡

広島修道は、初回一死後走者二・三塁で竹上が中堅犠飛で2点先制。2回にも越智のソロと失策などで2点追加。3回には、3安打と死球、野選を絡め、3点を取った。仙台大は、広島原投手に散発3安打と8三振を奪われ完敗した。

龍谷大学 0030107 : 11
九州東海大学 0030120 : 6

〔龍〕○吉田一小熊

(三)藤岡・柳、(二)久保

〔九〕●北村一尾脇

(本)尾脇、(三)増田、(二)森脇② 龍谷大は、3回9人の打者を送り、3安打2死球2失策で3点を先制するも、九州東海も8人の打者で、森脇の二塁打を含む2安打2死球3失策で3点を返した。5回には、両チームともそれぞれ長打攻勢で、1点ずつを入れた。6回東海は、8人の打者で4安打の長短打で2点を入れリードしたものの、結果的には二死後、更に満塁のチャンスを生かせなかったことが痛かった。龍谷は、最終回11人の猛攻で柳、久保の長打を含め、6本の安打と1四球2失策で一挙に7点を奪い、そのまま逃げ切った。

京都産業大学 03137 : 14
岐阜聖徳学園大学 00003 : 3

〔京〕○松田・菅村一田中

(本)松田・田中・永田、(二)井関

〔岐〕●笠井一草

(本)勝本・道下

京都産業は、2回松田のツーランを含む3安打で3点を先制。3回にも2安打で1点追加。4回には、田中のスリーラン、5回にも永田のスリーランなど7安打を集中して、大勝した。岐阜聖徳も5回に代打勝本のソロ、道下のツーランなどで追いつけたものの既に遅きに失した。

広島工業大学 00000 : 0
中京学院大学 4720x : 13

〔広〕●蓑田、松下一篠原

〔中〕○岩田・川井一前田

(本)松原・川崎、(三)中西、(二)前田

中京学院は、初回7人の打者を送り、松原のツーランを含む2安打2四球、暴投失策などで7点を奪い、更に3回にも中西の三塁打など3本の安打で2点を追加し、一方的なゲーム展開となった。広島工大は、岩田、川井両投手の前に僅か2安打に押さえ込まれ、昨年同様2回戦で姿を消した。

日本体育大学 300304 : 10
関東学園大学 200000 : 2

〔日〕○高橋・亀田一松本・片岡

(本)筒井・松本・石橋、(三)堀田

〔関〕 ●福田一大井

(三)福田

日体大は、初回筒井のツーランなど3安打で3点と効果的な点を入れたが、関東学園も反撃に移り、二死後高橋を塁上において福田が右翼線への三塁打と暴投で2点を返した。日体大は、4回片岡のツーラン、6回には、代打石橋の左翼越えツーランなど3本の長短打と1四球で4点を加え、そのまま逃げ切った。関東学園は、2回以降単発3安打では、勝つチャンスも見いだせなかった。

IPU環太平洋大学 03102013:10

福岡経済大学 00013031:8

〔I〕奥川・村上・○奥川一平本

(本)菅野・山城・松崎、

(二)佐伯・菅野②・香月

〔福〕 ●稲子一武内

(本)本田・松本・香月、(二)鮫島

IPUは、2回菅野、山城の本塁打で早くも3点先制。3回にも松崎のソロ、5回には、佐伯、菅野の連続二塁打で2点追加。福岡経済も4回に1点を返し、5回には本田の中堅越えスリーランで追撃。IPUは、7回に1点を追加して、安全圏かと思われたが、福岡も香月のツーラン、松本のソロで3点を入れ、試合を振り出しに戻した。8回IPUは、二塁走者を手堅く送った後、暴投で拾いものの1点を奪い、更に二死後連続四球の走者を菅野がこの試合2本目の左中間二塁打で2者生還し、決定的な3点を入れた。福岡も1点を返したが、初出場同士の戦いは、IPUに軍配があがった。

▼第2日(8月26日)準々決勝戦結果

国際武道大学 00000000:0

国士舘大学 000320x:5

〔際〕 ●山本・松尾一高嶋

(二)田中・木原②

〔士〕○諸見里一坪松

(本)小田澤

両軍無得点のまま迎えた4回裏、国士舘は二死後六番小田澤が効果的なスリーランで先制。5回

にも2安打と失策などで2点を追加した。武道大は、国士舘の3安打を上回る6安打を放ちながらも、諸見里に要所を締められ完封された。

龍谷大学 01010:2

広島修道大学 33201x:9

〔龍〕 ●吉田、段田一小熊

〔広〕○原一竹上

(本)安藤・御手洗

(二)竹上・御手洗・越智

広島修道は、初回3本の長短打と1死球で早くも3点を先制。2回にも一死後安藤が中堅越えスリーランで点差を拡げ、3回には御手洗のソロなど4安打で2点追加。5回には一死後越智が二塁打で出塁、捕逸と暴投であっけないコールド勝ちとなった。龍谷大も2回と4回に夫々1点ずつを返したが力尽きた。しかし、3年ぶりのインカレ出場でベスト8は、賞賛に値する活躍であった。

京都産業大学 0000120:3

中京学院大学 002111x:5

〔京〕 ●松田一田中

(本)井関、(二)永田

〔中〕○坂本一前田

(本)前田・鈴木、(二)野田

中京学院は、3回2安打と失策を絡め2点を先制。4回には、一死後前田のソロ、5回には野田が二塁打で出塁、捕逸の連続で拾いものの1点を追加。6回には鈴木がソロが出て快勝。京産大は、漸く5回に二死後井関のソロ、6回には永田の二塁打など2安打1四球で2点を返したが、反撃もここまでだった。

日本体育大学 010024:16

IPU環太平洋大学 00400:4

〔日〕高橋・○亀田一松本

(本)伊藤・松本、(三)天久、(二)堀田

〔I〕 ●奥川・米田一平本

(本)渡部・菅野、(三)速見、(二)渡部

日体大は、2回に13人の打者を送り、五番から八番まで連続4安打、一番から五番まで連続5安打のあと、二巡目の七番伊藤のソロを含め、10安

打と2失策で大量10点を奪い、早くも優位に立った。4回には、堀田の二塁打、松本のソロで2点、更に5回にも天久の三塁打を足場に、3安打2四球1失策で4点を追加し、一方的な展開となった。IPUも3回には、渡部、菅野の本塁打、速見の三塁打などの長打攻勢で4点を返したものの、日体大の猛攻の前に為す術もなく敗れたが、全員一年生のチームでベスト8まで勝ち残ったことは、来年以降如何に成長を見せるかが楽しみである。

▼第3日（8月27日）準決勝戦結果

国士舘大学 05101 : 7
広島修道大学 00000 : 0

〔国〕 諸見里・〇赤坂一坪松・澤村

（三）高橋・安井、（二）佐方②・尾上②

〔広〕 ●原一竹上

〔審〕 P 武田 1 井田 2 谷口 3 辻

〔記〕 福井 〔放〕 山本

先攻の国士舘は、2回六番小田澤が失策で出塁、続く山口がバントで手堅く送った後、八番高橋の右中間三塁打で先制、九番尾上も左中間への二塁打で2点目、二死後二番佐方が左翼頭上を抜く二塁打、三番安井が左中間を深々と破る三塁打、四番浦本の内野安打で連続3安打のつるべ打ちで、この回一挙5点を奪い、早くも試合の主導権を握った。3回にも小田澤がショート右を抜ける安打で出塁するも代打久野のセカンドゴロで封殺されたが、久野は八番代打堀の投ゴロで二進、続く尾上の二遊間安打で生還して1点追加。更に5回にも六番代打菅野が三遊間安打、二死後尾上の左翼頭上を超すこの日2本目の二塁打で、長駆ホームインして7点目。一方、広島修道は、国士舘諸見里が決勝戦を視野に入れた余裕の交代で、3回からは二番手赤坂への継投策に僅か1安打しか打てず完敗を喫した。

日本体育大学 0002030 : 5
中京学院大学 0010000 : 1

〔日〕 〇高橋一松本

〔中〕 ●坂本一前田

▽長打なし

〔審〕 P 湯川 1 岸本 2 西嶋 3 村上

〔記〕 桜井 〔放〕 山田

前年に引き続き決勝戦へと進出をもくろむ中京学院大と、同じく2回戦敗退の汚名を晴らすべく立ち上がった日体大の激突は、日体大の攻守にわたる活躍で一矢を報い、4年ぶりに決勝戦に駒を進めた。

後攻の中京学院は、3回先頭の九番鈴木が四球、一死後二番丹生の2投目に盗塁後、バントで三進、三番福重の三遊間安打で先制点となったが、日体大も4回二死後、三番楠本が四球のあと捕逸で二進、四番筒井の右翼前安打で同点に追いついた。筒井も送球の間に二塁を陥れ、続く五番堀田の二遊間安打で生還し、一気に逆転に成功した。6回にも二番南條が二遊間、楠本も犠バント失で出塁、一死後、堀田の四球で満塁になったところで、六番代打石橋に対して好投を続けていた坂本が、痛恨の死球で追加点を与えた。二死後、八番松本が中堅左への安打で楠本生還。堀田も送球の間に生還し、一気に3点を奪った。

中京学院も最後までしぶとく戦ったが、日体大エース高橋の変化球に交わされ6死球を得たものの、チャンスにここ一発が出ず、決勝戦を前に無念の敗退となった。

▼第3日（8月27日）決勝戦結果

日本体育大学 0101000 : 2
国士舘大学 022002x : 6

〔日〕 ●高橋一松本

（本）伊東

〔国〕 〇諸見里一坪松

（本）尾上、（三）浦本、（二）澤田

〔審〕 P 上野 1 岸本 2 西嶋 3 芦田

〔記〕 服部 〔放〕 尾崎

大学球界トップに立つ、国士舘諸見里と日体大高橋両エースの投げ合いが注目された一戦であったが、国士舘の投打がかみ合い2年連続4度目の優勝で3日間にわたる熱戦も幕を閉じた。

先攻の日体大は、2回一死後、七番伊東が右中間への本塁打で先制したが、国士舘もすぐさま反撃に移った。この回先頭の六番小田澤が三遊間安打、二死後九番尾上が初球を中堅越え2点本塁打で逆

転に成功。3回にも一死後、三番安井が死球出塁、暴投で二進、四番浦本の右中間三塁打で生還。浦本も突然制球を乱した高橋のこの回2個目の暴投で、難無く生還して4点目を入れた。更に、6回にも先頭五番坪松が四球、小田澤の絶妙のバントヒット、二死後、疲れの見える高橋がまたもや致

命的な暴投で、追加点を与えてしまった。

敗れたりとはいえ、日体大も最後まで諦めずに必死に食い下がったものの、終盤はチャンスらしいきものもなく、諸見里の豪腕の前に涙をのんだが、その戦い振りは名門復活を思わせるのに十分な一戦であった。

初 め て の 連 覇

国士舘大学男子ソフトボール部 浦本 大嗣

国士舘大学の目標は常に「インカレ優勝」。これを目標に毎日練習に取り組んできました。しかも今年はインカレ連覇という偉業が懸かっていてさらに国士舘にとっては初めての快挙とあって前年度とは違うプレッシャーもありました。そして、いざ大会という前に国士舘にはいくつもの試練が立ちはだかりました。まずはインカレの組み合わせでした。1回戦から決勝まで常に強豪との戦いで、やはり連覇への道はそう簡単なものではないと改めて実感させられました。しかし、決まった以上、後戻りはできないし、相手がどこであろうと自分たちが練習でやってきたことを試合でやるだけなので、とにかく練習量はどのチームよりも1番を目指しとくに夏場は猛練習に励みました。そういった中、インカレの前哨戦とも言える東日本大会において、準決勝の早稲田戦での敗戦は国士舘にもう一度、試練が与えられました。あれだけの練習をやってきたのになぜ負けたのか、何度もミーティングを重ねました。

そして臨んだインカレであったが、大会中は毎日、晴天に恵まれていつもよりも増して暑さを感じていました。しかし、いざ試合になるとそんな弱音は言われてられないのです。インカレは相手とはもちろん、自分との戦いでもあるのです。あのいつもの試合とは違う雰囲気、緊張感、そして、なによりもあの猛暑です。そのいつもとは違うプレッシャーに勝たなければインカレ優勝はできま

せん。それを耐え抜く練習こそが本当のインカレ優勝への道だと思います。そういった練習を国士舘はやってきたので、相手がどこであろうと十分に戦っていく自信はありました。そして迎えた決勝、自分たちの学年（4年生）は過去に2度の決勝、そして、2度のインカレ優勝を経験しています。ということは決勝までいけば絶対負けない。そういったデータもあってか、ここまできたら「やるときはやる」という国士舘の1番いい雰囲気挑むことができました。そして、インカレ優勝。初の連覇達成。

このような結果を出せたのも、森池監督の指導もあり、自分たち一人一人が大きく成長した結果だと思います。そして、なによりもいつも応援して下さった楓の会（父母会）をはじめ、OBの方々の支えがあつてのことであり本当に感謝しています。自分たちの学年は4年間のうちに3度のインカレ優勝を経験することができました。こういった恵まれた時代に最高の仲間と最高の先輩方と最高の後輩たちと国士舘でやっていけたことを本当に幸せに思います。最高のソフトボール生活をありがとうございました。

あとは、後輩たちがいままで築いてきた伝統を引き継いで、来年以降、3連覇、また4連覇といまだ過去に日本体育大学しか成し遂げていない黄金時代を国士舘にも築いていってほしいと思います。

インカレを振り返って

学連学生副委員長 田中 彰（関西大学4年）

今年度のインカレの運営に私は学生役員として参加させてもらいました。近年は出来る限り「大会運営への学生の参画」を目標としています。今大会は会場が京都市街地から離れていたため、私が所属する「関西学生ソフトボール連盟」加盟大学の学生を大会補助として派遣することが出来ない。え、男子と女子の会場が別々であったので地元ソフトボール協会の方々のたくさんの協力をしていただき開催することが出来ました。今大会の運営に携わっていただいた方々には大変感謝しております。

「国士舘大学の二連覇」という形で幕を閉じた男子の大会ですが、振り返ってみますと、数多くの強豪大学同士の対戦もありました。しかし強豪大学同士の戦いでも点差がついてしまうゲームが多く見られ、ソフトボールらしい投手戦というゲームが少なく残念に思ったことも事実です。全体的に投手力に比べて打撃力が勝っているのか、それとも近年のバットの性能が良すぎるのかは一概に言うことはできませんが……。

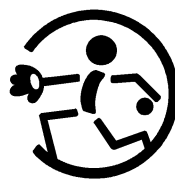
また今大会でも色々な地区の大学が上位進出しましたが、優勝は東京地区の大学という結果になりました。どの地区も上位進出する力はあると思いますが、優勝するには何か一つ足りないのでしょうか。ここ数年、男子については東京地区の力が抜けていることは多くの関係者が認めるようです。「それぞれの大学で」優勝するには何が足りていないかを探することは当然だと思いますが、各地区の加盟大学が打倒東京で一つになり、その

「地区全体」のレベルアップ・活性化することも重要であると考えます。ともすれば、我々学生は自分のチームのことのみに関心事になりがちですが、日本の大学生の競技レベルを上げるために、まずは地区、そして全国という視点でレベルアップする方策を考えることも必要でしょう。ここ数年、近畿地区では地区選抜チームを編成して他地

区への遠征をしてみてもどうかといった話も出ています（まだ実現には至りませんが）。そのような中で、他地区の優勝も見られるようになればいいと思います。今後の各地区の取組みに期待したいと思います。

試合の以外のことは、学連連絡会議の時に学生の視点からの注意事項として、関西学生ソフトボール連盟でリーグ開催の度に注意している「学生の喫煙マナー」について、今回インカレの場でも出場チームにお願いしました。その結果、東舞鶴公園野球場では球場の出入口付近で喫煙する学生が多く見られ、その他の球場ではグラウンドの端のほうで喫煙している姿を多く見かけました。多くの学生が禁煙者に配慮したところで喫煙しており、吸殻をポイ捨てすることも少なくなったようですが、中にはポイ捨てをする学生も見られ残念に思います。連絡会議で各大学の代表者には伝えることは出来ましたが、各チーム内にその注意事項がどれだけ行き渡ったかわからないところです。公共の場をお借りして行う大会なので、今後も全国で大会を快く受け入れていただくためにも、そして地元の子どもたちに良い影響を与えていくためにも、一人ひとりが意識して欲しいです。また連盟としても喫煙場所を明確にするなど色々対策をしていかないといけないと思いました。

最後に、インカレは大きなイベントですから、地区のリーグ戦のように学生主体ですべて運営できるわけではありませんが、次年度以降の学生役員は関係者の皆さんと協力しながら、「いい大会にするために、『学生目線でできること』は何か」を考え、少しずつ実行していったほしいと考えています。



男子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席数	打点	安打	得点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打妨	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合	
○	7	尾上 弘隼	国 士 館	13	11	7	2	5	・	1	1	1	・	6	9	・	1	・	2	0.636	5
○	4	堀田 哲史	日本体育	17	13	8	7	3	1	3	・	1	1	5	11	・	・	1	1	0.615	5
○	5	安井 琢磨	国 士 館	16	12	7	6	4	・	1	3	1	2	4	11	・	1	1	1	0.583	5
○	8	福重 遥	中京学院	12	7	4	4	2	・	5	・	1	・	4	9	・	・	・	・	0.571	4
○	DP	小田澤正紀	国 士 館	15	14	7	4	4	・	1	・	3	・	1	8	・	1	・	・	0.500	5
	3	浦本 大嗣	国 士 館	15	12	6	2	5	・	1	1	1	・	7	8	1	・	1	2	0.500	5
○	3	松原 史郎	中京学院	12	8	4	4	6	・	4	1	1	・	4	8	・	3	・	・	0.500	4
	5	新出 雅之	龍 谷	12	11	5	3	2	・	1	・	2	2	3	6	・	・	・	・	0.455	3
	3	伊藤 皓二	日本体育	16	14	6	7	4	・	2	・	2	・	・	8	・	2	・	・	0.429	5
	2	松本 敬介	日本体育	15	14	6	5	8	1	・	・	1	・	・	6	・	3	・	・	0.429	5
○	8	天久 未来	日本体育	21	21	8	5	4	・	・	・	4	3	2	8	・	1	1	・	0.381	5
○	7	中西 健太	中京学院	12	9	3	3	4	1	2	・	3	・	1	5	・	・	1	・	0.333	4
○	6	藤岡 瑞己	龍 谷	12	9	3	4	1	1	1	・	・	1	2	4	1	・	1	1	0.333	3
○	54	紙漉 高志	中京学院	13	13	4	3	2	・	・	・	2	・	1	4	・	1	・	・	0.308	4
○	7	南條 拓磨	日本体育	19	14	4	4	3	2	3	・	5	1	3	7	・	・	・	・	0.286	5
○	5	筒井 拓友	日本体育	17	14	4	6	4	・	3	・	4	2	2	7	・	1	・	・	0.286	5
○	8	佐方 康二	国 士 館	15	14	4	2	1	1	・	・	4	・	1	4	・	・	・	2	0.286	5
○	2	前田 貴則	中京学院	12	11	3	3	3	・	1	・	3	・	1	4	・	1	・	2	0.273	4
	5	佐伯 忠昭	I P U	12	8	2	3	1	1	1	2	3	・	2	5	・	・	・	1	0.250	3
	2	平本 拓朗	I P U	12	8	2	4	1	・	3	1	3	1	2	6	・	1	・	・	0.250	3

男子大会投手成績ベスト10 規定投球イニング11以上）

左投	選手名	大学名	投球回	打席数	打者数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本打	暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
	松田 光	京都産業	14	57	52	10	5	・	1	4	・	19	2	・	1	221	0.00	2	1	3
	諸見里 俊	国士館	30	105	104	16	5	4	3	5	3	29	2	1	・	407	0.93	4	0	5
	北村 雄介	九州東海	12	58	51	15	11	3	2	4	1	5	・	・	・	193	1.75	1	1	2
	坂本 俊行	中京学院	15	58	51	10	8	4	1	5	1	23	1	・	・	231	1.87	1	1	3
	原 勇紀	広島修道	21	93	83	23	9	8	2	3	3	21	・	・	・	321	2.67	3	1	4
	山本 逸平	国際武道	13	54	44	7	6	5	2	3	5	23	2	・	・	240	2.69	1	1	3
	高橋 速水	日本体育	22.1/3	92	78	13	10	9	3	9	2	27	1	6	2	366	2.82	2	1	5
	吉形 太祐	早稲田	12	57	49	14	6	6	・	5	3	18	1	・	・	195	3.50	1	1	2
	吉田 匠	龍谷	16	79	67	20	12	9	3	7	2	14	2	・	2	285	3.94	2	1	3
○	小藤 透	神戸学院	12	53	49	15	10	7	3	1	・	11	2	・	・	185	4.08	1	1	2

文部科学大臣杯第42回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成19年8月24日(金)～8月27日(月)

会場：京都府福知山市／福知山市民球場他

大会感想等

大会記録長 井之上哲夫

残暑厳しい中、選手はその暑さに負けず熱戦が繰り広げられた。今大会はベスト4に関東勢が一チームも残れず、全国の勢力図が変わりつつあることを知らせる大会でもあった。特に関西勢の活躍が目立ち、地元役員としてもやりがいのある大会になったと思われる。

予想通りであるが、投手力の安定したチームが上位に進出してきた。結果的には、最終日はユニバーシアード大会に出場して投手同士の戦いになった。

印象に残った選手は、次の通りである。

投手部門

山口 憲子(園田学園) 3勝0敗 防御率0.00

高橋 真弓(東北福祉) 3勝1敗 防御率1.05

繁藤恵理佳(日本体育) 2勝1敗 防御率0.00

打撃部門

渡邊 華月(園田学園) 打撃率0.533 三塁打4

岡本 由香(大阪国際) 打撃率0.500 盗塁5

大会講評

近畿地区常任理事 久保田豊司

21世紀にはばたく北近畿の都「福知山」において、本年度の大学日本一が24チームによって争われた。今大会は初出場が6チームと、新しい勢力が確実に台頭し現在の大学状況を如実に表している。すなわち、伝統を築き上げてきた大学と、これからの時代を切り開く新興勢力の戦いである。大会前の評価では、東日本・西日本インカレで好成績を残した日本女子体育大学、早稲田大学、富士大学、園田学園女子大学、大阪大谷大学、大阪国際大学、確実に実力をつけてきた東北福祉大学、

大会結果

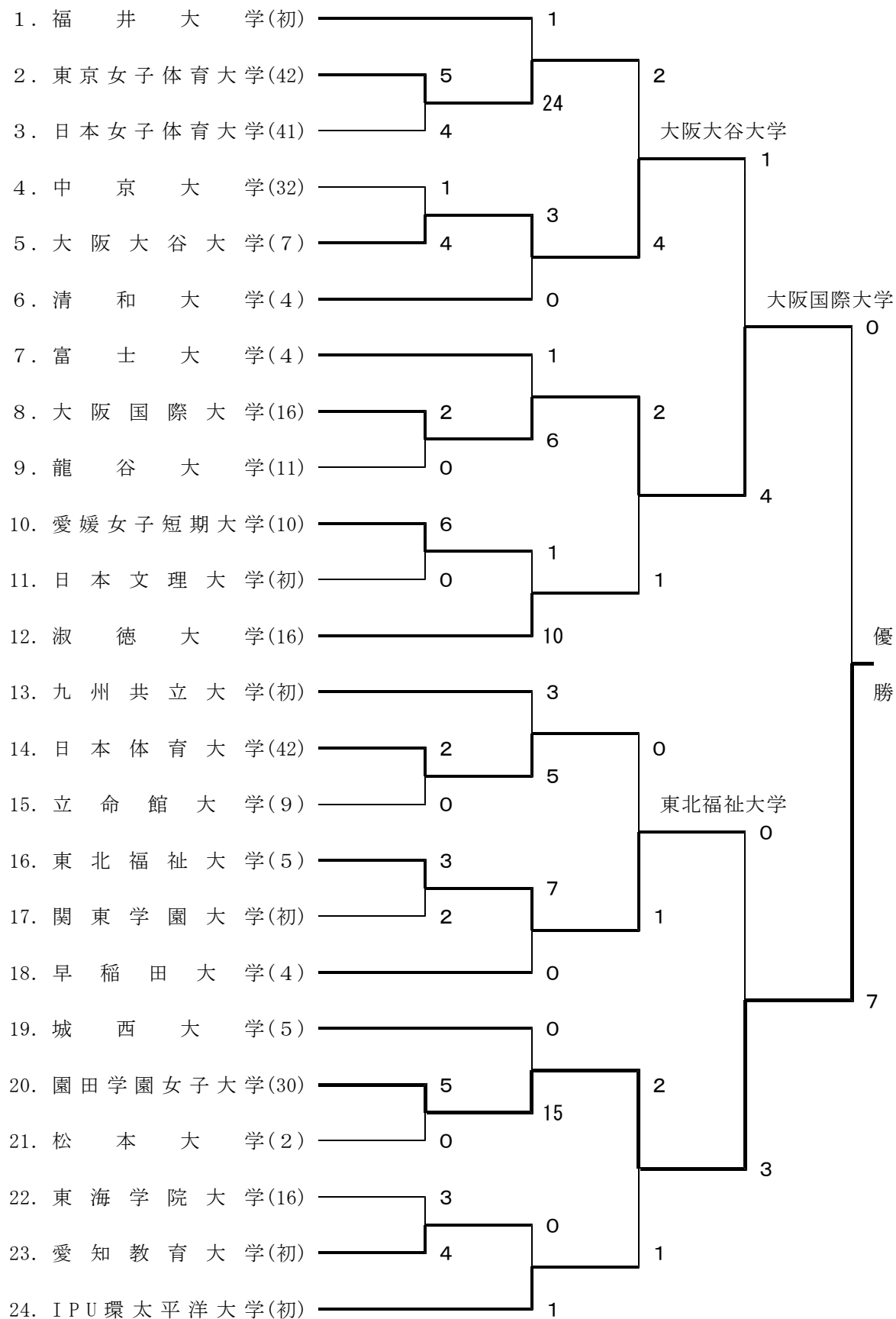
強豪大学の東京女子体育大学、日本体育大学を中心に試合が展開されるものと予想された。

また、第24回ユニバーシアード大会に出場した選手の活躍も見所の一つとなった。

優勝は園田学園女子大学であった。平成元年以来18年振りの優勝であり、チームにとってその喜びはひとしおであろう。準優勝は雰囲気良くチームがまとまっていた大阪国際大学であった。3位は大阪大谷大学と東北福祉大学であり、ベスト4にはユニバーシアード大会に出場した投手を擁する大学が連なった。また、ベスト4に近畿地区から3大学と、これまでにない結果であり、数年前にリーグ戦の運営方法を改革した成果が現れてきたものと思われる。ベスト8には東京女子体育大学、日本体育大学、淑徳大学と優勝経験のある大学の中に、初出場の環太平洋大学が食い込んだ。1年生だけのチームであったが、優秀な選手が集まっており来年以降楽しみなチームである。

ここ数年、企業チームが縮小している状況のため、優秀な選手が大学へ進学しており、各大学とも競技力が確実に向上している。大切なことは、大学へ入学してきた優秀な選手を、大学が責任を持って競技力を向上させることが出来るのか、このことが各大学に投げかけられた大会でもあったように思えた。大学の真価が問われるのはこれからである。





園田学園女子大学
(18年ぶり4回目)
優勝

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月25日）1回戦結果

日本女子体育大学 1 0 0 0 0 1 0 2 : 4
東京女子体育大学 0 0 0 2 0 0 0 3x : 5

〔日〕●河本－藤川

（二）中本・藤川

〔東〕小澤・○神山－鶴澤

（二）鶴澤・高橋・森、（三）吉良

タイブレイカーの末、東京女子体育大学が粘りの攻撃で日本女子体育大学を制す。

大阪大谷大学 0 3 0 0 0 1 0 : 4
中京大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1

〔大〕○上村－吉田

（二）下山

〔中〕●小沢－瀬ノ口

（三）窪田

少ないチャンスを生かした大阪大谷大学の勝利で、両投手の好投が光った。

大阪国際大学 2 0 0 0 0 0 0 : 2
龍谷大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

〔大〕○中里見・石垣－寺本

（二）東田

〔龍〕●真辺・馬場－西

大阪国際大学が初回到2点を先制し、以後龍谷大学の反撃を抑えて勝利した。

日本文理大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
愛媛女子短期大学 0 1 0 0 2 3 x : 6

〔日〕●嶋田－菊原

（二）矢部

〔愛〕○玉城－馬場

（二）青木・玉城

愛媛女子短期大学は、玉城投手の完投勝利で2回戦に進出した。

日本体育大学 1 0 0 0 1 0 0 : 2
立命館大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

〔日〕○重藤－鹿島

（二）古宇田・滝澤

〔立〕●岡田－落合

（二）田村

日本体育大学は、初回と5回に得点し、試合を有利に進めて勝利した。

関東学園大学 0 2 0 0 0 0 0 : 2
東北福祉大学 1 0 0 0 0 2 x : 3

〔関〕●小野－正根知・大塚

（二）設楽

〔東〕岡部・長南・○高橋－村中

（二）井上

東北福祉大学が先制し、2回に逆転されたが、6回に再逆転して辛勝した。

園田学園女子大学 0 0 3 1 1 0 0 : 5
松本大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

〔園〕山口・○西岡・加藤－渡邊・山本

（本）船田、（三）渡邊・森田、

（二）山本・渡邊

〔松〕●伊東－小山

園田学園女子大学は3回に3点を先制、4・5回にも加点して勝利した。

東海学院大学 0 0 0 0 0 2 1 : 3
愛知教育大学 1 0 2 1 0 0 x : 4

〔東〕●浦上－福元

（二）福元

〔愛〕○河部・柳生－鈴木

（二）本多・飯田・阿部

愛知教育大学は、東海学院大学の後半の反撃を振り切り、2回戦に進出した。

▼第1日（8月26日）2回戦結果

福井大学 1 0 0 0 0 : 1
東京女子体育大学 5 5 1 3 1 x : 24

〔福〕●森本・冬廣－八木

（二）井口・冬廣

〔東〕小澤・○木村－鶴澤

（二）長谷川・吉良・鶴澤②・小柳薫②・

中田沙織、（三）田中

東京女子体育大学は、毎回の大量24得点で、圧勝した。

清和大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
大阪大谷大学 0 0 0 0 0 3 x : 3

〔清〕●忠田－長谷川

〔大〕○上村－吉田

息詰まる投手戦となった試合は、終盤のチャンスを生かして大阪大谷大学が勝利した。

富 士 大 学 0 0 1 0 0 0 0 : 1
大阪国際大学 0 0 1 1 4 0 x : 6

〔富〕●成田・伊東－後藤

(三)畑山

〔大〕石垣・○中里見－寺本

(二)元木②・大村

大阪国際大学は、4回に1点を勝ち越し、5回には大量4点を加えて試合を決めた。

淑 徳 大 学 1 1 0 1 0 1 6 : 10
愛媛女子短期大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1

〔淑〕○小林－澤岡

(本)本田

〔愛〕●玉城・脇坂・中野－馬場

淑徳大学が小刻みに加点、終盤の大量点で快勝、愛媛女子短大は前半の失策に泣いた。

▼第2日(8月26日)2回戦結果

日本体育大学 1 0 0 1 3 0 0 : 5
九州共立大学 0 0 0 0 0 0 3 : 3

〔日〕○重藤・邑上－鹿島

(二)佐々木

〔九〕●高村－村田

日本体育大は、九州共立大の追い上げを封じて逃げ切った。

早 稲 田 大 学 0 0 0 0 0 : 0
東北福祉大学 2 1 0 4 x : 7

〔早〕●山下一内田

〔東〕○高橋－村中

(二)横沢、(三)加藤

東北福祉大は、4回の集中攻撃で前年度優勝校を撃破した。

園田学園女子大学 0 2 5 8 0 : 15
城 西 大 学 0 0 0 0 0 : 0

〔園〕山口・尾崎・○加藤－渡邊・増井

(二)西・山本・尾崎、(三)渡邊②

〔城〕●黒木・岡田－阿波・川口

園田学園女子大が投打で城西大を圧倒し、コー

ルドゲームで快勝した。

愛 知 教 育 大 学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
IPU環太平洋大学 0 0 0 1 0 0 x : 1

〔愛〕●河部－鈴木

(愛)阿部

〔I〕○江里口－三崎

IPU環太平洋大は、ワンチャンスを生かして得点し、ベスト8へ進出した。

▼第2日(8月26日)準々決勝戦結果

大 阪 大 谷 大 学 0 0 4 0 0 0 0 : 4
東京女子体育大学 0 0 2 0 0 0 0 : 2

〔大〕○上村・乾－吉田

(二)上村・倉永・山本・横山

〔東〕●木村・小澤－鶴澤

(二)森・長谷川

大阪大谷大は、3四死球と3本の二塁打で4点を挙げて勝利した。

大阪国際大学 0 0 1 1 0 0 0 : 2
淑 徳 大 学 0 0 0 1 0 0 0 : 1

〔大〕○中里見－寺本

〔淑〕●小林・多田－澤岡

大阪国際大が接戦の末、守りきって勝利を収めた。

日本体育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
東北福祉大学 0 0 0 0 1 0 x : 1

〔日〕●重藤－鹿島

(二)徳村

〔東〕○高橋－村中

東北福祉大が5回に1点を入れ、投手の好投で守りきって勝利した。

IPU環太平洋大学 0 1 0 0 0 0 0 : 1
園田学園女子大学 0 0 0 0 2 0 x : 2

〔I〕●溝渕－三崎

〔園〕加藤・○尾崎・山口－渡邊

(二)吉川

園田学園女子大学が5回に集中打で2点を取り、逆転勝ちでベスト4へ進出した。

▼第3日(8月27日)準決勝戦結果

大阪国際大学 0012010:4
大阪大谷大学 0000010:1

〔際〕○中里見一寺本

(二)服部

〔谷〕●上村一吉田

〔戦評〕大阪国際大学は、3回二死から岡本、服部の連打で1点を先制する。4回にも2点を加え、6回には、大村がタイムリー打を放ち、試合を決める。大阪大谷大学は、6回に5回まで好投の大阪国際・中里見の制球の乱れをつき1点を返すが、後続をたたれ惜敗する。

東北福祉大学 0000000:0
園田学園女子大学 002001x:3

〔東〕●高橋一村中

〔園〕○山口一渡邊

(本)池原、(三)渡邊、(二)池原

〔戦評〕園田学園女子大学は3回吉川、森田、渡

邊の3連打で2点を先制し、6回の池原の本塁打で勝利を決定づけた。東北福祉大学は、園田女子・山口に散発3安打に抑えられ2年ぶりの決勝進出ならず。

▼第3日(8月27日)決勝戦結果

大阪国際大学 0000000:0
園田学園女子大学 300031x:7

〔大〕●中里見・石垣・尾崎一寺本・柳田

〔園〕○山口・尾崎・西岡・山口一渡邊

(三)谷池、(二)谷池

〔戦評〕園田学園女子大学が、初回、吉川・森田・渡邊の3連打などで3点先取、5回には尾崎・吉川の連打を足掛かりに3点を加え、勝利を決定づけた。大阪国際大学は、園田学園大学・3投手に、散発2安打におさえられ無念の敗退。園田学園女子大学は、18年ぶりに王者奪回。(4回目の優勝)

女子大会打撃ベスト20(規定打席数9以上)

左打	位置	選手名	大学名	打席数	打点	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打妨害	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合
○	3H	小柳 薫	東京女体	12	10	6	4	2	・	2	・	・	・	1	8	・	・	・	2	0.600	3
	4	滝澤 彩	日本体育	11	9	5	2	1	・	1	1	・	2	4	7	・	・	・	1	0.556	3
○	6	高橋あゆみ	日本体育	11	9	5	3	・	・	2	・	・	1	7	・	・	・	・	・	0.556	3
○	5	吉良真利菜	東京女体	9	9	5	3	3	・	・	・	1	2	2	5	・	・	1	1	0.556	3
	98	西 澄香	園田学園	15	11	6	4	3	・	1	1	・	・	3	8	・	・	・	1	0.545	5
○	7	船田 ゆり	園田学園	17	15	8	4	5	・	1	1	1	1	4	10	・	1	・	・	0.533	5
○	2	渡邊 華月	園田学園	16	15	8	2	5	・	1	・	1	1	3	9	・	・	4	1	0.533	5
○	8	岡本 由香	大阪国際	17	14	7	3	・	2	1	・	2	5	6	8	・	・	・	・	0.500	5
	6	加藤 恵理	東北福祉	11	11	5	1	2	・	・	・	2	・	2	5	・	1	・	・	0.455	4
○	3	吉川 未知	園田学園	18	18	8	4	2	・	・	・	・	2	4	8	・	・	・	1	0.444	5
	6	森元麻由美	淑 徳	9	7	3	1	1	1	1	・	1	1	2	4	・	・	・	・	0.429	5
	2	鶴澤 眞緒	東京女体	12	10	4	2	6	2	・	・	1	・	2	4	・	・	・	3	0.400	3
○	8	菊池 美咲	淑 徳	9	5	2	・	・	2	・	2	・	・	3	4	・	・	・	・	0.400	2
	3	粕張 舞	東北福祉	10	8	3	1	・	・	1	1	2	・	2	5	・	・	・	・	0.375	4
○	5	横沢あゆみ	東北福祉	12	11	4	2	2	・	1	・	2	2	1	5	・	・	・	1	0.364	4
	5	東田 宣子	大阪国際	15	14	5	4	2	・	1	・	2	1	2	6	・	・	・	1	0.357	5
	9	服部 美望	大阪国際	17	15	5	1	1	1	1	・	2	1	2	6	・	・	・	1	0.333	5
	4	谷池 紫穂	園田学園	16	12	4	4	1	・	2	2	1	・	2	8	・	・	1	1	0.333	5
○	4	井上 愛	東北福祉	12	12	4	2	1	・	・	・	・	・	2	4	・	・	・	1	0.333	4
○	4	田中千央里	東京女体	11	9	3	4	3	・	1	1	・	2	1	5	・	・	1	・	0.333	3
	78	森 さやか	東京女体	9	9	3	2	1	・	・	・	・	・	1	3	・	・	・	1	0.333	3
○	8	城戸絵理沙	東京女体	9	9	3	2	1	・	・	・	・	1	2	3	・	・	・	・	0.333	3
○	5	関 友希央	淑 徳	9	9	3	2	・	・	・	・	・	1	2	3	・	・	・	・	0.333	2

女子大会投手成績ベスト5 規定投球イニング16以上)

左 投	選 手 名	大 学 名	投球回	打 者 数	打 数	被 安 打	失 点	自 責 点	被 犠 打	与 四 球	与 死 球	奪 三 振	被 本 打	暴 投 数	不正 投	投 球 数	防 御 率	勝 試 合	負 試 合	試 合 数
	山口 憲子	園田学園	19.1/3	68	66	6	・	・	2	・	・	21	・	・	・	297	0.00	3	0	5
	繁藤恵理佳	日本体育	18	64	61	8	1	・	1	2	・	23	・	1	1	238	0.00	2	1	3
	高橋 真弓	東北福祉	20	76	73	15	3	3	1	2	・	8	1	・	・	270	1.05	3	1	4
	中里見友紀子	大阪国際	25.2/3	104	87	22	5	4	6	7	4	8	・	1	・	384	1.09	4	1	5
	上村さつき	大阪大谷	27	108	101	23	7	5	3	3	1	24	・	・	・	414	1.30	3	1	4

園 田 の 絆

園田学園女子大学ソフトボール部主将 山本 久美子

去年のインカレ初戦敗退、ここからのスタートだった。スコアは1－0という結果だが良い試合はできた。周囲の人からは、「ナイスゲーム」・「よくがんばった」などと言われたが、負けは負け、もうこんなに悔しい思いはしたくない。「惜しかったね」では終わりたい、この舞台で本当に日本一になりたい。そんな思いでスタートした新チーム。勝つためには技術面だけでなく、ここという時に力を発揮できる自立した強い個人を作ることから始まった。持久力をつけて、暑い夏を乗り切るために冬場はとにかく走りこみをした。この厳しい走りこみを中心とした基礎練習の繰り返しにより、強い個人、メンタル面の強化にもつながった。

そして、長い冬が過ぎ、春が来て、インカレの予選でもある春リーグが開幕した。私達は順調に勝ち進み、最終日を全勝でむかえることができた。しかし、春リーグ最終戦、優勝を決める試合で私達はサヨナラ負けを喫してしまった。悔し涙を流す部員もいた。しかし、インカレの切符を落としたわけではない。私達には次がある！！この試合の結果を踏まえ、去年のインカレを思い出し、「惜しかったね」では終わらない、「勝ちにこだわるチームになろう」という目標を立てた。一人一人が勝ちにこだわる事によって、自然とチームの目標は定まり、チームが一つになれると感じた。しかし、インカレまでの期間、部員一人一人の

気持ちが常に一つだったわけではない。部員は全員で42名、インカレのメンバーは25名と限られている。その中で、42名も部員がいればそれぞれの思いがあり、うまくいかないこともあった。そんな時でも、同じ方向を向いて進むことができたのは日本一になりたいという気持ち、そして板谷監督・木田コーチを胴上げしたいという強い思いがあったからである。

そして迎えたインカレ。私達に不安や迷いは一つもなかった。インカレという舞台でこのメンバーで戦うことができる期待と喜びでいっぱいであった。ここまできたら、やるしかない。部員一人一人がそう強く思い、試合に臨んだ。決勝戦に進むまでの間、一つ一つの試合に対して「一戦必勝」の気持ちで戦い、勝ち進むことができたのは、グラウンドでプレイした部員だけでなく、ベンチには入れなかったがベンチの外で声を枯らして応援してくれた部員の力強い支えがあったからである。この支えなしではここまでこれなかったと思う。そして、応援にきてくださったOGの方、学校関係者の方、保護者の方など、たくさんの人の思いを胸に全員で戦った。

インカレ優勝を通して、園田のソフトボール部の強い絆を感じた。部員だけでなく監督・コーチ、OG、保護者を始め、園田を応援してくださった全ての人の気持ちが一つになったからこそ、掴み取ることができた優勝である。この多くの方々に対

して勝つことにより、少しは恩返しができたのではないかと思う。これからも園田の強い絆・伝統を受け継ぎ、全てのことに對して感謝の気持ちを忘れず、後輩達にはさらに上を目指していったほしい。

最後にインカレで優勝する瞬間のために、私達は今までやってきた。優勝することで、一年の嫌なことやつらかったことが全て報われた気がする。全国の頂点に立ち、最高の瞬間を味わえた。この勝つ喜びを私達は一生、忘れないだろう。

第42回全日本大学ソフトボール選手権大会に関わって

学連学生委員長 橋本 愛希（日本大学4年）

2007年8月24日から27日まで、全日本大学ソフトボール選手権大会が京都府舞鶴市、福知山市で盛大に行われました。

私は福知山市の女子の部に参加させて頂きました。歴史ある街で今大会が行われること、そして参加させて頂いたことを大変光栄に思います。

全日本大学ソフトボール選手権大会はその名の通り、出場チームは全国の予選を突破した強豪校ばかりです。一つひとつのプレイの速さ、華麗さ、巧みな技術は試合観戦している人すべてを「あっ!」と言わせるようなプレイばかりでした。おそらく毎日毎日全国大会での勝利を目指して、一生懸命練習していたのだろうと感じさせられました。したがって、その成果を今大会にぶつける気持ちはどのチームもとても熱いものでした。また、全国大会という高いレベルの戦いの中で、一つのプレーで流れや空気が変わるという臨場感は文章では伝えきれないものでした。きっと選手達は色々な気持ちを抱えながらグラウンドに立っているのだろうとも感じました。自分のプレーが出来た時には本当に素敵な表情をしていました。一方で、自分の思い通りにいかなかった選手もいたと思いますが、ソフトボールという競技に真剣に取り組んでいる姿は同じ大学生として本当に「かっこよかった」です。

日々の練習の積み重ねが大きな大会で発揮でき、勝利を勝ち取るということは選手にとってかけがえない時間、空間だったことと思います。また、負けてしまったチームも今大会で得るものがとても多くあった事と思います。この経験をこれから

に生かして行って欲しいと思います。

また、運営に目を向けると本当に多くの方々によって大会が運営されていることに驚かされました。全日本大学ソフトボール選手権大会を開催し、無事に終了できたのは、この大会に参加した全ての人のおかげだと思います。盛大な開会式から始まり、3日間の大会、そして閉会式と多くの方々のご協力を賜り、素敵な大会に参加できたことにとても感謝しています。

朝早くから試合終了後まで、汗をぬぐい、真黒に日焼けしながら「大会がうまく運営されているか」を気にかけて一生懸命働かれている本部の方を見ていると毎日頭の下がる思いでした。そして、大会を運営することの大変さを学ばせて頂きました。試合のことだけでなく、観客の方々にも目を配っており、選手の場合アナウンスや観客席の確保など来場者の方々は。試合を楽しくそしてわかりやすく観戦できたのではないかと思います。

私は選手だけでなく、参加したすべての人にとって第42回全日本大学ソフトボール選手権大会が有意義な大会であったことと思います。私も実際、目・耳・肌で今大会を感じ、多くのことを学ばせて頂きました。そして全員が好きなソフトボールという競技を通じて人と人とが世代を越えて交流し、ひとつの大会を成功させることの素晴らしさを実感しました。来年度、再来年度も全日本大学ソフトボール選手権大会が、参加する全員にとって有意義な大会でありますよう、そしてソフトボールという競技がますます発展しますよう願っております。

第52回全日本総合男子選手権大会

会期：平成19年9月22日（土）～24日（月）

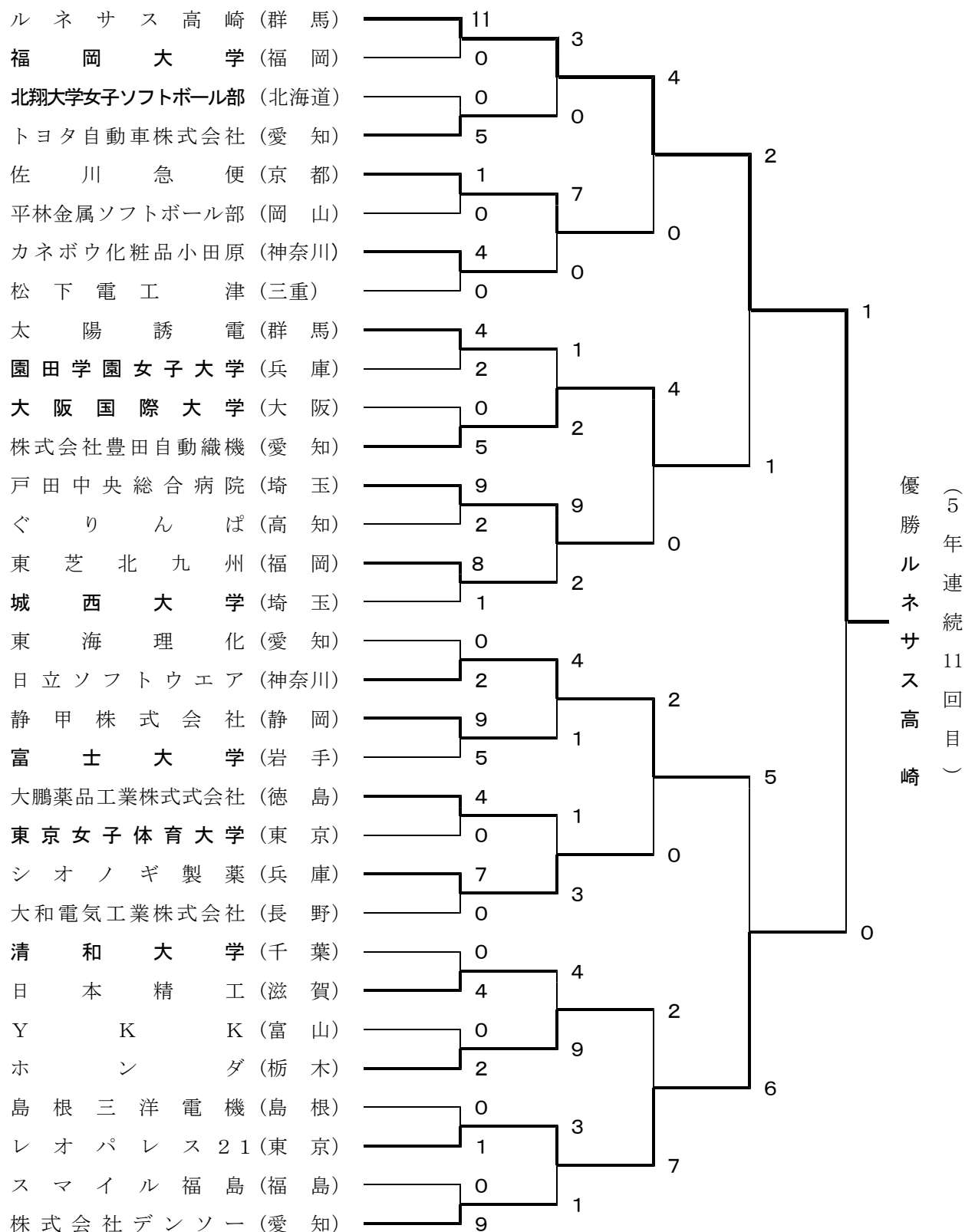
会場：島根県松江市松江市営野球場他

チーム名	順位	得点	失点	得失点差
高知パシフィックウエーブ (高知)	1	7	0	7
K O A 株式会社 (長野)	2	2	1	1
S T オール大分 (大分)	2	5	1	4
Red Wingus 津 (三重)	5	14	0	14
埼玉県庁クラブ (埼玉)	14	7	5	2
京都サンファニークラブ (京都)	7	3	4	-1
ウエダ バッファロー (広島)	3	4	9	-5
株式会社デンソー (愛知)	4	8	6	2
山崎クラブ (兵庫)	8	2	0	2
徳島市役所 (徳島)	2	11	2	9
ホシザキ電気 (島根)	11	0	5	-5
旭川フライヤーズ (北海道)	0	4	7	-3
旭化成 (宮崎)	4	3	6	-3
秋田新電元 (秋田)	3	5	6	-1
N e o 長崎 (長崎)	5	1	6	-5
山梨クラブ (山梨)	1	8	0	8
トヨタ自動車株式会社 (愛知)	8	0	6	-6
有家クラブ (長崎)	0	0	2	-2
日新製鋼 (広島)	0	1	7	-6
国士舘大学 (東京)	1	7	1	6
西日本シロアリ (鹿児島)	7	0	5	-5
YAMAGATA CLUB (山形)	0	2	0	2
大阪桃次郎 (大阪)	2	0	7	-7
三菱重工名古屋 (愛知)	0	12	0	12
大阪ツツキグローバル (大阪)	12	0	5	-5
大牟田記念病院クラブ (福岡)	0	3	0	3
U S C 浦安 (千葉)	3	4	0	4
豊田自動織機 (愛知)	4	7	0	7
ダイワアクト (佐賀)	7	0	3	-3
中京学院大学 (岐阜)	0	2	7	-5
四国生コンS・B・C (愛媛)	2	9	0	9
ホンダエンジニアリング株 (栃木)	9			

第59回全日本総合女子選手権大会

会期：平成19年9月21日（金）～23日（日）

会場：大分県市竹田市竹田市民球場他・豊後大野市大野総合運動公園

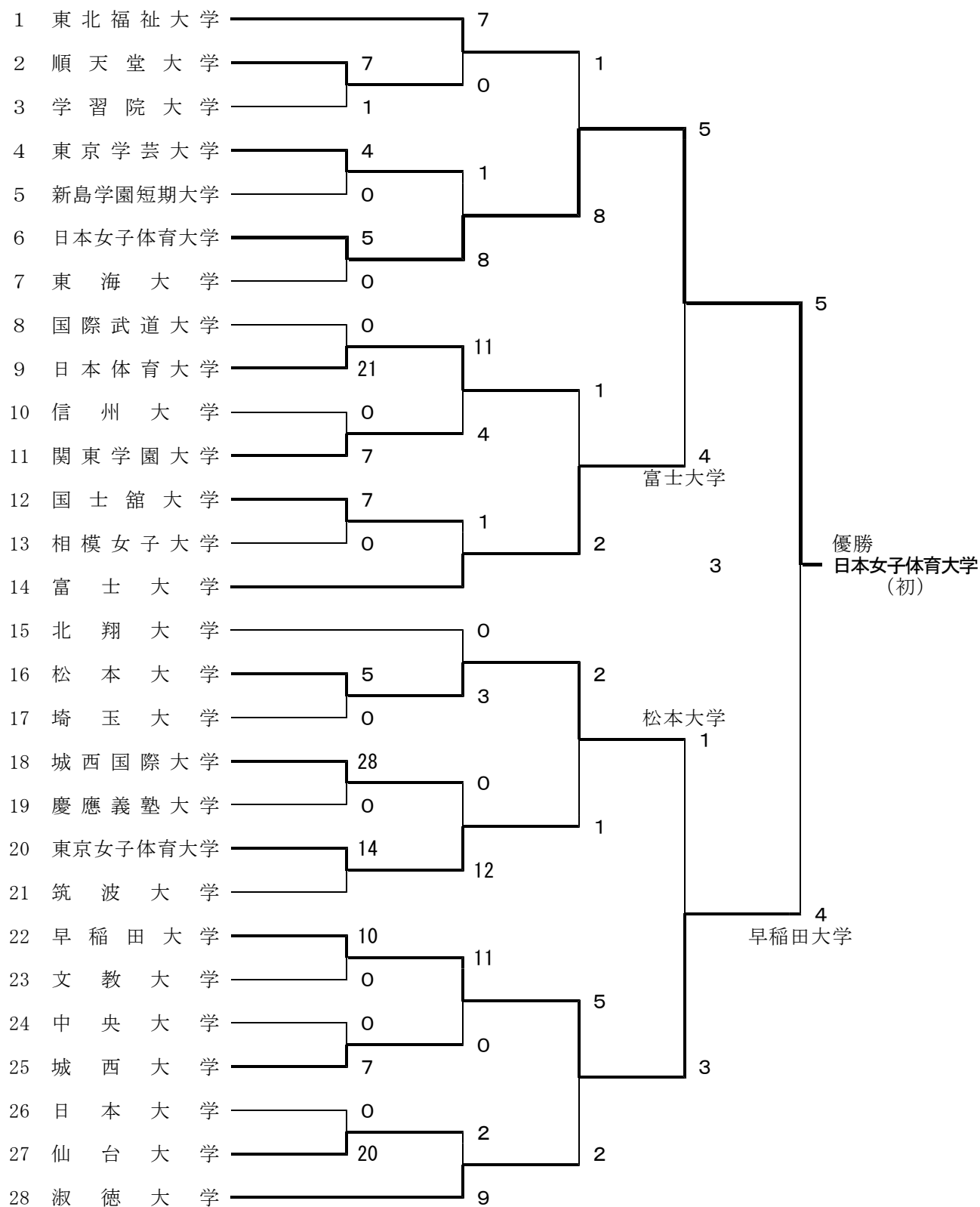


第22回東日本大学ソフトボール選手権大会

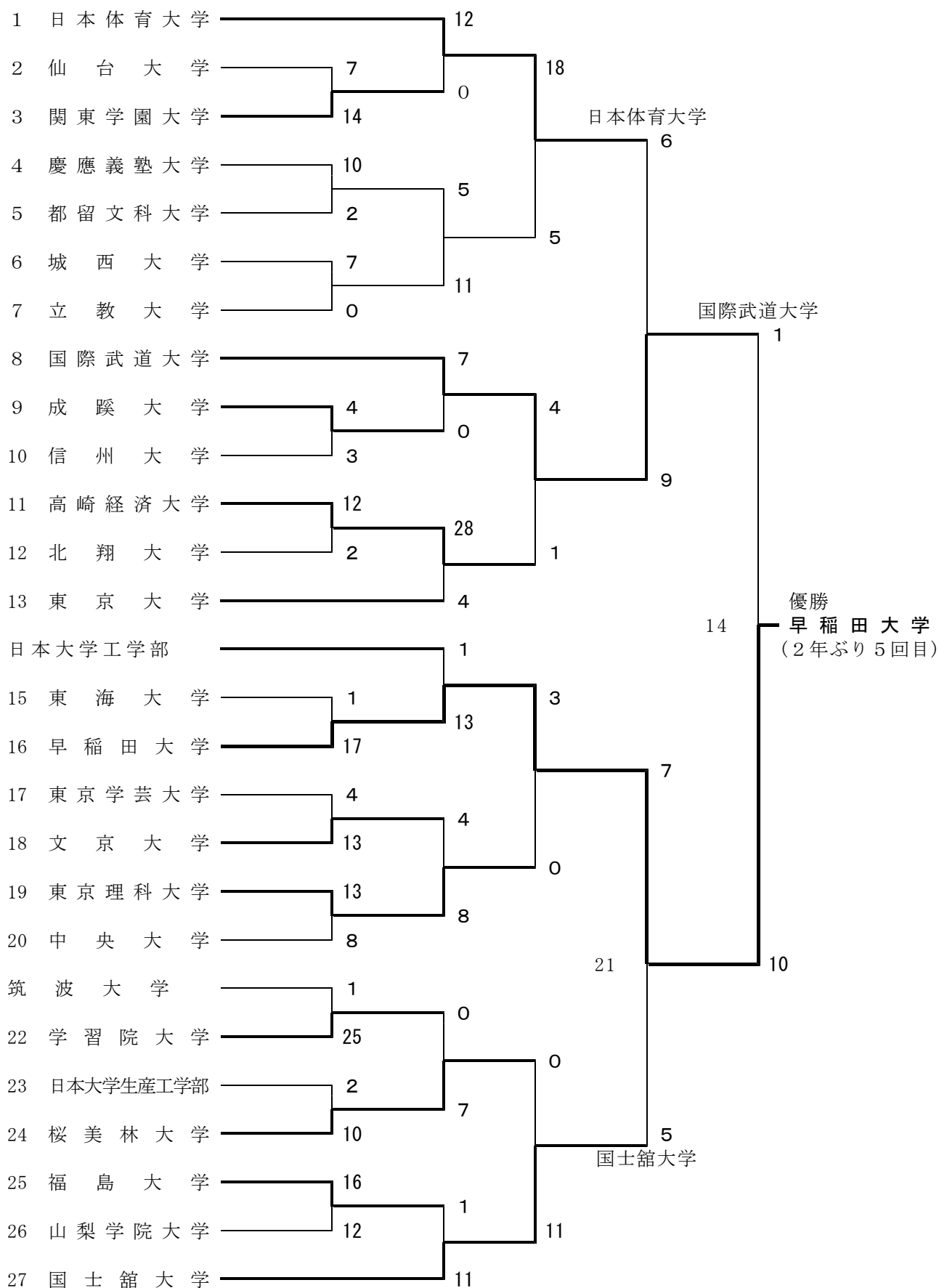
会期：平成19年8月11日（土）～13日（月）

会場：長野県大町市・安曇野市・松川村

女子大会結果



男子大会結果

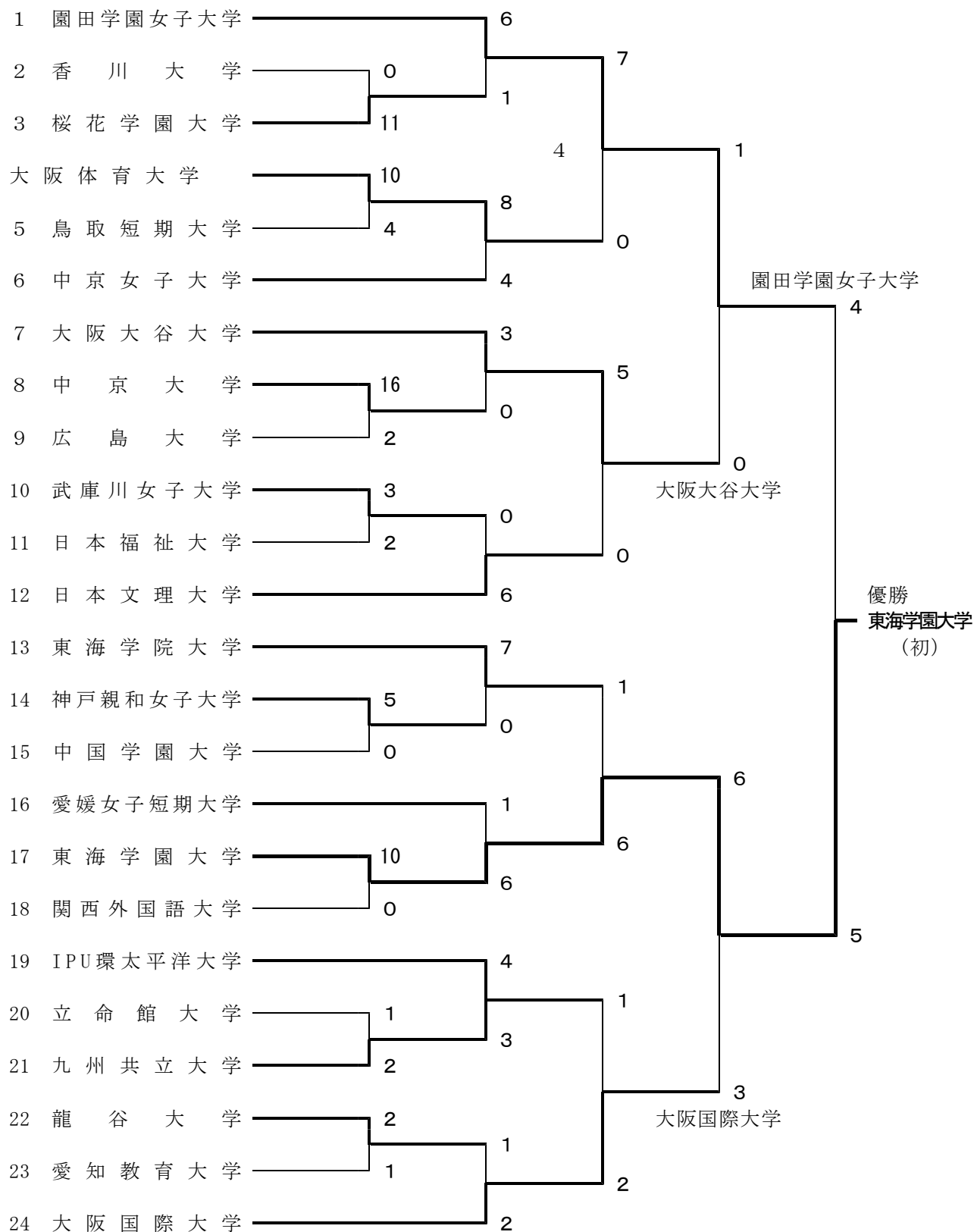


第38回西日本大学ソフトボール選手権大会

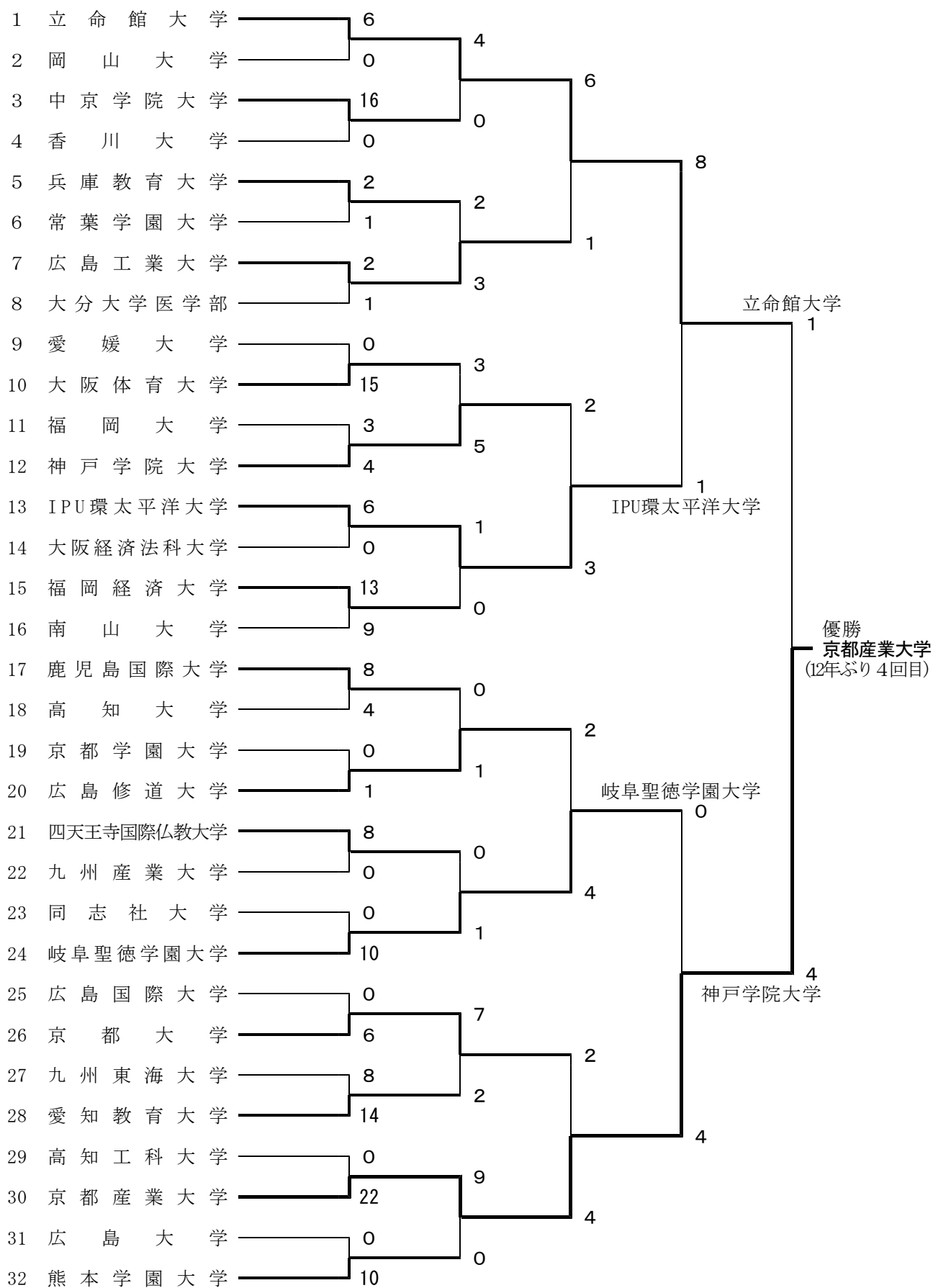
会期：平成19年 8月10日（金）～13日（月）

会場：愛媛県宇和島市丸山公園野球場・吉田公園野球場他

女子大会結果



男子大会結果



トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯
第6回大学ソフトボール東海オープン

会期：平成19年3月14日(水)・15日(木)

会場：愛知県安城市／安城総合運動公園

男子予選リーグ戦(3月14日)

Aグループ	高崎経済	愛知教育	愛知	順
高崎経済		● 0-13	● 10-13	3
愛知教育	○ 13-0		● 5-9	2
愛知	○ 13-10	○ 9-5		1

Cグループ	京都	日本福祉	中京	順
京都		○ 3-2	● 0-7	2
日本福祉	● 2-3		● 3-4	3
中京	○ 7-0	○ 4-3		1

Bグループ	信州	常葉学園	岐阜	順
信州		● 0-13	● 4-11	3
常葉学園	○ 13-0		○ 12-1	1
岐阜	○ 11-4	● 1-12		2

Dグループ	東京農業	南山	富山	順
東京農業		● 2-12	● 2-16	3
南山	○ 12-2		○ 7-5	1
富山	○ 16-2	● 5-7		2

男子順位決定戦(3月15日)

1～4位決定戦

中京大学

4	8		
8	1	10	0
愛知(2位)	常葉(3位)	中京(優勝)	南山(4位)
大学	学園大学	大学	大学
14	7		

5～8位決定戦

京都大学

9	12		
14	6	10	0
愛知(6位)	岐阜(8位)	京都(5位)	富山(7位)
教育大学	大学	大学	大学
3	12		

9～12位決定戦

日本福祉大学

1	15		
7	17	7	0
高崎(11位)	信州(10位)	日本(9位)	東京(12位)
経済大学	大学	福祉大学	農業大学
9	2		

男子個人表彰

・最優秀選手賞：萩原 学(中京大学)

・敢闘選手賞：田中 惇(愛知大学)

女子予選リーグ戦（3月14日）

Eグループ	国士館	東 園	九 州	順
国 士 館		● 1 - 9	○ 5 - 1	2
東海学園	○ 9 - 1		○ 8 - 2	1
九州共立	● 1 - 5	● 2 - 8		3

Gグループ	立命館	中 京	東 院	順
立 命 館		● 1 - 2	○ 2 - 1	2
中 京	○ 2 - 1		○ 7 - 0	1
東海学院	● 1 - 2	● 0 - 7		3

Fグループ	松 本	桜 花	日 福	順
松 本		● 0 - 3	● 4 - 9	3
桜花学園	○ 3 - 0		△ 11 - 11	1
日本福祉	○ 9 - 4	△ 11 - 11		2

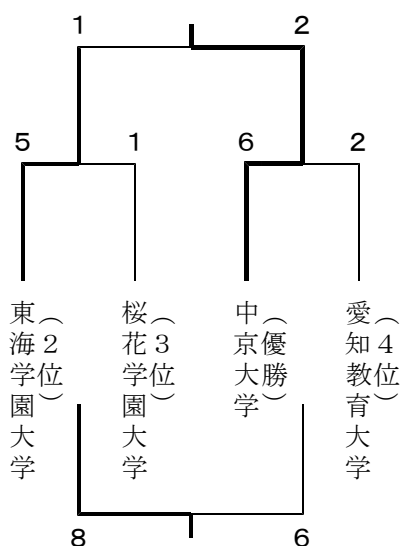
Hグループ	学 芸	愛 教	浅 井	順
東京学芸		● 1 - 2	● 3 - 6	3
愛知教育	○ 2 - 1		○ 8 - 1	1
浅井学園	○ 6 - 3	● 1 - 8		2

※1・2位は失点率による。

女子順位決定戦（3月15日）

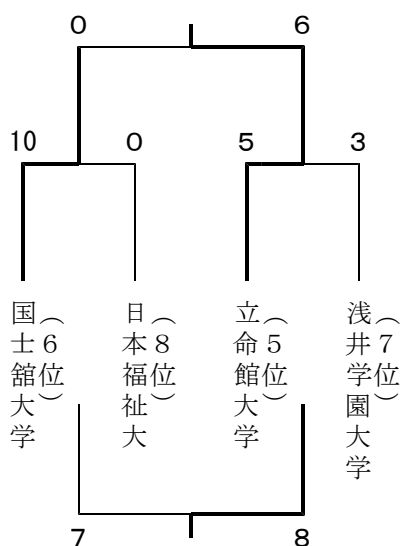
1～4位決定戦

中京大学



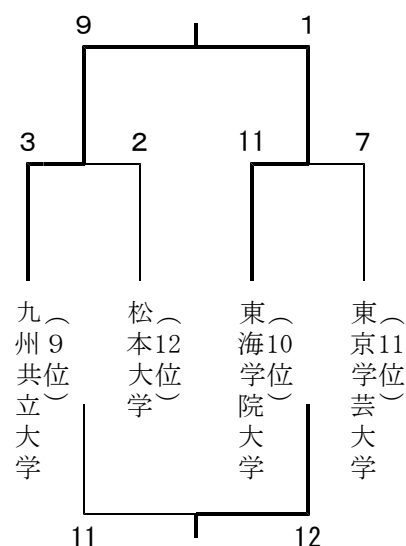
5～8位決定戦

立命館大学



9～12位決定戦

九州共立大学



女子個人表彰

・最優秀選手賞：谷口 恵理（中京大学）

・敢闘選手賞：伊藤 愛（東海学園大学）

第4回国公立大学ソフトボールオープン大会報告

会期：平成19年3月24日（土）・25日（日）

会場：兵庫教育大学ソフトボール場・社町グラウンド、他3球場

参加大学

●男子（13大学）

愛知教育大学、大阪大学、大阪府立大学、岡山大学、香川大学、京都大学、神戸大学、

佐賀大学、徳島大学、名古屋大学、
兵庫教育大学、兵庫県立大学、広島大学

●女子（7大学、別枠参加2大学）

愛知教育大学、大阪府立大学、香川大学、
名古屋大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、
広島大学、
天理大学(特別参加)、大阪国際大学(招待参加)

大会概要報告

今回で4回目を迎えたこの大会。今回も例年同様多くのチームが参加。東は名古屋大学から西は佐賀大学(男子)まで広い地域の大学間でリーグを越えた交流が持てたことは大変嬉しい。初回から継続して参加してくださっている大学もあり、大会として徐々にしっかりと位置づいてきた感を持

っているが、各大学の力を把握して試合を組むことなどまだまだ改善する点が多い。

また、女子においては天理大学や大阪国際大学に参加していただくことでレベルの高い試合が増え、より充実した大会となっている。しかし、女子の参加チーム数はまだまだ少ないため、今後はより多くのチームに参加していただけるような大会としていくことが課題である。

ただ、今回は天候がふるわず1日目は雨の中の試合となり、2日目も引き続き悪天候からやむなく大会中止を選択した。遠くから参加してくださった大学の方に、大変申し訳ないかたちで大会が終了することとなってしまったことが残念である。(文責：兵庫教育大学男子ソフトボール部主将 亀尾健太)

第9回千葉オープンチャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

会期：平成19年3月26日（月）・27日（火）

会場：東京理科大学 野田グラウンド

予選トーナメント

Aブロック

9	抽	城西国際大学 (第Ⅲブロックへ)	6	1
		文教大学 (第Ⅱブロックへ)	18	
9	選	日大生産工学部 (第Ⅲブロックへ)	0	10
		国士舘大学 (第Ⅰブロックへ)	22	

Bブロック

		高崎経済大学 (第Ⅰブロックへ)	8	1
5		都留文科大学 (第Ⅲブロックへ)	7	
14		千葉大学 (第Ⅱブロックへ)	0	0
		学習院大学 (第Ⅰブロックへ)	14	

Cブロック

15		東京理科大学 (第Ⅱブロックへ)	2	14
		関東学園大学 (第Ⅰブロックへ)	6	
		東京学芸大学 (第Ⅱブロックへ)	4	0
0		東京大学 (第Ⅲブロックへ)	3	

順位決定トーナメント

第Ⅰブロック

7		学習院大学 (第3位)	1	3
		関東学園大学 (第2位)	4	
		国士舘大学 (第1位)	11	11
3		高崎経済大学 (第4位)	0	

第Ⅱブロック

8	東京学芸大学 (第4位)	8	5
	千葉大学 (第2位)	17	
	東京理科大学 (第1位)	3	7
13	文京大学 (第3位)	1	

第Ⅲブロック

5	城西国際大学 (第4位)	4	15
	東京大学 (第1位)	20	
	都留文科大学 (第2位)	11	4
10	日大生産工学部 (第3位)	3	

第8回「峠のまち」Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成19年4月21日（土）～22日（日）

会場：群馬県安中市松井田町

横川ふれあい運動公園野球場・坂本スポーツ広場

西横野多目的広場野球場・小日向農村広場

女子

チーム名	相模女子	松 本	新島学園	東北福祉	東 海	関東学園	勝	分	敗	順 位
相模女子		● 0－10	● 0－13	● 0－10	● 2－3	● 0－10	0	0	5	6 位
松 本	○10－0		○ 4－0	● 1－8	△ 1－1	○ 5－2	3	1	1	3 位
新島学園	○13－0	● 0－4		● 1－7	● 0－14	● 2－9	1	0	4	5 位
東北福祉	○10－0	○ 8－1	○7-1		● 1－2	○ 7－0	4	0	1	2 位
東 海	○ 3－2	△ 1－1	○14－0	○ 2－1		○ 5－3	4	1	0	1 位
関東学園	○10－0	● 2－5	○ 9－2	● 0－7	● 3－5		2	0	3	4 位

男子 横川リーグ

チー ム	信 州	城 西	千 葉	長 野	勝	分	敗	順 位
信 州		● 1－13	● 2－5	● 8－9	0	0	3	4 位
城 西	○13－1		○ 8－3	○12－1	3	0	0	1 位
千 葉	○ 5－2	● 3－8		○19－4	2	0	1	2 位
長 野	○ 9－8	● 1－12	● 4－19		1	0	2	3 位

男子 碓氷リーグ

チー ム	山梨学院	関 東 学 園	都 留 文 科	高 崎 経 済	勝	分	敗	順 位
山梨学院		● 0－12	● 8－9	○ 9－6	1	0	2	3 位
関 東 学 園	○ 12－0		○ 9－1	○ 3－2	3	0	0	1 位
都 留 文 科	○ 9－8	● 1－9		○ 1－0	2	0	1	2 位
高 崎 経 済	● 6－9	● 2－3	● 0－1		0	0	3	4 位

男子順位決定戦

◇ 1 - 2 位決定戦：

城西大学 1-6 関東学園大学

◇ 3 - 4 位決定戦：

千葉大学 9-6 都留文科大学

◆ 5 - 6 位決定戦：

長野大学 14-14 山梨学院大学

◆ 7-8 位決定戦：

信 州 大 学 0-12 高崎経済大学

男子最終順位

1位：関東学園大学

5位：長野大学

2位：城西大学

6 位：山梨学院大学

3位：千葉大学

7 位：高崎経済大学

4 位：都留文科大学

8位：信州大学

※5-6位は大会規定(当該試合の長打数)による。

第4回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：平成19年7月23日(土)・24日(日)

会場：石川県野々市町野々市町民野球場・白山市松任グリーンパーク

男子結果

金沢大学 6
富山大学 19
福井県立大学 13
高崎経済大学 11

優勝 富山大学 (2回連続2回目)

金沢大

金 沢 大 学 4
高 崎 経 済 大 学 13

女子結果

中京女子大学 35
金沢大学 0
信州大学 2
大阪国際大学A 9
大阪国際大学B 12
上越教育大学 0
富山大学 0
松本大学 25

雨天のため実施できず

優勝 中京女子大学 (3年連続3回目)
優勝 大阪国際大学B (初)

金沢大学
信州大学
上越教育大学

金 沢 大 学		0	信州大学
信 州 大 学		12	
上越教育大学		6	上越教育大学
富 山 大 学		2	



【北海道・東北地区】

第28回北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会 兼、第42回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

会期：平成19年5月26日(土)～27日(日)

会場：北海道石狩市はまなす国体記念石狩スポーツ広場

男子選手権

1. 仙台大学	14							
2. 福島大学	5	8						
3. 日本大学工学部	5		22					
4. 北翔大学	16	2						
5. 宮城教育大学	18							
6. 八戸工業大学	6	8						
7. 東北大学	8		9					
8. 盛岡大学	22	13						

仙(21
台
大
回
学
目)

インカレ出場は、仙台大学(2年連続21回目)と
盛岡大学(3年連続8回目)

女子選手権

1. 東北福祉大学	7							
2. 北翔大学	4	0						
3. 盛岡大学	1		3					
4. 弘前大学	7							
5. 札幌学院大学	0	0						
6. 仙台大学	0		2					
7. 富士大学	5	7						

東北(3
福
祉
大
学
目)

インカレ出場は、東北福祉大学(5年連続5回目)
と富士大学(4年連続4回目)

【関東地区】 第2回関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成19年5月5・6・12・13日

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園、鶴ヶ島市運動公園他

I部リーグ

チーム	国際武道	東京理科	城西	高崎経済	文教	東海	関東学園	順位
国際武道		○7-2	○8-0	○2-1	○11-1	○3-0	○7-0	優勝
東京理科	●2-7		○8-7	○8-6	○6-5	○8-1	●3-6	3位
城西	●0-8	●7-8		○14-9	○17-1	●9-10	●1-8	5位
高崎経済	●1-2	●6-8	●9-14		●6-10	○10-3	●4-5	7位
文教	●1-11	●5-6	●1-17	○10-6		●9-12	●4-6	6位
東海	●0-3	●1-8	○10-9	●3-10	○12-9		○6-2	4位
関東学園	●0-7	○6-3	○8-1	○5-4	○5-4	●2-6		2位

Ⅱ部リーグ

チーム	千 葉	埼 玉	都留文科	山梨学院	筑 波	茨 城	勝	分	敗	順 位
千 葉		●7-22	●10-11	○27-3	○14-10	●7-14	2	0	3	5位
埼 玉	○22-17		●4-11	●2-22	○20-3	●2-18	2	0	3	4位
都留文科	○11-10	○11-4		●10-12	●6-8	●2-9	2	0	3	3位
山梨学院	●3-27	○22-2	○12-10		○16-1	●9-13	3	0	2	2位
筑 波	●10-14	●3-20	○8-6	●1-16		○20-4	2	0	3	6位
茨 城	○14-7	○18-2	○9-2	○13-9	●4-20		4	0	1	1位

Ⅲ部リーグ

チーム	日大生資	東京国際	城西国際	芝浦工業	勝	分	敗	順 位
日大生資		●11-12	○5-4	○31-5	2	0	1	1位
東京国際	○12-11		●0-29	●5-17	1	0	2	4位
城西国際	●4-5	○29-0		○22-5	2	0	1	2位
芝浦工業	●5-31	○17-5	●5-22		3	0	2	3位

※Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ部とも、勝敗数が同じ場合の順位は、大会規定による。

入替戦

高崎経済大学(Ⅰ部7位) 11
高崎経済
茨城大学(Ⅱ部1位) 6
※高崎経済大学はⅠ部残留

筑波大学(Ⅱ部6位) 1
日大生物資源科学部(Ⅲ部1位) 13
※日大生資はⅡ部昇格

第2回関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成19年5月5・6・12・13日

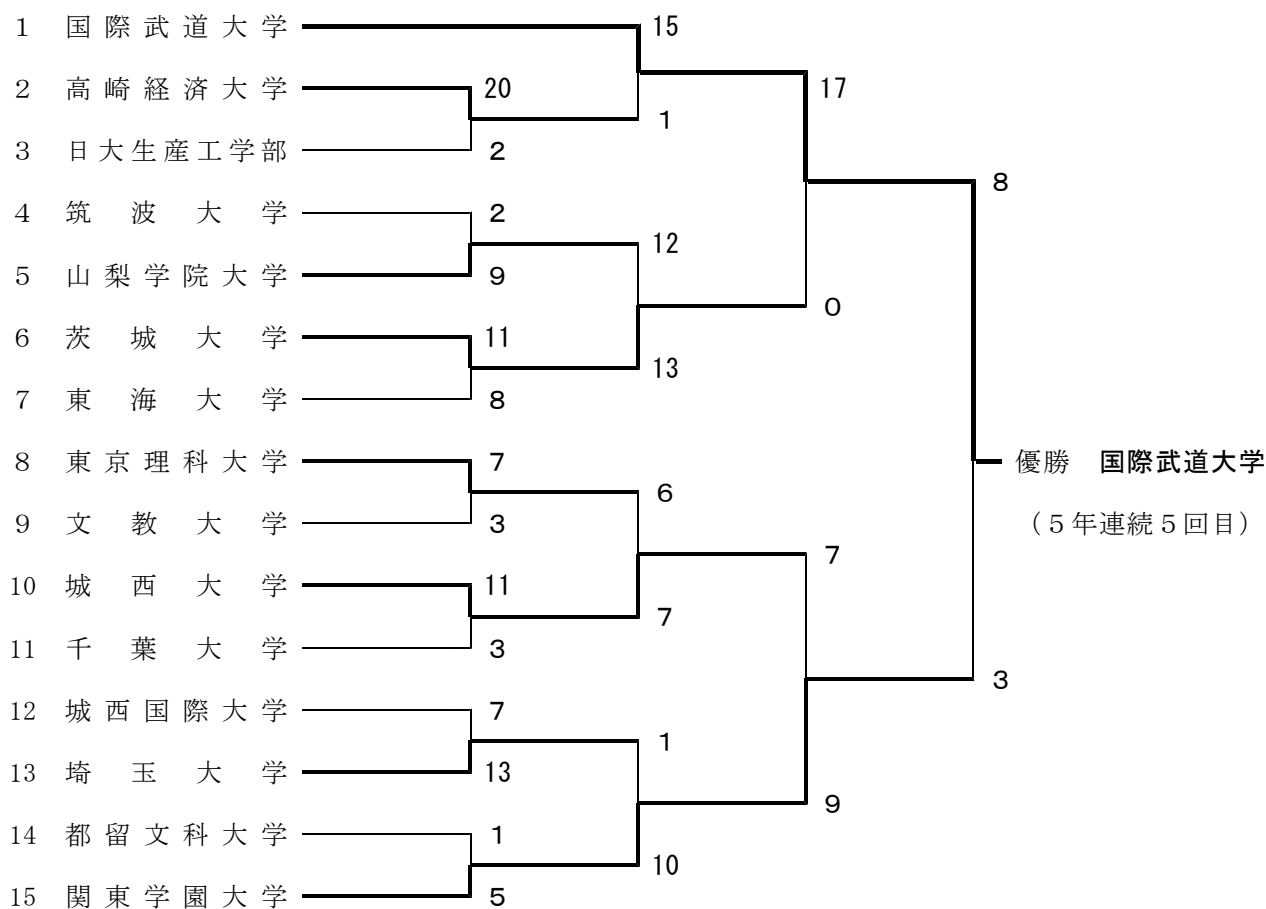
会場：埼玉県／毛呂山町大類ソフトボールパーク他

Ⅰ部リーグ

チーム	淑 徳	新島学園	城 西	清 和	東 海	国際武道	勝	分	敗	順 位
淑 徳		○5-0	●9-12	●3-7	○5-1	○2-1	3	0	2	3位
新島学園	●0-5		●1-4	●3-4	●3-5	○11-3	1	0	4	5位
城 西	○12-9	○4-1		○2-1	●5-6	●7-9	3	0	2	2位
清 和	○7-3	○4-3	●1-2		○11-4	○12-5	4	0	1	優勝
東 海	●1-5	○5-3	○6-5	●4-11		○8-1	3	0	2	4位
国際武道	●1-2	●3-11	○9-7	●5-12	●1-8		1	0	4	6位

※2位～4位、5位と6位は得失点差による。

男子の部



インカレ出場権獲得校：国際武道大学(8年連続15回目)・関東学園大学(5年ぶり15回目)
茨城大学(6年ぶり18回目)・城西大学(9年連続18回目)

第7回関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成19年10月6・7・8・13日

会場：埼玉県坂戸市／淑徳大学グラウンド・毛呂山町西戸グラウンド他

I部リーグ

チーム	国際武道	東京理科	城西	高崎経済	文教	東海	関東学園	順位
国際武道		○6-2	○5-4	○4-1	○4-0	○4-1	○9-1	優勝
関東学園	●2-6		○12-8	○4-3	●2-6	○13-5	●16-3	2位
東京理科	●4-5	●8-12		○9-2	○10-5	●3-10	●5-10	5位
東海	●1-4	●3-4	●2-9		○12-5	△5-5	●5-12	6位
城西	●0-4	○6-2	●5-10	●5-12		●5-11	●4-11	7位
文教	●1-4	●5-13	○10-3	△5-5	○11-5		●0-9	4位
高崎経済	●1-9	●3-16	○10-5	○12-5	○11-4	○9-0		2位

※2位と3位は大会規定による。

Ⅱ部リーグ

チーム	茨城	山梨学院	都留文科	埼玉	千葉	日大生資	勝	分	敗	順位
茨城		○11-3	●3-5	○15-6	●5-8	●2-14	2	0	3	4位
山梨学院	●3-11		●5-7	○8-5	●5-7	○7-3	2	0	3	5位
都留文科	○5-3	○7-5		●2-8	●0-12	●3-4	2	0	3	3位
埼玉	●6-15	●5-8	○8-2		●3-13	△4-4	1	1	3	6位
千葉	○8-5	○7-5	○12-0	○13-3		○23-0	5	0	0	1位
日大生資	○14-2	●3-7	○4-3	△4-4	●0-23		2	1	1	2位

※3位～5位は大会規定による。

Ⅲ部リーグ

チーム	筑波	城西国際	芝浦工業	東京国際	中央学院	日大生資	勝	分	敗	順位
筑波		○17-5	○11-0	○20-0	○7-6	○8-4	5	0	0	1位
城西国際	●5-17		●7-15	○24-8	●1-6	○11-2	2	0	3	4位
芝浦工業	●0-11	○15-7		○15-8	●1-8	○20-7	3	0	2	3位
東京国際	●0-20	●8-24	●8-15		●3-19	●2-28	0	0	5	6位
中央学院	●6-7	○6-1	○8-1	○19-3		○12-4	4	0	1	2位
日大生産	●4-8	●2-11	●7-20	○28-2	●4-12		1	0	4	5位

Ⅰ部Ⅱ部入替戦

城西大学(Ⅰ部7位)9-1千葉大学(Ⅱ部1位)

※城西大学はⅠ部残留

Ⅱ部Ⅲ部入替戦

埼玉大学(Ⅱ部6位)15-4筑波大学(Ⅲ部1位)

※埼玉大学はⅡ部残留

第7回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成19年10月6・7・8・13日

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク・鶴ヶ島市運動公園

Ⅰ部リーグ

チーム	清和	城西	淑徳	東海	新島学園	城西国際	勝	分	敗	順位
清和		△3-3	○12-7	●3-8	○5-0	○5-1	3	1	1	3位
城西	△3-3		○4-3	●1-4	○7-5	○14-8	3	1	1	2位
淑徳	●7-12	●3-4		○4-1	○12-5	△2-2	2	1	2	4位
東海	○8-3	○4-1	●1-4		○5-2	○2-1	4	0	1	優勝
新島学園	●0-5	●5-7	●5-12	●2-5		○6-0	1	0	4	5位
城西国際	●1-5	●8-14	△2-2	●1-2	●0-6		0	1	4	6位

※2位と3位は得失点差による。

Ⅱ部Aブロック

チー ム	国 際 武 道	筑 波	順 天 堂	相 模 女 子	日 大 生 資	勝	分	敗	順 位
国 際 武 道		○ 11 - 8	△ 6 - 6	○ 6 - 4	○ 9 - 1	3	1	0	1 位
筑 波	● 8 - 11		● 4 - 7	○ 8 - 4	○ 13 - 6	2	0	2	3 位
順 天 堂	△ 6 - 6	○ 7 - 4		● 5 - 6	○ 16 - 7	2	1	1	2 位
相 模 女 子	● 4 - 6	● 4 - 8	○ 6 - 5		○ 6 - 4	2	0	2	4 位
日 大 生 資	● 1 - 9	● 6 - 13	● 7 - 16	● 4 - 6		0	0	4	5 位

※3位～4位は大会規定による。

Ⅱ部Bブロック

チーム	関東学園	埼玉	文教	茨城	勝	分	敗	順位
関東学園		○10－0	○18－1	○28－1	3	0	0	1位
埼玉	●0－10		△1－1	○7－0	1	1	1	3位
文教	●1－18	△1－1		○17－1	1	1	1	2位
茨城	●0－28	●0－7	●1－17		0	0	3	4位

※2位～3位は大会規定による。

Ⅱ部順位決定戦

1 位決定戦：関東学園大学 4 - 2 国際武道大学

7位決定戦：相模女子大学8-1茨城大学

3位決定戦：順天堂大学6-0文教大学

9 位：日本大学生物資源科学部

5位決定戦：筑波大学4-3埼玉大学

I 部 II 部入替戦

城西国際(Ⅰ部6位)5-8 関東学園(Ⅱ部1位) ※関東学園大学はⅠ部昇格、城西国際大学はⅡ部降格

第38回関東大学ソフトボール選手権大会

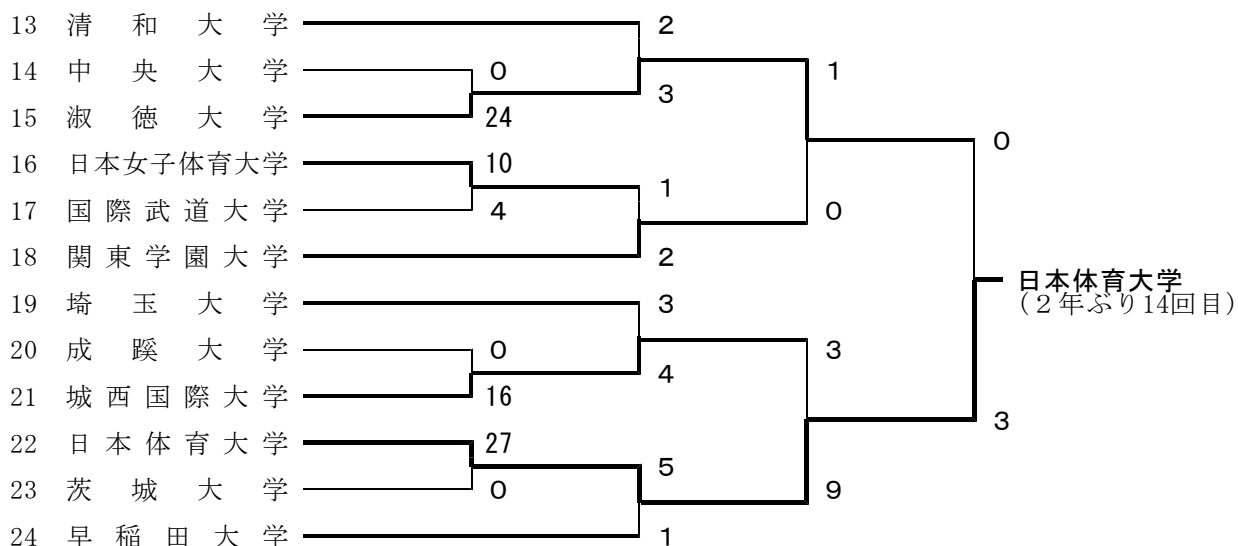
会期：平成19年10月25日（木）～28日（日）

会場：茨城県水戸市／水戸市総合運動公園他

女子

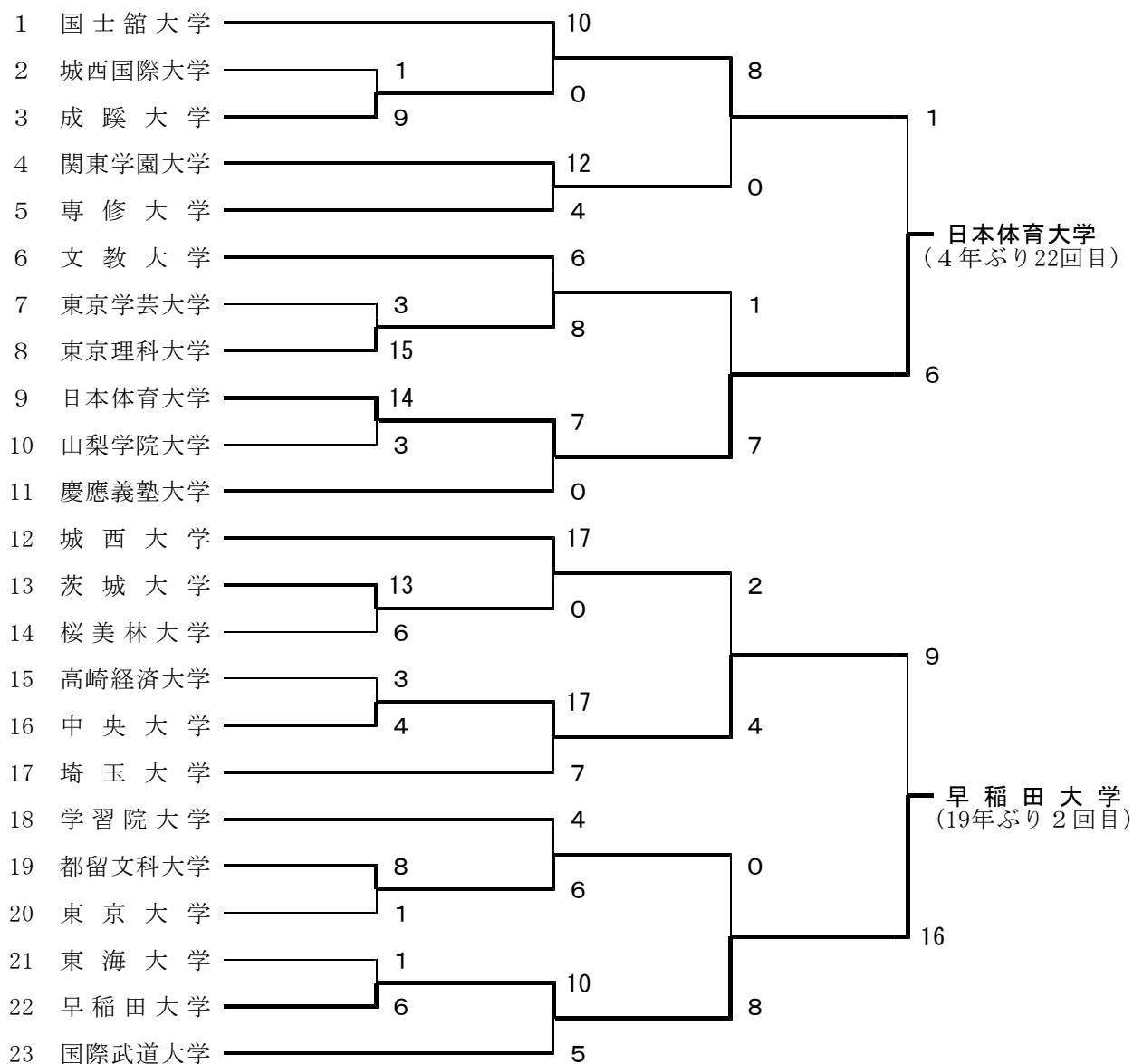
東京女子体育大学 (2年連続24回目)

順位	チーム名	1回戦	2回戦
1	東京女子体育大学	6	
2	文教大学	3	0
3	国士舘大学	13	8
4	東海大学	9	5
5	東京学芸大学	0	9
6	筑波大学	2	7
7	相模女子大学	1	14
8	新島学園短期大学	9	0
9	創価大学	0	11
10	順天堂大学	4	0
11	日本大学	2	4
12	学習院大学	4	



※雨天のため、決勝戦が実施できず、両者優勝

男子



※雨天のため、決勝戦が実施できず、両者優勝

【北信越地区】

第13回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会 (兼、文部科学大臣杯第42回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

会期：平成19年5月19日(日)・20日(日)

会場：富山市／富山大学高岡キャンパス他

女子

松本大学	22			
信州大学	16			
上越教育大学	9			
富山大学	1			
金沢大学	6			
福井大学	9			
		1		
		0		
		18		
		1		
				松本大学

敗者復活戦

信州大学20－1金沢大学 信州大学4－13福井大学

※松本大学(2回目)と福井大学(初)がインカレ出場権を獲得

男子

福井県立大学	16			
長野大学	18			
富山大学	8			
信州大学	1			
金沢大学	8			
		22		
		8		
		0		
				富山大学

※富山大学(10回目)がインカレ出場権を獲得

第14回北信越大学新人ソフトボール選手権大会

会期：平成19年9月8日(土)・9日(日)

会場：新潟市／阿賀野川河川公園

女子

松本大学A	7			
金沢大学	0			
信州大学	10			
松本大学B	12			
富山大学	0			
		7		
		0		
		1		
				松本大学A

敗者戦：信州大学8－3富山大学

男子

信州大学	17			
長野大学	16			
金沢大学	13			
福井県立大学	22			
富山大学	17			
		10		
		3		
				信州大学

敗者戦：金沢大学5－17富山大学

【東京地区】

平成19年度第39回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

男子1部

チーム	国 士 館	早 稲 田	日本体育	学 習 院	中 央	桜 美 林	勝	分	敗	順 位
国 士 館		○ 5 - 4	○ 6 - 5	○ 21 - 0	○ 19 - 0	○ 15 - 6	5	0	0	優勝
早 稲 田	● 4 - 5		○ 4 - 1	○ 18 - 0	○ 12 - 1	○ 14 - 1	4	0	1	2位
日本体育	● 5 - 6	● 1 - 4		○ 15 - 3	○ 11 - 1	○ 7 - 0	3	0	2	3位
学 習 院	● 0 - 21	● 0 - 18	● 3 - 15		○ 9 - 2	○ 12 - 3	2	0	3	4位
中 央	● 0 - 19	● 1 - 12	● 1 - 11	● 2 - 9		○ 15 - 0	1	0	4	5位
桜 美 林	● 6 - 15	● 1 - 14	● 0 - 7	● 3 - 12	● 0 - 15		0	1	4	6位

男子2部

チーム	慶應義塾	明 治	成 蹊	東 京	東京農業	東京学芸	勝	分	敗	順 位
慶應義塾		○ 7 - 4	● 5 - 9	○ 6 - 2	○ 9 - 2	○ 14 - 5	4	0	1	1位
明 治	● 4 - 7		○ 6 - 3	○ 12 - 5	○ 7 - 4	○ 24 - 2	4	0	1	2位
成 蹊	○ 9 - 5	● 3 - 6		○ 5 - 1	○ 24 - 1	● 5 - 13	3	0	2	3位
東 京	● 2 - 6	● 5 - 12	● 1 - 5		○ 10 - 2	○ 13 - 6	2	0	3	4位
東京農業	● 2 - 9	● 4 - 7	● 1 - 24	● 2 - 10		○ 13 - 7	1	0	4	5位
東京学芸	● 5 - 14	● 2 - 24	○ 13 - 5	● 6 - 13	● 7 - 13		1	0	4	6位

※1位と2位、及び5位と6位は直接対決の勝敗による。

男子3部

チーム	専 修	立 教	東 洋	I C U	日 本	明 星	勝	分	敗	順 位
専 修		○ 11 - 3	○ 17 - 3	○ 13 - 2	○ 23 - 7	△ 0 - 0	4	1	0	1位
立 教	● 3 - 11		○ 7 - 0	○ 40 - 0	○ 12 - 10	○ 17 - 7	4	0	1	2位
東 洋	● 3 - 17	● 0 - 7		○ 19 - 9	○ 17 - 9	○ 14 - 13	3	0	2	3位
国際基督教	● 2 - 13	● 0 - 40	● 9 - 19		○ 17 - 13	○ 30 - 22	2	0	3	4位
日 本	● 7 - 23	● 10 - 12	● 9 - 17	● 13 - 17		○ 7 - 0	1	0	4	5位
明 星	△ 0 - 0	● 7 - 17	● 13 - 14	● 22 - 30	● 0 - 7		0	1	4	6位

男子4部

チーム	文教湘南	帝 京	一 橋	日本歯科	武蔵工業	勝	分	敗	順 位
文教湘南		○ 12 - 1	○ 21 - 20	○ 17 - 12	○ 20 - 7	4	0	0	1位
帝 京	● 1 - 12		○ 21 - 10	○ 21 - 9	○ 17 - 12	3	0	1	2位
一 橋	● 20 - 21	● 10 - 21		○ 18 - 9	○ 38 - 15	2	0	2	3位
日本歯科	● 12 - 17	● 9 - 21	● 9 - 18		○ 17 - 12	1	0	3	4位
武蔵工業	● 7 - 20	● 12 - 17	● 15 - 38	● 12 - 17		0	0	4	5位

男子入れ替え戦

1部－2部

桜美林大学(6位) 8－2 慶應義塾大学(1位)

※桜美林大学は1部残留

2部－3部

東京学芸大学(6位) 14－19 専修大学(1位)

※専修大学は2部昇格、東京学芸大学は3部降格

3部－4部

明星大学(6位) 14－23 文教大学湘南(1位)

※文教大学湘南は3部昇格、明星大学は4部降格

女子 1 部

チーム	東京女体	日本体育	日本女体	早稲田	東京学芸	国士舘	勝	分	敗	順位
東京女体		○7－3	○9－1	○3－0	○14－0	○9－1	5	0	0	優勝
日本体育	●3－7		○6－1	○3－0	○4－0	○6－0	4	0	1	2位
日本女体	●1－9	●1－6		○6－4	○9－1	○8－0	3	0	2	3位
早稲田	●0－3	●0－3	●4－6		○4－2	○5－3	2	0	3	4位
東京学芸	●0－14	●0－4	●1－9	●2－4		○7－0	1	0	4	5位
国士舘	●1－9	●0－6	●0－8	●3－5	●0－7		0	0	5	6位

女子 2 部

チーム	学習院	日本	明治	中央	創価	成蹊	勝	分	敗	順位
学習院		○5－2	○17－5	○16－5	○9－1	○16－7	5	0	0	1位
日本	●2－5		○7－6	○12－3	○17－7	○9－2	4	0	1	2位
明治	●5－17	●6－7		●2－7	○9－0	○9－4	2	0	3	3位
中央	●5－16	●3－12	○7－2		●5－8	○16－3	2	0	3	4位
創価	●1－9	●7－17	●0－9	○8－5		○13－12	2	0	3	5位
成蹊	●7－16	●2－9	●4－9	●5－16	●12－13		0	0	5	6位

※3位～5位は失点率による。

女子 3 部

チーム	桜美林	専修	慶應義塾	I C U	勝	分	敗	順位
桜美林		○12－7	○14－7	○13－6	3	0	0	1位
専修	●7－12		●3－11	○10－0	1	0	2	2位
慶應義塾	●7－14	○11－3		●11－12	1	0	2	3位
国際基督教	●6－13	●0－10	○12－11		1	0	2	4位

※2位～4位は失点率による。

女子入れ替え戦

1部－2部：国士舘大学6－1 学習院大学

※国士舘大学は1部残留

2部－3部：成蹊大学10－7 桜美林大学

※桜美林大学は2部残留

平成19年度第39回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子1部

チーム	国 士 館	日本体育	早 稲 田	学 習 院	中 央	桜 美 林	勝	分	敗	順 位
国 士 館		○ 6 - 0	○ 6 - 3	○ 7 - 0	○ 2 - 1	○ 7 - 4	5	0	0	優勝
日本体育	● 0 - 6		○ 9 - 7	○ 10 - 1	○ 9 - 1	○ 8 - 0	4	0	1	2位
早 稲 田	● 3 - 6	● 7 - 9		○ 8 - 0	○ 10 - 4	○ 16 - 5	3	0	2	3位
学 習 院	● 0 - 7	● 1 - 10	● 0 - 8		○ 4 - 3	○ 3 - 1	2	0	3	4位
中 央	● 1 - 2	● 1 - 9	● 4 - 10	● 3 - 4		○ 13 - 10	1	0	4	5位
桜 美 林	● 4 - 7	● 0 - 8	● 5 - 16	● 1 - 3	● 10 - 13		0	1	4	6位

男子2部

チーム	慶應義塾	成 蹊	明 治	専 修	東京農業	東 京	勝	分	敗	順 位
慶應義塾		○ 5 - 2	○ 5 - 3	○ 5 - 3	○ 9 - 1	○ 19 - 3	5	0	0	1位
成 蹊	● 2 - 5		○ 4 - 2	○ 7 - 5	○ 8 - 3	○ 10 - 9	4	0	1	2位
明 治	● 3 - 5	● 2 - 4		○ 13 - 0	○ 9 - 3	○ 19 - 4	3	0	2	3位
専 修	● 3 - 5	● 5 - 7	● 0 - 13		○ 20 - 5	○ 13 - 5	2	0	3	4位
東京農業	● 1 - 9	● 3 - 8	● 3 - 9	● 5 - 20		○ 11 - 2	1	0	4	5位
東 京	● 3 - 19	● 9 - 10	● 4 - 19	● 5 - 13	● 2 - 11		0	0	5	6位

男子3部

チーム	立 教	日 本	東京学芸	東 洋	I C U	文教湘南	勝	分	敗	順 位
立 教		○ 10 - 9	○ 11 - 8	○ 14 - 4	○ 36 - 3	○ 26 - 2	5	0	0	1位
日 本	● 9 - 10		○ 8 - 7	○ 5 - 4	○ 13 - 3	○ 19 - 2	4	0	1	2位
東京学芸	● 8 - 11	● 7 - 8		○ 5 - 2	○ 16 - 5	○ 22 - 7	3	0	2	3位
東 洋	● 4 - 14	● 4 - 5	● 2 - 5		○ 13 - 10	○ 13 - 3	2	0	3	4位
国際基督教	● 3 - 36	● 3 - 13	● 5 - 16	● 10 - 13		○ 23 - 7	1	0	4	5位
文教湘南	● 2 - 26	● 2 - 19	● 7 - 22	● 3 - 13	● 7 - 23		0	0	5	6位

男子4部

チーム	帝 京	一 橋	日本歯科	武蔵工業	勝	分	敗	順 位
帝 京		○ 25 - 8	○ 26 - 5	○ 21 - 11	3	0	0	1位
一 橋	● 8 - 25		○ 9 - 8	○ 11 - 10	2	0	1	2位
日本歯科	● 5 - 26	● 8 - 9		○ 17 - 12	1	0	2	3位
武蔵工業	● 11 - 21	● 10 - 11	● 12 - 17		0	0	3	4位

男子入れ替え戦

1部－2部

桜美林大学(6位) 8－0 慶應義塾大学(1位)

※桜美林大学は1部残留

2部－3部

東京大学(6位) 6－7 立教大学(1位)

※立教大学は2部昇格、東京大学は3部降格

3部－4部

文教大学湘南(6位) 0－7 帝京大学(1位)

※帝京大学は3部昇格、文教大学湘南は3部降格

女子 1 部

チーム	日本体育	早稲田	東京女体	日本女体	国 士 館	東京学芸	勝	分	敗	順 位
日本体育		○ 8－1	○ 7－5	○ 1－0	○ 4－1	○19－0	5	0	0	優勝
早 稲 田	● 1－8		○ 2－1	○ 5－1	● 0－1	○ 4－1	3	0	2	2 位
東京女体	● 5－7	● 1－2		○ 4－0	○13－3	○ 9－2	3	0	2	3 位
日本女体	● 0－1	● 1－5	● 0－4		○ 6－5	○ 7－0	2	0	3	4 位
国 士 館	● 1－4	○ 1－0	● 3－13	● 5－6		○ 5－0	2	0	3	5 位
東京学芸	● 0－19	● 1－4	● 2－9	● 0－7	● 0－5		0	0	5	6 位

※ 2 位と 3 位、及び 4 位と 5 位は直接対決の勝敗による。

女子 2 部

チーム	学 習 院	中 央	日 本	成 蹊	創 価	明 治	勝	分	敗	順 位
学 習 院		○ 9－7	○ 5－2	○13－5	○10－6	○ 9－3	5	0	0	1 位
中 央	● 7－9		○ 8－4	○11－10	○11－1	○ 7－6	4	0	1	2 位
日 本	● 5－13	● 4－8		○12－11	○11－4	○ 4－3	3	0	2	3 位
成 蹊	● 5－13	●10－11	●11－12		○16－5	○11－9	2	0	3	4 位
創 価	● 6－10	● 1－11	● 4－11	● 5－16		○ 6－5	1	0	4	5 位
明 治	● 7－9	● 6－7	● 3－4	● 9－11	● 5－6		0	0	5	6 位

女子 3 部

チーム	桜 美 林	専 修	慶應義塾	I C U	実践女子	勝	分	敗	順 位
桜 美 林		○ 6－3	○ 5－4	○ 9－5	○ 9－2	4	0	0	1 位
専 修	● 3－6		○10－3	○ 4－2	○11－0	3	0	1	2 位
慶應義塾	● 4－5	● 3－10		○ 8－2	○13－1	2	0	2	3 位
国際基督教	● 5－9	● 2－4	● 2－8		○ 6－4	1	0	3	4 位
実践女子	● 2－9	● 0－11	● 1－13	● 4－6		0	0	4	5 位

女子入れ替え戦 1部－2部：東京学芸(6位) 10－7 学 習 院(1位) ※東京学芸大学は1部残留

2部－3部：明 治(6位) 11－7 桜 美 林(1位) ※明治大学は2部残留

【東海地区】

東海テレビ杯平成19年度春季第60回東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第42回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第39回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成19年4月21日・22日、5月3日・4日

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場

一部リーグ戦対戦成績表

チーム	中京学院	常葉学園	日本福祉	愛知教育	岐阜聖徳	南山	勝	分	敗	順位
中京学院		○8-1	○15-0	○6-1	○7-0	○7-0	5	0	0	優勝
常葉学園	●1-8		○6-1	○7-0	○4-3	○11-3	4	0	1	2位
日本福祉	●0-15	●1-6		●1-8	△5-5	●4-6	0	1	4	6位
愛知教育	●1-6	●0-7	○8-1		●5-13	○20-7	2	0	3	4位
岐阜聖徳	●0-7	●3-4	△5-5	○13-5		○5-2	2	1	2	3位
南山	●0-7	●3-11	○6-4	●7-20	●2-5		1	0	4	5位

二部リーグ戦対戦成績

チーム	愛知	中京	岐阜	静岡	愛知みずほ	名城	勝	分	敗	順位
愛知		△6-6	○9-2	●5-6	○10-0	○10-3	3	1	1	3位
中京	△6-6		○6-1	○6-3	○6-3	○15-1	4	1	0	1位
岐阜	●2-9	●1-6		●2-12	●1-3	○7-6	1	0	4	5位
静岡	○6-5	●3-6	○12-2		○4-3	○9-2	4	0	1	2位
愛知みずほ	●0-10	●3-6	○3-1	●3-4		○11-4	2	0	3	4位
名城	●3-10	●1-15	●6-7	●2-9	●4-11		0	0	5	6位

三部リーグ戦対戦成績

チーム	名古屋	愛知学院	朝日	名古屋商科	東海学園	中部	勝	分	敗	順位
名古屋		●5-15	○13-5	○9-3	○22-4	○13-12	4	0	1	3位
愛知学院	○15-5		○6-5	●4-9	○7-0	○9-2	4	0	1	2位
朝日	●5-13	●5-6		●5-7	○12-0	●8-12	1	0	4	5位
名古屋商科	●3-9	○9-4	○7-5		○14-7	○10-0	4	0	1	1位
東海学園	●4-22	●0-7	●0-12	●7-14		●0-9	0	0	5	6位
中部	●12-13	●2-9	○12-8	●0-10	○9-0		2	0	3	4位

※1～3位は、当該チーム間の失点率(名商6.49、愛学8.90、名大12.60)による。

一部・二部入れ替え戦

日本福祉大学(6位)1-11中京大学(1位)

※中京大学は一部昇格、日本福祉大学は2部降格

二部・三部入れ替え戦

名城大学(6位)1-10名古屋商科大学(1位)

※名古屋商科大学は二部昇格、名城大学は3部降格

代表

第4回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第42回インカレ最終予選)：

中京学院大学・常葉学園大学・岐阜聖徳学園大学

愛知教育大学・南山大学・日本福祉大学・

中京大学・静岡大学

第39回西日本大学ソフトボール選手権大会：

中京学院大学・常葉学園大学・岐阜聖徳学園大学

愛知教育大学・南山大学

個人表彰選手

最優秀選手賞：坂本 俊行(中京学院大学)

一部首位打者賞：花島 亨(愛知教育大学)

記録7割

一部打点賞：前田 貴則(中京学院大学)

記録10

一部最優秀防御率賞：川井 勇輝(中京学院大学)

記録0.00

二部優秀選手賞：山田 純(中京大学)

二部首位打者賞：上川 啓司(愛知大学)

記録7割1分4厘

二部最優秀防御率賞：服部 創(中京大学)

記録2.33

三部優秀選手賞：新川 卓史(名古屋商科大学)

三部首位打者賞：山田 佳史(中部大学)

記録7割8分6厘

三部最優秀防御率賞：宮地 浩利(名古屋商科大学)

記録3.36

ベストスコアラー賞：瀬尾 菜月(岐阜大学)

ベスト放送員賞：岩淵 真(朝日大学)

ベストナイン

投手：木伏 淳吉(中京学院大学)

捕手：前田 貴則(中京学院大学)

一塁手：松原 史耶(中京学院大学)

二塁手：三橋 淳(岐阜聖徳学園大学)

三塁手：鈴木 章義(常葉学園大学)

遊撃手：長谷川和磨(愛知教育大学)

外野手：尾山 竜成(岐阜聖徳学園大学)

外野手：福重 遥(中京学院大学)

外野手：長田 昇平(常葉学園大学)

DP・DEF0：西條 貴大(中京学院大学)

東海テレビ杯平成19年度春季第49回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

一兼、第42回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選一

一兼、第39回西日本大学ソフトボール選手権大会予選一

会期：4月29・30日、5月3・4日

会場：愛知県岡崎市／岡崎中央総合公園球技場

一部リーグ戦対戦成績

チーム	中 京	東海学園	桜花学園	愛知教育	東海学院	日本福祉	勝	分	敗	順 位
中 京	-	○4-1	○9-5	○4-0	○2-1	○7-0	5	0	0	優勝
東海学園	●1-4	-	○1-0	○1-0	●4-5	○3-1	3	0	2	3位
桜花学園	●5-9	●0-1	-	●2-3	●0-3	●1-2	0	0	5	6位
愛知教育	●0-4	●0-1	○3-2	-	●3-4	●0-4	1	0	4	5位
東海学院	●1-2	○5-4	○3-0	○4-3	-	○7-0	4	0	1	2位
日本福祉	●0-7	●1-3	○2-1	○4-0	●0-7	-	2	0	3	4位

二部リーグ戦対戦成績

チーム	常葉学園	中京学院	中京女子	岐阜聖徳	名古屋	勝	分	敗	順位
常葉学園		● 4 - 5	● 0 - 7	○ 14 - 1	○ 11 - 0	2	0	2	3位
中京学院	○ 5 - 4		● 5 - 9	○ 11 - 1	○ 10 - 0	3	0	1	2位
中京女子	○ 7 - 0	○ 9 - 5		○ 15 - 0	○ 12 - 0	4	0	0	1位
岐阜聖徳	● 1 - 14	● 1 - 11	● 0 - 15		○ 10 - 6	1	0	3	4位
名古屋	● 0 - 11	● 0 - 10	● 0 - 12	● 6 - 10		0	0	4	5位

一・二部入れ替え戦

桜花学園大学(6位) 6 - 2 中京女子大学(1位)

※桜花学園大学は一部残留

代表

第4回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第42回インカレ最終予選) :

中京大学・東海学院大学・東海学園大学・
日本福祉大学・愛知教育大学・桜花学園大学・
中京女子大学・中京学院大学

第39回西日本大学ソフトボール選手権大会 :

中京大学・東海学院大学・東海学園大学・
日本福祉大学・愛知教育大学・桜花学園大学・
中京女子大学

個人表彰選手

最優秀選手賞 : 高橋 愛菜(中京大学)

一首位打者賞 : 柏 知里(中京大学)

記録6割

一部打点賞 : 高橋 愛菜(中京大学)

記録7

一部盗塁賞 : 岡村 珠希(東海学園大学)

記録4

一部最優秀防御率賞 : 小沢佳那子(中京大学)

記録0.54

二部優秀選手賞 : 竹内 美帆(中京女子大学)

二部首位打者賞 : 堂山佐智子(中京学院大学)

記録6割6分7厘

二部最優秀防御率賞 : 牧田 久美(常葉学園大学)

記録2.02

ベストスコアラー賞 : 上野 里沙(中京学院大学)

ベスト放送員賞 : 夏目 真央(日本福祉大学)

ベストナイン

投手 : 小沢佳那子(中京大学)

捕手 : 瀬ノ口真貴(中京大学)

一塁手 : 上田 恵(東海学園大学)

二塁手 : 谷口 恵理(中京大学)

三塁手 : 久田 麻子(中京大学)

遊撃手 : 高槻ひとみ(東海学院大学)

外野手 : 柏 知里(中京大学)

外野手 : 高橋 愛菜(中京大学)

外野手 : 杉山 文子(東海学院大学)

DP・DEFO 榎谷美奈子(東海学院大学)

講評

例年なら必ず1日は雨にたたられるGW中の大会であったが、今年はすばらしい好天に恵まれ、新緑と薫風の中でのリーグ戦となった。昨年から会場となった岡崎市中央総合公園は、緑に囲まれた素晴らしい環境で、開催にご尽力をいただいた岡崎市ソフトボール協会をはじめとする関係各位にまずもって御礼を申し上げたい。

1部リーグ戦では、1年生エースを上級生が支えて危なげない戦いぶりであった中京大が3季連続30回目の優勝を飾った。上位3チームと下位3チームにやや力の差が感じられたが、特に、昨年の西日本準優勝の桜花学園大と初のインカレ出場を目指す愛知教育大の不振は意外であった。東海インカレまでには態勢を立て直し、地力を発揮してもらいたい。今季初の1部を戦った日本福祉大は、思いっきりのいい打撃が目玉された。インカレからユニバーをはじめとする世界を視野に入れた各チームに共通する課題は、長打力と一つ先の

塁を狙う走塁技術であろう。一方、2部も上位3チームと下位2チームの力の差は大きかったが、その中で中京女子大が一步抜き出て優勝を飾っ

た。しかし、3季ぶりになる1部への挑戦はまたしてもかなわず、いっそうの奮起が望まれる。
(東海学連理事長 水谷 博)

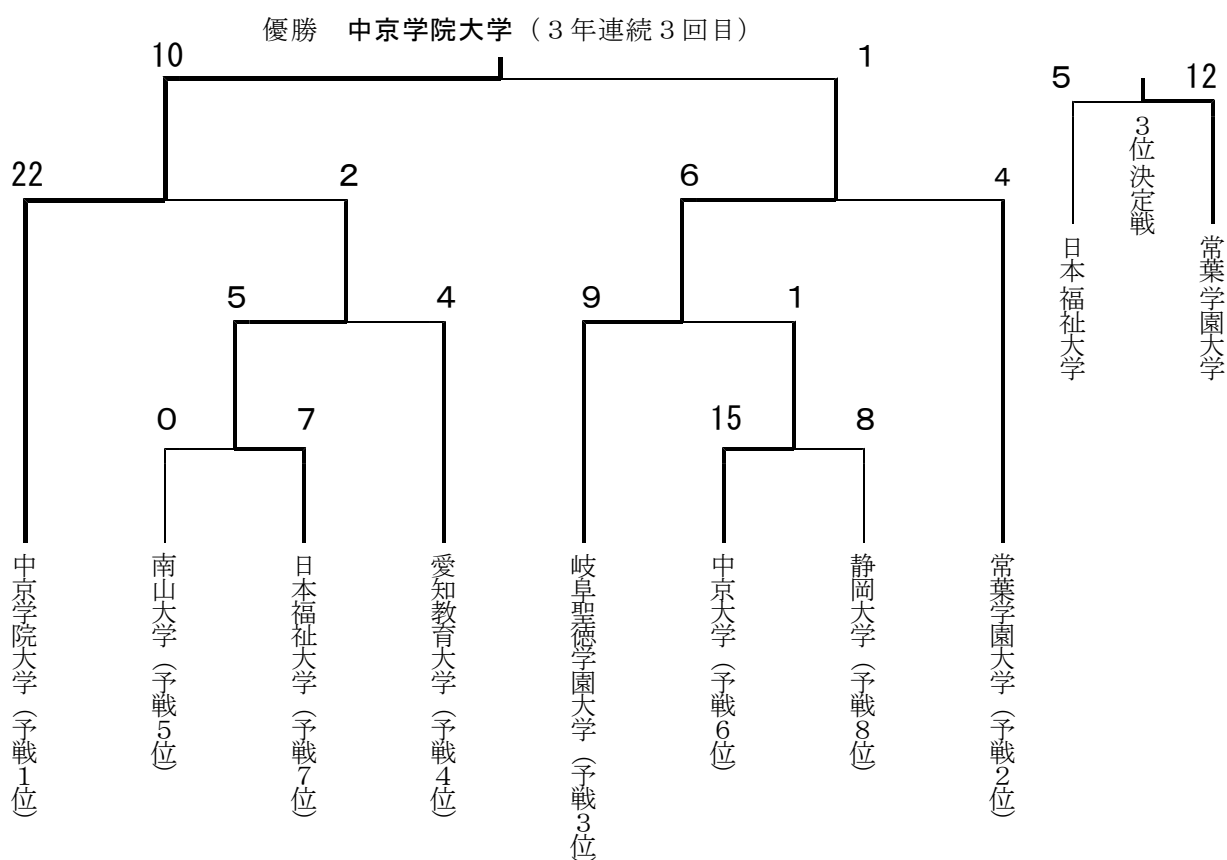
第4回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

一兼、第42回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会一

会期：5月19日(土)・21日(日)

会場：三重県伊賀市／いがまちスポーツセンター・阿山B&G海洋センター

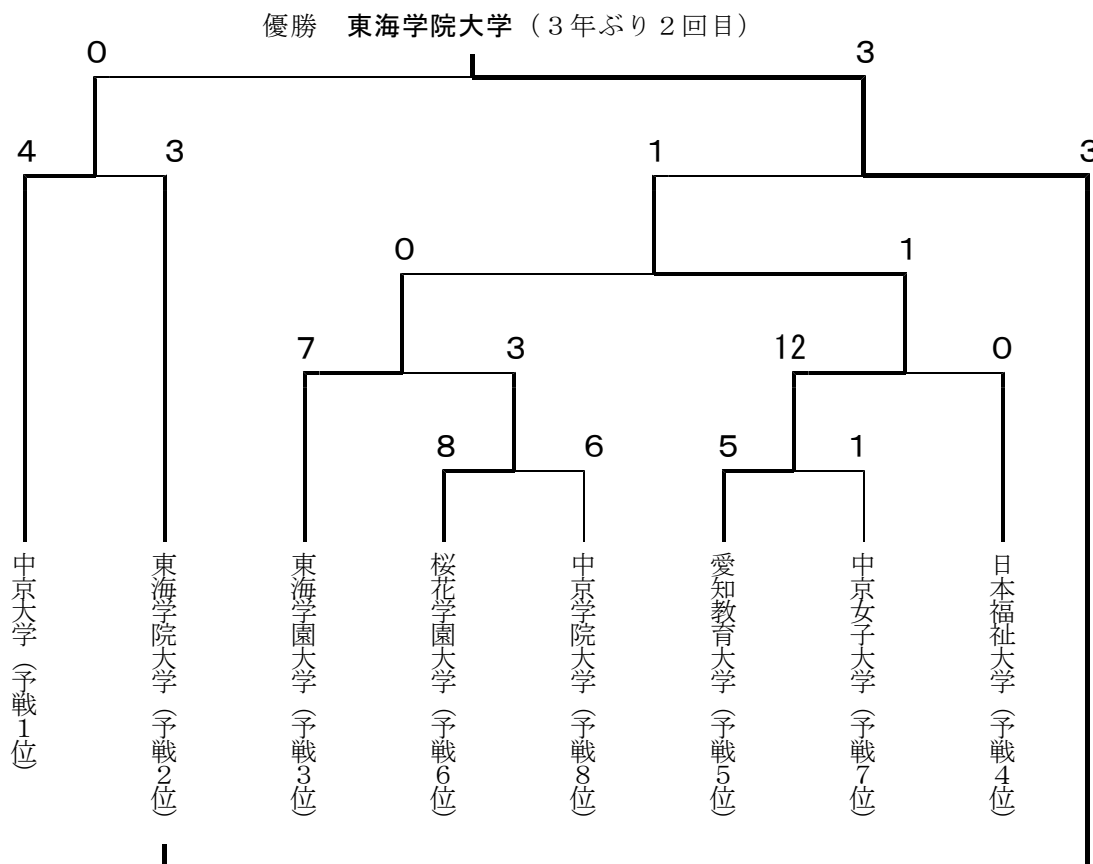
男子大会結果



に出場するという重みが理解されてきたものと思われる。ゲームは今回も、中京学院大学の強さが際だったが、特に印象に残ったのは、豊富な投手陣と守備の堅さであった。この力をさらに充実さ

せ、昨年のインカレで味わった悔しさをバネにして、準優勝の上、初優勝を望みたい。その力は十分有しているのだから。(東海学連理事長 水谷 博)

女子大会結果



女子全日本大学選手権大会代表権獲得チーム

- ・中京大学 (23年連続32回目)
- ・東海学院大学 (2年連続16回目)
- ・愛知教育大学 (初)

女子講評

女子もインカレの出場権獲得に直接かかわる3回戦は、正に息詰まる熱戦であった。ともにタイムリーが出ずに無得点を重ねた7回裏、愛知教育大学は無死満塁から待望のタイムリーが出てサヨナラ勝ちを収めた。昨年1点差に涙した屈辱を見事に晴らす一打であった。これによって初のインカレ出場権を獲得することができたが、この時、創部以来6年連続でインカレに出場してきた東海

学園大学の茫然と立ち尽くすサインの姿が印象的であった。決勝戦は、この愛知教育大学を破った東海学院大学と中京大学の再戦になったが、東海学院大学の浦上純奈投手が1失策のノーヒットノーランで3年ぶり2回目の優勝に花を添えた。インカレ代表権を得たチームは、春季リーグ戦と本大会で涙した東海地区全チームの代表として、夏のインカレにおいては堂々と戦い抜いてもらいたい。

最後になりましたが、雨で泥んこになりながらも素晴らしい戦いの場を提供していただきました。東海協会・三重県協会、就中、伊賀市協会をはじめ関係各位に対し、衷心より御礼申し上げます。(東海学連理事長 水谷 博)

東海テレビ杯平成19年度秋季第61回東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成19年10月6日・13日・14日・20日

会場：愛知県刈谷市／双葉グラウンド・亀城グラウンド

一部リーグ戦対戦成績

チーム	中京学院	常葉学園	岐阜聖徳	愛知教育	南山	中京	勝	分	敗	順位
中京学院		○4-0	○7-0	○13-0	○9-2	○6-2	5	0	0	優勝
常葉学園	●0-4		●4-11	○6-4	○8-6	●1-4	2	0	3	4位
岐阜聖徳	●0-7	○11-4		○16-2	○10-3	○7-4	4	0	1	2位
愛知教育	●0-13	●4-6	●2-16		○15-6	●5-8	1	0	4	5位
南山	●2-9	●6-8	●3-10	●6-15		●1-8	0	0	5	6位
中京	●2-6	○4-1	●4-7	○8-5	○8-1		3	0	2	3位

二部リーグ戦対戦成績

チーム	日本福祉	静岡	愛知	愛知みずほ	岐阜	名古屋商科	勝	分	敗	順位
日本福祉		○2-1	●2-5	○10-0	●1-2	○11-1	3	0	2	2位
静岡	●1-2		●0-2	●3-8	●2-5	○5-3	1	0	4	6位
愛知	○5-2	○2-0		○8-7	●0-2	●3-6	3	0	2	3位
愛知みずほ	●0-10	○8-3	●7-8		○6-0	○10-9	3	0	2	4位
岐阜	○2-1	○5-2	○2-0	●0-6		●1-9	3	0	2	1位
名古屋商科	●1-11	●3-5	○6-3	●9-10	○9-1		2	0	3	5位

※1～4位は、リーグ戦規定により、当該チーム間の失点率による。

三部リーグ戦対戦成績

チーム	名城	愛知学院	名古屋	中部	朝日	東海学園	勝	分	敗	順位
名城		●0-7	○6-3	●7-14	○21-6	○25-0	3	0	2	3位
愛知学院	○7-0		○3-1	○4-0	○9-0	○12-2	5	0	0	1位
名古屋	●3-6	●1-3		●3-4	○11-	○3-2	2	0	3	4位
中部	○14-7	●0-4	○4-3		○4-0	○9-1	4	0	1	2位
朝日	●6-21	●0-9	●0-11	●0-4		●4-11	0	0	5	6位
東海学園	●0-25	●2-12	●2-3	●1-9	○11-4		1	0	4	5位

一部・二部入れ替え戦

南山大学（6位）4－3 岐阜大学（1位）

※南山大学は一部残留

二部・三部入れ替え戦

静岡大学（6位）1－2 愛知学院大学（1位）

※愛知学院大学は二部昇格、静岡大学は三部降格

個人表彰

最優秀選手賞：岩田 守（中京学院大学）

一部首位打者賞：中西 健太（中京学院大学）

記録6割

一部打点賞：太田 信（岐阜聖徳学園大学）記録10

一部本塁打賞・一部盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：坂本 俊行（中京学院大学）

記録0.50

ベストナイン

投手：服部 創（中京大学）

捕手：前田 貴則（中京学院大学）

一塁手：松原 史耶（中京学院大学）

二塁手：林 直哉（中京大学）

三塁手：瀧川 大輔（愛知教育大学）

遊撃手：鈴木 章義（常葉学園大学）

外野手：福重 遥（中京学院大学）

外野手：友近 史彰（岐阜聖徳学園大学）

外野手：尾山 竜成（岐阜聖徳学園大学）

DPDEF0：太田 信（岐阜聖徳学園大学）

二部優秀選手賞：鈴木 遼平（岐阜大学）

二部首位打者賞：濱本 光洋（日本福祉大学）

記録0.556

二部最優秀防御率賞：小久保雄介（日本福祉大学）

記録1.15

三部優秀選手賞：岡田 明（愛知学院大学）

ベストスコアラー賞：可児 麻子（愛知みずほ大学）

ベスト放送員賞：佐々木智加（南山大学）

講評 本リーグ戦は今季も好天に恵まれ、開催地刈谷市連盟のご尽力により、全日程を無事終了できた。

一部リーグ戦は、中京学院大学がインカレ3位の実力を遺憾なく発揮し、抜群の強さで危なげなく、4季連続4回目の優勝を飾った。優勝の原動力は、安定した投手・守備力と強力な打線によるが、他のチームが中京学院大学から、1点を取ることを目標としていることに裏付けられている。奮起を期待したい。二部は「地獄の二部」と言われるように、今季も混戦で、初めて4チームによる失点率の争いになった。当該チーム間で想定されていないコールドゲームがあったことから、順位の決定方法に課題を残した。三部は愛知学院大学が力を発揮し、優勝とともに入れ替え戦にも勝って2部昇格を決めた。古豪の復活を期待する。

東海テレビ杯平成19年度秋季第50回東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦

会期：平成19年10月13日・14日・20日・21日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド・流作グラウンド

一部リーグ戦対戦成績

チーム	中 京	東海学院	東海学園	日本福祉	愛知教育	桜花学園	勝	分	敗	順位
中 京	-	○2－1	●1－3	○5－0	○1－0	○3－0	4	0	1	2位
東海学院	●1－2	-	○2－0	○5－0	●0－4	○7－0	3	0	2	4位
東海学園	○3－1	●0－2	-	○7－0	○1－0	○2－0	4	0	1	優勝
日本福祉	●0－5	●0－5	●0－7	-	●0－7	●0－4	0	0	5	6位
愛知教育	●0－1	○4－0	●0－1	○7－0	-	○1－0	3	0	2	3位
桜花学園	●0－3	●0－7	●0－2	○4－0	●0－1	-	1	0	4	5位

※優勝～2位・3～4位は、リーグ戦規定により、直接の対戦での勝者が上位。

二部リーグ戦対戦成績

チーム	中京女子	中京学院	岐阜聖徳	名古屋	静岡	勝	分	敗	順位
中京女子		○ 7 - 3	○ 11 - 1	○ 10 - 0	○ 16 - 1	4	0	0	1位
中京学院	● 3 - 7		○ 19 - 1	○ 7 - 0	○ 12 - 0	3	0	1	2位
岐阜聖徳	● 1 - 11	● 1 - 19		● 5 - 20	○ 12 - 9	1	0	3	4位
名古屋	● 0 - 10	● 0 - 7	○ 20 - 5		○ 13 - 4	2	0	2	3位
静岡	● 1 - 16	● 0 - 12	● 9 - 12	● 4 - 13		0	0	4	5位

一部-二部入れ替え戦

日本福祉大学(6位) 2-11 中京女子大学(1位)

※中京女子大学は一部昇格、日本福祉大学は二部降格

個人表彰

最優秀選手賞：村瀬 夏奈(東海学園大学)

一部首位打者賞：吉田 早希(桜花学園大学)

記録0.538

一部の打点賞・本塁打賞・盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：伊藤 愛(東海学園大学)

記録0.00

ベストナイン

投手：伊藤 愛(東海学園大学)

捕手：林 萌 絵(東海学園大学)

一塁手：山田あおい(東海学園大学)

二塁手：山家 愛(愛知教育大学)

三塁手：河村 彩名(東海学園大学)

遊撃手：駒野 まみ(中京大学)

外野手：岡村 珠希(東海学園大学)

外野手：井上 美紀(中京大学)

外野手：石山 寛子(東海学院大学)

DPDEF0：岡部麻由美(東海学院大学)

二部優秀選手賞：菊永あゆみ(中京女子大学)

二部首位打者賞：長谷川優香(中京女子大学)

記録0.800

二部最優秀防御率賞：杉原 瑞奈(中京女子大学)

記録0.00

ベストスコアラー賞：菅谷 咲絵(日本福祉大学)

ベスト放送員賞：小野目楓子(桜花学園大学)

講評

本リーグ戦は今季も好天に恵まれ、開催地高浜市連盟の献身的なご尽力により、全日程を無事終了できたことをまずもって御礼申し上げたい。

一部は、東海学園大学が、東海学院大学に1敗を喫したものの、西日本優勝の勢いを新チームでも持続し、中京大学の4連覇を阻んで4季ぶり3回目の優勝を飾った。今季特筆されるのは、一部15試合中、完封試合が13試合を占めたことである。昨秋とはまったく逆の展開になった。そのためか、初めて打点賞と本塁打賞の該当者がなかった。全国で戦っていくためには、長打力が不可欠であり、この冬のトレーニングの課題は、パワーとスピードのアップであろう。

二部は中京女子大学の独壇場であった。入れ替え戦にも勝利して、5季ぶりに一部昇格を決めた。古豪の復活を期待したい。

男女を通じて、中位校の力が接近していたことが今季の大きな特徴であろう。その日の投手の調子と失策の有無によって、勝敗が決定する試合が多かったように思われる。1球の重要性とともにリーグ戦全体の運営についても考えさせられた。

なお、男女とも、チームの存続が危ぶまれる大学が散見される。登録人数の減少も懸念材料である。冬から来春にかけて、ソフトボールの輪を広げる取り組みも切にお願いしたい。(東海学連理事長 水谷 博)

【近畿地区】

平成19年度第39回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：4月1・8・22・29・30日、5月3・4・5日

会場：吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	大阪経法	四天仏教	同志社	立命館	神戸学院	京都産業	勝	分	敗	順位
大阪経法		●0-6	●1-4	●2-4	●3-4	●0-3	0	0	5	6位
四天仏教	○6-0		●0-7	●0-1	●2-8	●0-4	1	0	4	5位
同志社	○4-1	○7-0		●0-9	●2-3	●2-8	2	0	3	4位
立命館	○4-2	○1-0	○9-0		○4-0	○2-1	5	0	0	優勝
神戸学院	○4-3	○8-2	○3-2	●0-4		○9-4	4	0	1	2位
京都産業	○3-0	○4-0	○8-2	●1-2	●4-9		3	0	2	3位

※立命館大学は2季ぶり10度目の優勝
 ※5位四天王寺国際仏教大学は2部との入れ替え戦へ、6位大阪経済法科大学は自動的に2部降格

1部総評 天候に恵まれた今年の春季リーグは、立命館大学が5戦全勝で2季ぶり10回目の優勝を果たした。立命館大学はチーム防御率0.48という記録が示すように、非常に安定感のある試合運びで他チームを寄せ付けなかった。神戸学院大学は立命館大学には敗れたものの、投打の balan

スがとれており2位となった。四天王寺国際仏教大学と大阪経済法科大学は力及ばず2部降格となった。そして、2部のブロック決勝および入れ替え戦の結果により、京都大学と兵庫教育大学が1部昇格となった。両チームの奮起をぜひとも期待したい。（事務次長 関西大学3年 北村和樹）

2部リーグ戦結果

2部A	大阪経済	兵庫教育	神戸	京都学園	佛教	勝	分	敗	順位
大阪経済		●1-11	●5-9	●2-9	●4-9	0	0	4	5位
兵庫教育	○11-1		○7-0	○4-2	○10-4	4	0	0	1位
神戸	○9-5	●0-7		●0-7	●2-8	1	0	3	4位
京都学園	○9-2	●2-4	○7-0		○9-2	3	0	1	2位
佛教	○9-4	●4-10	○8-2	●2-9		2	0	2	3位

2部B	大阪府立	龍谷	関西	大阪体育	京都	勝	分	敗	順位
大阪府立		●0-12	●2-3	●5-6	●2-12	0	0	4	5位
龍谷	○12-0		●1-2	●2-7	●1-9	1	0	3	4位
関西	○3-2	○2-1		△0-0	●2-4	2	1	1	3位
大阪体育	○6-5	○7-2	△0-0		●1-3	2	1	1	2位
京都	○12-2	○9-1	○4-2	○3-1		4	0	0	1位

※2位と3位は得失点差規定による。

2部優勝決定戦

京都大学 5-2 兵庫教育大学

※京都大学は1部昇格、兵庫教育大学は1部との入れ替え戦へ

2部9・10位決定戦

大阪府立大学 7-0 大阪経済大学

※大阪経済大学は自動的に3部に降格、大阪府立大学は3部との入れ替え戦へ

2部総評 春季の2部は、Bブロックに強豪が集まった形となった。関西大学、龍谷大学、大阪体育大学、京都大学、大阪府立大学のすべてが、2部の上位に常に顔をのぞかせるチームであり、

混戦が予想された。しかし終わってみると、安定した投手（木谷）を擁する京都大学が攻撃にも余裕を見せて全勝でブロックをクリアした。一方、Aブロックは兵庫教育大学が投打にわたって他チームを圧倒し、ブロック決勝にコマを進めた。

ブロック決勝では、京都大学が粘り強さを見せて勝利し、1部昇格を果たした。また、入れ替え戦にまわった兵庫教育大学は、1部第5位の四天王寺国際仏教大学に見事な完封勝ちをおさめて、18年ぶりの1部昇格を果たした。来季は1部に国立大チームが2つとなる。是非とも元気のいいところを見せてほしい。（理事長 森田啓之）

3部リーグ戦結果

3部A	流通科学	関西学院	大阪工業	姫路獨協	奈良教育	勝	分	敗	順位
流通科学		● 1-11	● 2-22	○ 13-3	● 2-12	1	0	3	4位
関西学院	○ 11-1		● 3-9	● 9-10	○ 13-3	2	0	2	2位
大阪工業	○ 22-2	○ 9-3		○ 21-0	○ 5-4	4	0	0	1位
姫路獨協	● 3-13	○ 10-9	● 0-21		● 4-14	1	0	3	5位
奈良教育	○ 12-2	● 3-13	● 4-5	○ 14-4		2	0	2	3位

※2位と3位、並びに4位と5位は直接対決の勝敗による。

3部B	大阪市立	大阪	甲南	和歌山	大阪産業	勝	分	敗	順位
大阪市立		● 0-8	● 0-10	○ 10-7	● 1-7	1	0	3	4位
大阪	○ 8-0		△ 2-2	○ 12-0	△ 0-0	2	2	0	2位
甲南	○ 10-0	△ 2-2		○ 8-0	● 0-6	2	1	1	3位
和歌山	● 7-10	● 0-12	● 0-8		● 1-8	0	0	4	5位
大阪産業	○ 7-1	△ 0-0	○ 6-0	○ 8-1		3	1	0	1位

※3部優勝決定戦 大阪産業大学 2-0 大阪工業大学

※大阪産業大学は2部昇格、大阪工業大学は2部との入れ替え戦へ

3部総評 3部Aブロックは、大阪工業大学が投打に圧倒的な力の差を見せつけ、全勝で優勝となった。大阪工業大学は、ブロック決勝では敗れたものの、2部の大阪府立大学を大差で下し、念願の2部昇格を果たした。

また、Bブロックは、好投手を擁する大阪大学（林）と大阪産業大学（開田）が互いに素晴らしい試合を作り、大いに3部を盛り上げた。直接

対決は引き分けに終わったため、最終的には他チームと引き分けをしていた大阪大学が残念ながら涙をのんだ。大阪産業大学は初の2部と思われるが、次季リーグ戦では元気なプレイを見たいものである。（理事長 森田啓之）

1部-2部入れ替え戦

四天王寺国際仏教大（5位）0-3 兵庫教育大学（2位）

※兵庫教育大学は1部昇格、四天王寺国際仏教
大学は2部降格

2部－3部入れ替え戦

大阪府立大学(9位)3－8大阪工業大学(2位)

※大阪工業大学は2部昇格、大阪府立大学は3
部降格

平成19年度第39回春季関西学生ソフトボールリーグ戦(女子)

会期：平成19年4月7・8・14・15・29・30日、5月4・5日

会場：園田学園女子大・大阪大谷大・摂南大・兵庫教育大・四天王寺国際仏教大

1部リーグ戦成績

チーム	大阪大谷	園田学園	大阪国際	立命館	神戸親和	龍谷	関西外語	大阪体育
大阪大谷		○2－1	○9－1	○2－1	○7－0	●1－4	○9－1	○3－1
園田学園	●1－2		○1－0	○4－1	○1－0	○6－4	○10－0	○3－0
大阪国際	●1－9	●0－1		○1－0	○7－0	○6－0	○8－0	○3－0
立命館	●1－2	●1－4	●0－1		○7－5	●3－11	○8－2	○9－4
神戸親和	●0－7	●0－1	●0－7	●5－7		●4－5	○7－4	○5－4
龍谷	○4－1	●4－6	●0－6	○11－3	○5－4		○4－1	○4－2
関西外語	●1－9	●0－10	●0－8	●2－8	●4－7	●1－4		●2－3
大阪体育	●1－3	●0－3	●0－3	●4－9	●4－5	●2－4	○3－2	

1部最終成績

優勝 大阪大谷大学(6勝1敗)

2位 園田学園女子大学(6勝1敗)

3位 大阪国際大学(5勝2敗)

4位 龍谷大学(5勝2敗)

5位 立命館大学(3勝4敗)

6位 神戸親和大学(2勝5敗)

7位 大阪体育大学(1勝6敗)

8位 関西外国語大学(0勝7敗)

※優勝・2位、3・4位は直接対戦の勝敗による。

1部個人表彰

打撃成績

順位 氏名 大学 打率

1位 吉田 朋代 大阪大谷大学 0.478

2位 渡邊 華月 園田学園女子大学 0.476

3位 亀本 伊純 龍谷大学 0.448

4位 吉田 薫 龍谷大学 0.428

5位 寺本 衣里 大阪国際大学 0.412

6位 大村英利佳 大阪国際大学 0.400

7位 西澤菜甫子 大阪大谷大学 0.375

8位 西馬 綾香 龍谷大学 0.360

8位 山本久美子 園田学園女子大学 0.360

10位 中西 響子 関西外国語大学 0.333

投手成績

順位 氏名 大学 防御率

1位 上村さつき 大阪大谷大学 0.41

2位 中里見友紀子 大阪国際大学 1.10

3位 山口憲子 園田学園女子大学 1.88

4位 岡田結花 立命館大学 2.02

5位 魚住知代 龍谷大学 2.17

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
大阪大谷大学	藤田真友美	中堅手
園田学園女子大学	尾崎 望良	投 手
大阪国際大学	元木 はるか	外野手
龍谷大学	西 洋子	捕 手
立命館大学	青野 可奈	遊撃手

神戸親和女子大学	山田 麻美	投 手
大阪体育大学	松本 由紀	三塁手
関西外国語大学	二宮亜理沙	遊撃手
盗 塁 賞：森山 未悠	大阪大谷大学	記録 4
本塁打賞：吉田 朋代	大阪大谷大学	記録 2
大久保恵実	立命館大学	記録 2

2部リーグ戦対戦成績

チー ム	天 理	武 庫 川	びわこ成蹊	四天仏教	神戸学院	佛 教	勝	分	敗	順 位
天 理		● 4 - 5	● 4 - 5	○ 11 - 2	○ 10 - 1	○ 15 - 0	3	0	2	3 位
武 庫 川	○ 5 - 4		○ 6 - 5	○ 13 - 0	○ 10 - 0	○ 15 - 1	5	0	0	1 位
びわこ成蹊	○ 5 - 4	● 5 - 6		○ 31 - 0	○ 10 - 0	○ 13 - 0	4	0	1	2 位
四天仏教	● 2 - 11	● 0 - 13	● 0 - 31		○ 8 - 7	○ 12 - 0	2	0	3	4 位
神戸学院	● 1 - 10	● 0 - 10	● 0 - 10	● 7 - 8		○ 12 - 5	1	0	4	5 位
佛 教	● 0 - 15	● 1 - 15	● 0 - 13	● 0 - 12	● 5 - 12		0	0	5	6 位

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	楠本 涼子	四天王寺国際仏教大学	0.565
2 位	平岡 希望	びわこ成蹊スポーツ大学	0.535
3 位	稲山 可奈	四天王寺国際仏教大学	0.500
4 位	安井加奈子	びわこ成蹊スポーツ大学	0.454
4 位	新 真依	びわこ成蹊スポーツ大学	0.454
6 位	井村 安希	四天王寺国際仏教大学	0.444
7 位	奥村まゆみ	びわこ成蹊スポーツ大学	0.428
7 位	大川なつみ	びわこ成蹊スポーツ大学	0.428
9 位	小泉 綾	天理大学	0.380
10 位	石崎菜穂子	びわこ成蹊スポーツ大学	0.360

投手成績

3部対戦成績表

チー ム	兵庫教育	大阪府立	摂 南	奈良教育	勝	分	敗	順 位
兵庫教育		○ 14 - 2	○ 15 - 4	○ 12 - 1	3	0	0	1 位
大阪府立	● 2 - 14		○ 11 - 4	● 5 - 12	1	0	2	4 位
摂 南	● 4 - 15	● 4 - 11		○ 10 - 3	1	0	2	2 位
奈良教育	● 1 - 12	○ 12 - 5	● 3 - 10		1	0	2	3 位

※ 2・3・4位は当該チーム間の失点差による。

順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	石崎菜穂子	びわこ成蹊スポーツ大学	1.33
2 位	岩藤ゆりえ	武庫川女子大学	1.50
3 位	真鍋 典子	四天王寺国際仏教大学	1.91

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
武庫川女子大学	向川 実沙	投 手
びわこ成蹊スポーツ大	奥村さゆり	外野手
天理大学	寺西 麻美	二塁手
四天王寺国際仏教大学	森川公美子	内野手
神戸学園大学	高橋 里枝	遊撃手
佛教大学	園田香央里	内野手
盗塁賞：安井 加奈	びわこ成蹊スポーツ大学	記録 7

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	伊藤 雅子	兵庫教育大学	0.678
2位	村上 美沙	大阪府立大学	0.588
3位	宮部 裕子	摂南大学	0.529
4位	宮野 典子	兵庫教育大学	0.500
5位	吉井 佐織	兵庫教育大学	0.416
5位	小嶋 絢	摂南大学	0.416
7位	西田 望	兵庫教育大学	0.388
8位	松原 秀美	兵庫教育大学	0.375
9位	小林 優里	大阪府立大学	0.315
10位	石井由佳子	兵庫教育大学	0.312

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	吉井 佐織	兵庫教育大学	2.90
2位	宮部 裕子	摂南大学	5.25
3位	翁田沙由梨	兵庫教育大学	5.36

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
兵庫教育大学	松原 秀美	中堅手
摂南大学	小嶋 絢	投手
奈良教育大学	今西亜里沙	捕手
大阪府立大学	村上 美沙	外野手

盗塁賞：山口茉莉子 大阪府立大学 記録8

1部リーグ戦総評

1部リーグでは、1・2位、5・6位で直接対決により順位が決定するなど、緊迫した戦いが多く繰り広げられた。優勝決定戦の大阪大谷大学vs園田学園女子大学の一戦は、六回まで同点のまま両者一步も譲らない試合展開で、最終回に大阪大谷大学がサヨナラホームランにより優勝を勝ち取った。インカレ出場枠を賭けた5・6位決定戦の龍谷大学対神戸親和女子大学の一戦では、延長10回

の末に龍谷大学が神戸親和女子大学を下し出場権を獲得した。今大会は得点率の高い試合が多く、打者の技術向上が見られたが、これに伴い投手の技術力向上が今後の課題となる大会となった。課題も残る大会となったが、関西リーグ全体のレベルも上がり、8月に行われる地元福知山市で行われる全日本大学選手権大会では、関西勢で上位を占めることが期待される。（文責：園田学園女子大学 堀口由香里）

2部リーグ戦総評

今季は昨季新たにリーグに加盟し、3部で優勝した神戸学院大学が2部入りを果たした。新たな顔触れと共に始まったリーグは、タイブレーカーの試合が3試合あり緊張した試合が続いた。そして、武庫川女子大学が全勝で優勝し、天理大学の連覇を止めた。また、びわこ成蹊スポーツ大学が快進撃を見せ、創部3年目にして一部へ昇格を決めた。

まだまだ、上位と下位の差が見られるが、今後さらに緊迫した試合展開になるよう期待したい。（文責：四天王寺国際仏教大学 楠本涼子）

3部リーグ戦総評

3部では、天候にも恵まれ、無事に全日程を終えることができた。兵庫教育大が繋ぐバッティングで着実に得点を重ね、守備では二人の投手を軸に安定した守りを見せ優勝した。2位以下は、勝ち数で並び順位争いが繰り広げられた。そのため、どのチームも気迫あふれるプレイをみせ、積極的に攻める試合運びであった。その結果、失点差で摂南大が2位となった。3部では、エラーが得点に絡むケースが多く、投手力の強化も今後の課題である。3部のますますの発展のために、今後も今回のように混戦した試合が展開されることを期待する。（文責：兵庫教育大学 吉井佐織）

平成19年度第39回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：9月23・30日、10月7・21・28日、11月3・4・11日

会場：吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	立命館	京都産業	同志社	京都	神戸学院	兵庫教育	勝	分	敗	順位
立命館		● 2 - 4	● 2 - 3	○ 11 - 0	○ 9 - 2	○ 8 - 4	3	0	2	3位
京都産業	○ 4 - 2		○ 4 - 2	○ 5 - 0	○ 1 - 0	○ 7 - 0	5	0	0	優勝
同志社	○ 3 - 2	● 2 - 4		○ 10 - 2	○ 7 - 5	○ 8 - 1	4	0	1	2位
京都	● 11 - 0	● 0 - 5	● 2 - 10		○ 3 - 1	● 3 - 9	1	0	4	5位
神戸学院	● 2 - 9	● 0 - 1	● 5 - 7	● 1 - 3		● 2 - 3	0	0	5	6位
兵庫教育	● 4 - 8	● 0 - 7	● 1 - 8	○ 9 - 3	○ 3 - 2		2	0	3	4位

※京都産業大学は2季ぶり18度目の優勝

※5位の京都大学は2部との入れ替え戦へ、6位の神戸学院大学は自動的に2部降格

1部総評 今季の注目は、新チームになってチーム間の力関係はどうか、また、2部から昇格した国立大学2チーム（京都大学、兵庫教育大学）がどのような戦いをするのか、という2点であった。

その意味で、オープニングゲームの「神戸学院大学VS兵庫教育大学」、続く、「立命館大学VS京都産業大学」の対戦は振り返ってみると、大きな意味を持つこととなった。前者の対決は、昇格に意気上がる兵庫教育大学が、倍以上の安打を放った神戸学院大学の攻撃をうまくかわしながら、唯一のチャンスを生かして挙げた得点を守りきり逃げ切った。後者の対決では、2年生投手で臨んだ京都産業大学であったが、立命館大学の拙攻にも助けられて勝利し、その勢いのまま全勝優勝を果

たした。一方でこの対戦でリズムに乗れなかった立命館大学は優勝を逃し、神戸学院大学もよもやの最下位（自動降格）となった。

また、今回準優勝を果たした同志社大学は投打ともにバランスのよいチームとなりつつあることを実感した。来季以降の一層の飛躍を期待したいものである。最後に、京都大学は入れ替え戦にまわったが、持ち前のゲーム運びの上手さで2部2位の佛教大学の挑戦を退けた。

来春は40回という節目を迎える。各チームとも「優勝」とともに、「インカレ出場枠獲得」を目指して、緊張感のあるゲーム、元気者の関西人らしいプレイを是非とも期待したい。（理事長 森田啓之）

2部リーグ戦結果

2部A	大阪体育	佛教	四天仏教	神戸	龍谷	勝	分	敗	順位
大阪体育		● 5 - 6	● 1 - 7	○ 7 - 0	● 2 - 4	1	0	3	4位
佛教	○ 6 - 5		○ 5 - 3	○ 14 - 2	○ 1 - 0	4	0	0	1位
四天仏教	○ 7 - 1	● 3 - 5		○ 11 - 1	○ 3 - 1	3	0	1	2位
神戸	● 0 - 7	● 2 - 14	● 1 - 11		● 1 - 4	0	0	4	5位
龍谷	○ 4 - 2	● 0 - 1	● 1 - 3	○ 4 - 1		2	0	2	3位



2部B	京都学園	大阪工業	大阪経法	関西	大阪産業	勝	分	敗	順位
京都学園		○11-1	●1-11	●2-4	●1-2	1	0	3	5位
大阪工業	●1-11		△2-2	●4-6	○3-2	1	1	2	3位
大阪経法	○11-1	△2-2		○9-1	○2-0	3	1	0	1位
関西	○4-2	○6-4	●1-9		△2-2	2	1	1	2位
大阪産業	○2-1	●2-3	●0-2	△2-2		1	1	2	4位

※3位と4位は直接対戦の勝敗による。

2部優勝決定戦

大阪経済法科大学 7-0 佛教大学

※大阪経済法科大学は1部昇格、佛教大学は1部との入れ替え戦へ

2部9・10位決定戦

京都学園大学 9-0 神戸大学

※神戸大学は自動的に3部に降格、京都学園大学は3部との入れ替え戦へ

2部総評 2部Aブロックは、佛教大学、四天王寺国際仏教大学、龍谷大学の3つ巴の争いとなった。その中で、投打のバランスのよい佛教大学が最終的にブロックを制した。一方、Bブロックで

は全チームが勝ち星を挙げるという接戦となったが、なかでも春季1部に在籍した大阪経済法科大学が安定した戦いを見せ、ブロック優勝を果たした。決勝戦では、大阪経済法科大学が力の差を見せて1部に自動昇格(返り咲き)、敗れた佛教大学は入れ替え戦でも京都大学に勝利できず、昇格はならなかった。また、今季3部からの昇格組(大阪工業大学、大阪産業大学)も健闘を見せた。近年、1部下位と2部上位、そして2部下位と3部上位の差はなくなってきている。昇格したチーム、降格したチームともに春季の一層の奮起を期待したい。(記録部長 神戸大学 藤野拓史)

3部リーグ戦結果

3部A	奈良教育	大阪	甲南	関西学院	大阪市立	和歌山	勝	分	敗	順位
奈良教育		●3-10	●3-6	○5-4	○7-4	○11-6	3	0	2	3位
大阪	○10-3		○6-0	○14-5	○3-0	○9-7	5	0	0	1位
甲南	○6-3	●0-6		○15-1	○8-2	○10-1	4	0	1	2位
関西学院	●4-5	●5-14	●1-15		●0-7	△5-5	0	1	4	6位
大阪市立	●4-7	●0-3	●2-8	○7-0		○14-1	2	0	3	4位
和歌山	●6-11	●7-9	●1-10	△5-5	●1-14		0	1	4	5位

※5位と6位は得失点差規定による。

3部B	大阪府立	流通科学	姫路獨協	大阪経済	近畿	勝	分	敗	順位
大阪府立		○11-1	○10-3	●0-8	○7-4	3	0	1	3位
流通科学	●1-11		○9-3	●5-14	●6-7	1	0	3	4位
姫路獨協	●3-10	●3-9		●10-17	●4-14	0	0	4	5位
大阪経済	○8-0	○14-5	○17-10		●4-11	3	0	1	1位
近畿	●4-7	○7-6	○14-4	○11-4		3	0	1	2位

※1位～3位は得失点差規定による。

3部優勝決定戦

大阪大学 8-0 大阪経済大学

※大阪大学は2部昇格、大阪経済大学は2部との入れ替え戦へ

3部総評 今季のAブロックは、戦前の予想では投手力が安定している大阪大学と甲南大学の前評判が高く、終わってみると、直接対決に勝利した大阪大学がブロックを制した。一方、Bブロックは、大阪経済大学、近畿大学、大阪府立大学の3校が並ぶ大混戦となったが、大阪経済大学が得失点差で抜け出して、優勝となった。

ブロック決勝は、投打がかみ合った大阪大学が3部優勝、念願の2部昇格を果たした。敗れて入

れ替え戦にまわった大阪経済大学は、2部の京都学園大学に善戦したものの、あと一歩及ばず3部残留となったが、来季に期待したい。

秋季リーグを通じて感じたことは、やはりソフトボールは投手が中心となっていく競技、ということである。3部から2部に上がるためには、投手力と守備力の整備が不可欠であろう。（運営部長 同志社大学3年 家永晃功）

1部-2部入れ替え戦

京都大学(5位) 9-2 佛教大学(2位)

※京都大学は1部残留

2部-3部入れ替え戦

京都学園大学(9位) 3-1 大阪経済大学(2位)

※京都学園大学は2部残留

平成19年度第39回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成19年9月8・9・15・16・17・22・23・24・29・30日、10月8・13日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・大阪大谷大学・摂南大学・兵庫教育大学
四天王寺国際仏教大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	大阪大谷	大阪国際	龍谷	立命館	神戸親和	大阪体育	関西外語
園田学園	-	●0-1	●2-3	○1-0	○2-0	○3-0	○8-0	○2-0
大阪大谷	○1-0	-	△4-4	●1-3	●1-4	○4-2	○3-1	○11-2
大阪国際	○3-2	△4-4	-	○3-0	○10-1	○1-0	△6-6	○4-0
龍谷	●0-1	○3-1	●0-3	-	○3-0	●4-6	●0-1	○8-0
立命館	●0-2	○4-1	●1-10	●0-3	-	●0-6	●0-3	○7-0
神戸親和	●0-3	●2-4	●0-1	○6-4	○6-0	-	○5-1	○8-2
大阪体育	●0-8	●1-3	△6-6	○1-0	○3-0	●1-5	-	○5-1
関西外語	●0-2	●2-11	●0-4	●0-8	●0-7	●0-8	●1-5	-

1部最終成績

優勝 大阪国際大学（5勝2分0敗）
2位 園田学園女子大学（5勝0分2敗）
3位 大阪大谷大学（4勝1分2敗）
4位 神戸親和大学（4勝0分3敗）
5位 大阪体育大学（3勝1分3敗）

6位 龍谷大学（3勝0分4敗）

7位 立命館大学（2勝0分5敗）

8位 関西外国語大学（0勝0分7敗）

※優勝・2位、3・4、5・6位は直接対戦の勝敗による。

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	尾崎 望良	園田学園女子大学	0.556
2位	高橋 里江	神戸親和女子大学	0.550
3位	高階 絢子	神戸親和女子大学	0.523
4位	藤田 香織	大阪体育大学	0.478
5位	下山 洋子	大阪大谷大学	0.437
6位	船越 里奈	立命館大学	0.435
7位	西澤奈甫子	大阪大谷大学	0.434
8位	佐古井倫子	立命館大学	0.421
9位	李 優沙	龍谷大学	0.389
10位	山口 絢子	龍谷大学	0.368

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	清水 麻紀	大阪国際大学	0.00

2部リーグ戦対戦成績

チーム	武庫川	びわこ成蹊	天理	神戸学院	兵庫教育	四天仏教	勝	分	敗	順位
武庫川		△3-3	●2-3	○12-2	○6-1	○8-6	3	1	1	3位
びわこ成蹊	△3-3		●2-7	○6-0	○14-0	○7-0	3	1	1	2位
天理	○3-2	○7-2		○9-1	○12-0	○6-1	5	0	0	1位
神戸学院	●2-12	●0-6	●1-9		●5-12	●4-5	1	0	4	6位
兵庫教育	●1-6	●0-14	●0-12	○12-5		●1-8	1	0	4	5位
四天仏教	●6-8	●0-7	●1-6	○5-4	○8-1		1	0	4	4位

※2・3位は当該チームの総失点差による。4・5・6位は当該チームの失点差による。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	西田 望	兵庫教育大学	0.500
2位	吉井 佐織	兵庫教育大学	0.450
2位	上野 亜紀	天理大学	0.450
4位	山本 愛	天理大学	0.438
5位	三好 可子	天理大学	0.409
6位	翁田沙由里	兵庫教育大学	0.400
6位	宮野 典子	兵庫教育大学	0.400
8位	高橋 里枝	神戸学院大学	0.389
8位	田中奈穂美	天理大学	0.389
10位	寺西 麻美	天理大学	0.375

2位	真辺 晃羽	龍谷大学	0.50
3位	山田 麻未	神戸親和女子大学	0.75
4位	田家 由里	大阪大谷大学	1.01
5位	岡田 結花	立命館大学	1.31

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
大阪国際大学	広兼 恵	外野手
園田学園女子大学	渡邊 華月	捕手
大阪大谷大学	田家 由里	投手
神戸親和女子大学	金子沙矢香	三塁手
大阪体育大学	上田 翔子	投手
龍谷大学	井上 沙弥	一塁手
立命館大学	岡田 結花	投手
関西外国語大学	矢野 晶子	投手

盗塁賞：山口 絢子 龍谷大学 記録4

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	石崎菜穂子	びわこ成蹊スポーツ大学	1.30
2位	真鍋 典子	四天王寺国際仏教大学	2.84
3位	翁田沙由里	兵庫教育大学	3.34

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
天理大学	上山 麻美	捕手
びわこ成蹊スポーツ大学	平岡 希望	外野手
武庫川女子大学	桐谷衣里子	左翼手
四天王寺国際仏教大学	稲山 可奈	内野手
兵庫学院大学	米澤あゆみ	二塁手
兵庫教育大学	金田 朋子	一塁手

盗塁賞：上山 麻美 天理大学 記録6

3部対戦成績表

チーム	大阪府立	奈良教育	摂南	佛教	京都女子	勝	分	敗	順位
大阪府立		○9-8	○11-1	●4-14	●2-4	2	0	2	3位
奈良教育	●8-9		○13-12	●4-10	●0-8	1	0	3	4位
摂南	●1-11	●12-13		●0-10	●8-19	0	0	4	5位
佛教	○14-4	○10-4	○10-0		○14-12	4	0	0	1位
京都女子	○4-2	○8-0	○19-8	●12-14		3	0	1	2位

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	阿久香保里	奈良教育大学	0.524
2位	弓山 美希	大阪府立大学	0.500
2位	関川 依子	佛教大学	0.500
4位	松村 麻香	京都女子大学	0.417
5位	小林 優里	大阪府立大学	0.400
5位	今西亜里沙	奈良教育大学	0.400
7位	岡島由希子	佛教大学	0.389
8位	辻田 典子	大阪府立大学	0.384
9位	野海 育子	仏教大学	0.381
10位	宮野 裕子	摂南大学	0.375

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	岡島由希子	仏教大学	3.73
2位	宮部 裕子	摂南大学	6.16
3位	松村 麻香	京都女子大学	8.16

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
仏教大学	野海 育子	外野手
京都女子大学	村山 結香	遊撃手
大阪府立大学	瀬戸絵衣子	内野手
奈良教育大学	松井美裕子	内野手
摂南大学	山田 理恵	捕手

盗塁賞：辻田 典子 大阪府立大学 記録9

1部リーグ戦総評

今回の秋季リーグは大阪国際大学がインカレ準優勝の屈辱を晴らし、優勝を収めた。インカレ優

勝の園田学園女子大学は2次部別リーグ第5日目まで全勝であったが、第6日目・第7日目の全勝優勝をかけた戦いで優勝を目の前にしてチームらしさを発揮することが出来ず、惜敗し準優勝という結果に終わった。今大会は新チームで臨む大学もあったが、どの試合でも熱戦が繰り広げられるなど来年度の関西リーグの更なる発展に繋がる結果となった。（文責 園田学園女子大学 堀口由香里）

2部リーグ戦総評

2部は天理大学が全勝で優勝を決め、一季ぶりの王座に返り咲いた。今季は、最後まで順位がわからない大混戦であり、2位を決める最終戦では、最後の回まで勝負が決まらず同点のままゲームセットとなり、びわこ成蹊スポーツ大学が総失点差で2位となり、1部への切符を手に入れた。4～6位も勝率が並び、総失点差で順位が決まるという結果になった。しかし、大混戦とはいえ、2部内でも、上位と下位ではまだまだ差があるという状況である。2部のどのチームからも一部昇格を狙えるように、更なる発展をしていきたい。（文責 四天王寺国際仏教大学 楠本涼子）

3部リーグ戦総評

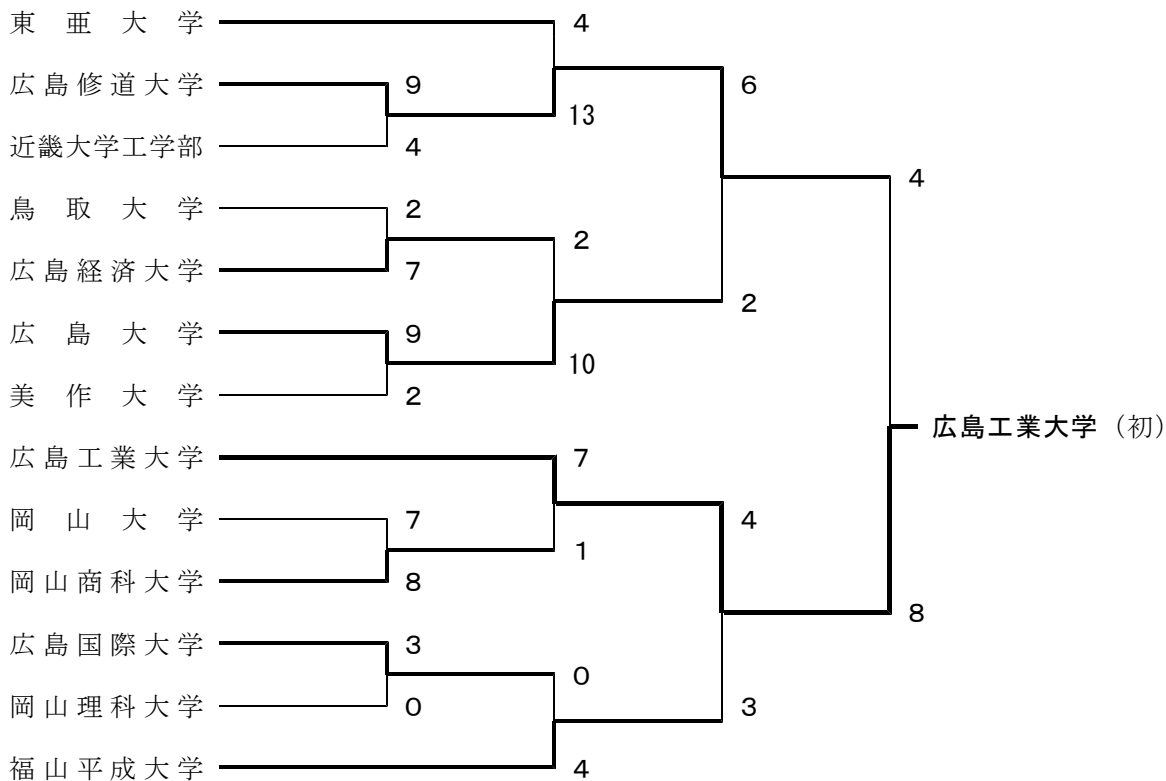
今回の秋季リーグでは、優勝した佛教大学をはじめとして、どのチームも攻守ともに積極的にプレイし、食欲に得点を狙う姿勢を見せた。チーム間に実力の差はあまり感じられなかった。勝敗を大きく左右したのは、メンタル面であると推測できる。エラーが続くなどの悪い流れを断ち切るこ

第7回中国地区大学ソフトボール選手権大会

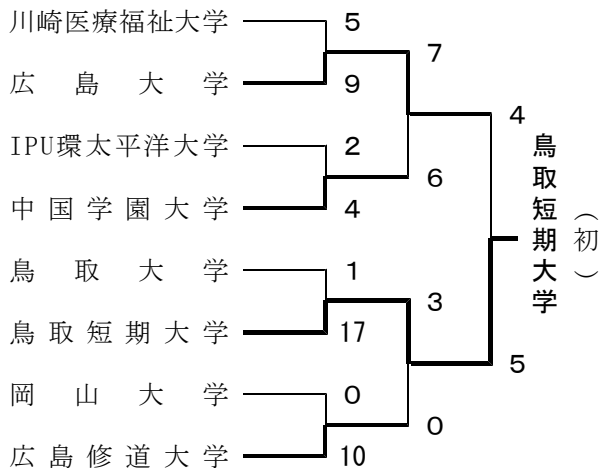
会期：平成19年11月10日（土）・11日（日）

会場：広島市／広島修道大学グラウンド

男子



女子



講評 男子の部では、広島県勢がベスト4を占める形となったが、粘り強さを信条とする広島工業大学が劣勢を跳ね返し初優勝を飾った。

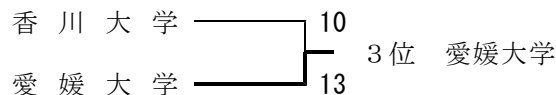
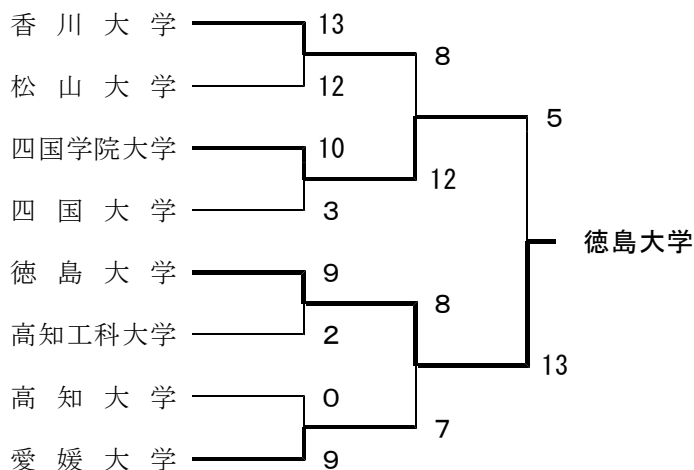
女子の部では、近年安定感を持つ広島大学と2回目の決勝戦に進出した鳥取短期大学との決勝戦となった。広島大学が優勢に試合を運び3点リードで最終回を迎えたが、鳥取短期大学に逆転され、悲願の初優勝にはいたらなかった。

全体的に、新チームでの参加が多く、来春に向けての投手力強化が大きな課題であったように感じられた。

【四国地区】平成19年度四国地区大学(男子)ソフトボール春季大会

会期：平成19年4月28日（土）、29日（日）

会場：徳島市／吉野川北岸ソフトボール場

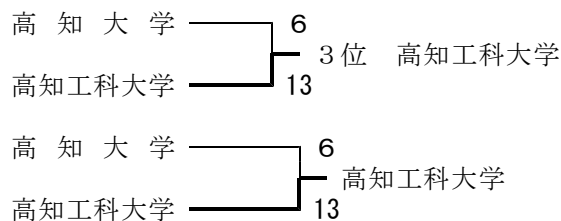
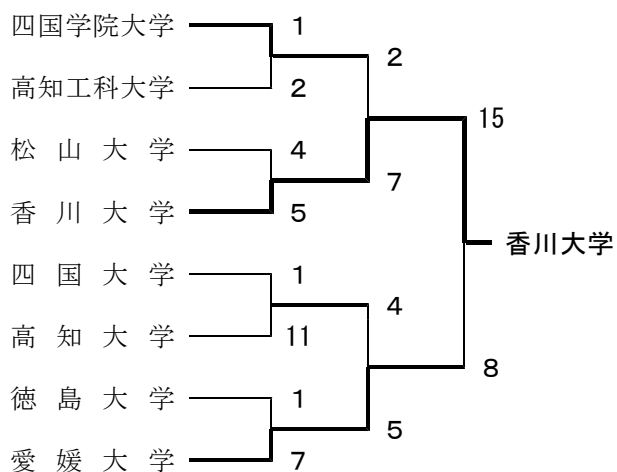


第42回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会予選会 一兼、第39回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会一

会期：平成19年5月12日(土)・13日(日)

会場：徳島市／吉野川北岸ソフトボール場

男子



全日本大学選手権出場権獲得校：

香川大学・愛媛大学

西日本大学選手権出場権獲得校：

香川大学・愛媛大学・高知工科大学

女子

チ　　ム	愛媛短大	香川大学	四国大学	勝	敗	順位
愛媛女子短期大学		○ 6－0	○ 25－0	2	0	優勝
香　　川　　大　　学	● 0－6		○ 9－6	1	1	2 位
四　　国　　大　　学	● 0－25	● 6－9		0	2	3 位

全日本大学選手権出場権獲得校：

愛媛女子短期大学

西日本大学選手権出場権獲得校：

愛媛女子短期大学・
香川大学

平成19年度四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：平成19年10月13日(土)・14日(日)

会場：香川県坂出市／トクヤマ坂出グラウンド・林田運動公園

男子

Aグループ	高 知	四国学院	四 国	愛 媛	勝	敗	分	順 位
高 知		○ 8 - 6	○ 11 - 2	○ 7 - 4	3	0	0	1 位
四国学院	● 6 - 8		○ 14 - 11	● 1 - 8	1	2	0	3 位
四 国	● 2 - 11	● 11 - 14		● 4 - 14	0	3	0	4 位
愛 媛	● 4 - 7	○ 8 - 1	○ 14 - 4		2	1	0	2 位

Bグループ	徳 島	松 山	香 川	高知工科	勝	敗	分	順 位
徳 島		○ 9 - 8	○ 10 - 5	○ 8 - 1	3	0	0	1 位
松 山	● 8 - 9		● 1 - 10	○ 5 - 0	1	2	0	3 位
香 川	● 5 - 10	○ 10 - 1		○ 11 - 4	2	1	0	2 位
高知工科	● 1 - 8	● 0 - 5	● 4 - 11		0	3	0	4 位

男子順位決定戦

1位決定戦 高 知 大 学 9 - 1 徳 島 大 学
 3位決定戦 愛 媛 大 学 2 - 1 香 川 大 学
 5位決定戦 松 山 大 学 6 - 2 四国学院大学
 7位決定戦 四 国 大 学 13 - 6 高知工科大学

男子結果

1位：高 知 大 学 5位：松 山 大 学
 2位：徳 島 大 学 6位：四国学院大学
 3位：愛 媛 大 学 7位：四 国 大 学
 4位：香 川 大 学 8位：高知工科大学

女子結果

チ ャ ム	愛媛短大	香川大学	四国大学	勝	敗	順 位
愛媛女子短期大学		○ 18 - 1	○ 7 - 0	2	0	優勝
香 川 大 学	● 1 - 18		○ 13 - 3	1	1	2 位
四 国 大 学	● 0 - 7	● 3 - 13		0	2	3 位

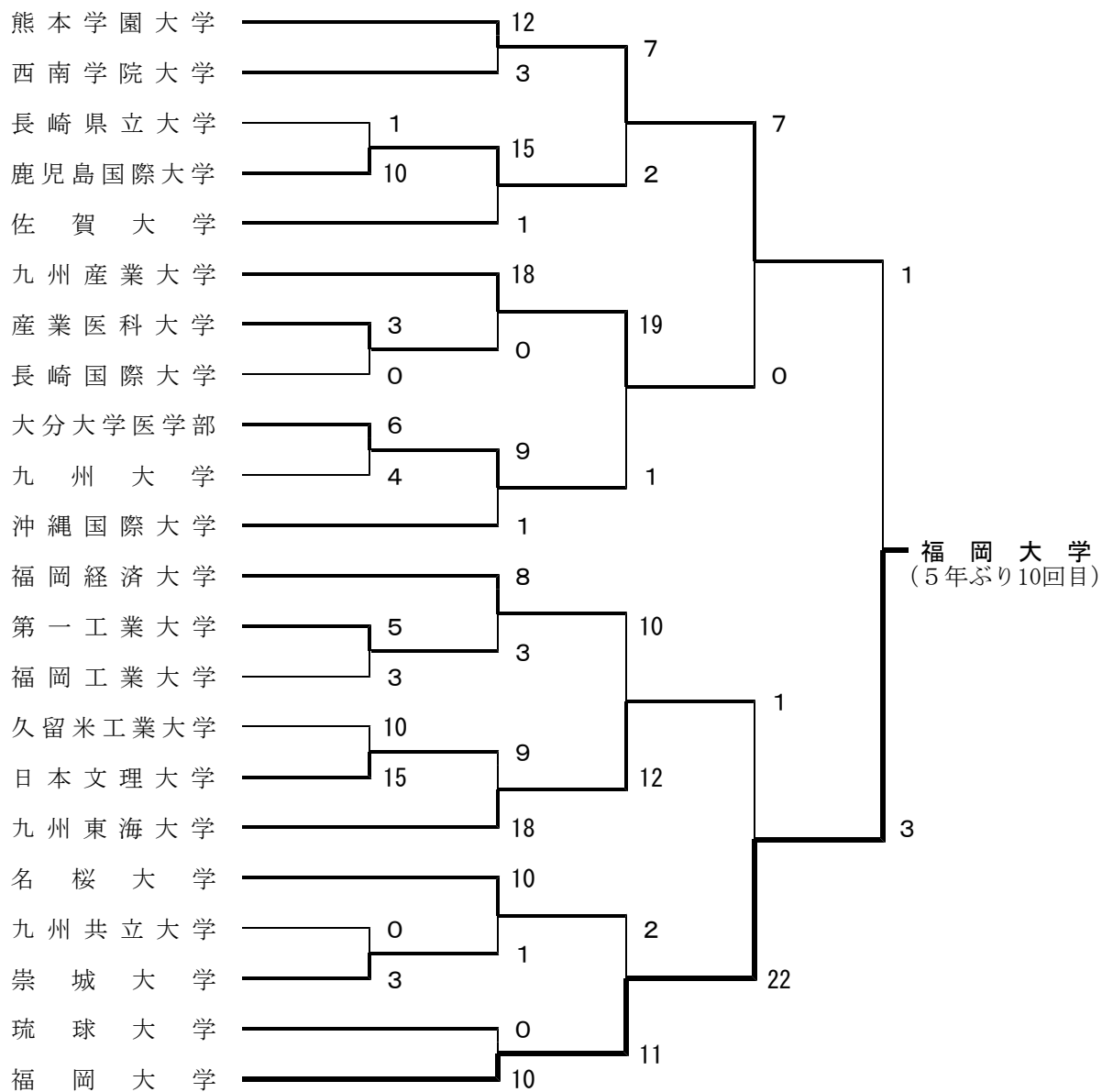


【九州地区】第26回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
 （兼、第42回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選会）

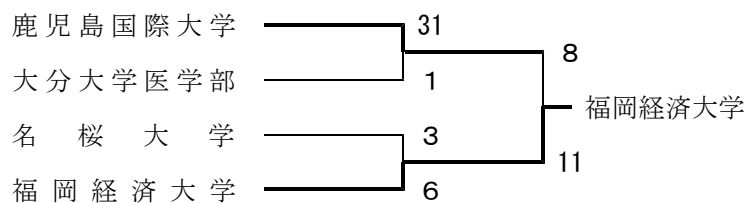
会期：平成19年5月26日（土）・27日（日）

会場：鹿児島県知覧町／平和公園多目的球場他

男子



第5代表決定戦



※第41回全日本大学（男子）選手権大会出場権獲得校：福岡大学・熊本学園大学・九州東海大学・九州産業大学、福岡経済大学

女子

チーム	九州共立	福岡	九州・熊本	日本文理	勝	分	敗	順位
九州共立大学		○ 3 - 2	○ 6 - 0	● 2 - 4	2	0	1	2位
福岡大学	● 2 - 3		○ 10 - 0	● 2 - 3	1	0	2	3位
九州女子・熊本学園	● 0 - 6	● 0 - 10		● 0 - 13	0	0	3	4位
日本文理大学	○ 4 - 2	○ 3 - 2	○ 13 - 0		3	0	3	優勝

※初の優勝を果たした日本文理大学が全日本大学選手権の出場権獲得

第7回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

会期：平成19年10月10日（土）・11日（日）

会場：鹿児島県知覧町／平和公園多目的球場他

男子

福岡大学	23	1	4	5	福岡大学 (3年連続5回目)
久留米工業大学	0				
九州大学	1	0			
九州東海大学	5				
鹿児島国際大学	9				
崇城大学	10	2	8		
西南学院大学	11		0		
長崎国際大学	5	1			
沖縄国際大学	12				
福岡経済大学	14	5			
福岡工業大学	1		1		
長崎県立大学	0	4			
九州産業大学	7			4	
第一工業大学	6	0			
佐賀大学	3		13		
九州共立大学	1	7			
熊本学園大学	20				

女 子

チー ム	日本文理	福岡	沖縄国際	熊本九女	九州共立	勝	敗	順 位
日 本 文 理 大 学		○ 5 - 1	○ 12 - 0	○ 12 - 0	○ 4 - 0	4	0	優勝
福 岡 大 学	● 1 - 5		○ 13 - 0	○ 8 - 1	● 1 - 12	2	2	3 位
沖 縄 国 際 大 学	● 0 - 12	● 0 - 13		● 7 - 11	● 0 - 29	0	4	5 位
熊本学園・九州女子大学	● 0 - 12	● 1 - 8	○ 11 - 7		● 0 - 5	1	3	4 位
九 州 共 立 大 学	● 0 - 4	○ 12 - 1	○ 29 - 0	○ 5 - 0		3	1	2 位

【調査研究委員会】

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年10月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までご連絡をください。(研究調査委員会 小川幸三・森田啓之)

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL & FAX : (0795) 44-2227

E-mail: hmorita@life.hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者(理事、監督、コーチ、選手等)に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭

言、提言、総説、論文(含.抄録)、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内(巻頭言、提言の場合は1ページ以内)とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

執 筆

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白25mm・左

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年10月20日で区切るものとする。

要 項

右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録委員会】

全日本大学ソフトボール連盟表彰

2007年8月アメリカにおいて開催された第1回アメリカンチャレンジシリーズにおいて準優勝した本連盟所属の選手と、タイにおいて開催されて第24回ユニバーシアード競技大会において銅メダルに輝いた本連盟所属の選手を、「優秀選手」として連盟表彰しました。詳細は、●～●ページのとおりですが、氏名と所属大学のみ再掲します。

第1回 アメリカンチャレンジシリーズ

- ・投 手 小藤 透（神戸学院大学）
諸見里 俊（国士舘大学）
山本 逸平（国際武道大学）
米良 英起（熊本学園大学）
- ・捕 手 平山 靖（福岡大学）
前田 貴則（中京学院大学）
- ・内野手 上野 正典（日本体育大学）
浦本 大嗣（国士舘大学）
楠本 圭（日本体育大学）
澤田 優生（国士舘大学）
筒井 拓友（日本体育大学）
長岡 孝（立命館大学）
- ・外野手 青山 紀彦（早稲田大学）
小田澤正紀（国士舘大学）

中西 健太（中京学院大）

福重 遥（中京学院大）

安井 琢磨（国士舘大）

〈守備位置別五十音順〉

第24回ユニバーシアード競技大会

- ・投 手 上村さつき（大阪大谷大学）
重藤恵理佳（日本体育大学）
高橋 真弓（東北福祉大学）
山口 憲子（園田学園女子大学）
- ・捕 手 鹿島 唯（日本体育大学）
渡邊 華月（園田学園女子大学）
- ・内野手 池原 恵（園田学園女子大学）
井上 愛（東北福祉大学）
小柳 薫（東京女子体育大学）
加藤 恵理（東北福祉大学）
佐々木 瞳（富士大学）
高橋あゆみ（日本体育大学）
森田 涼（園田学園女子大学）
- ・外野手 岡本 由香（大阪国際大学）
亀本 伊純（龍谷大学）
城戸絵理沙（東京女子体育大学）
森 さやか（東京女子体育大学）

〈守備位置別五十音順〉

トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯 第7回大学ソフトボール東海オープン出場チーム募集

出場の申し込みは、以下の大会要項をご覧のうえ、お願いいたします。

なお、参加申込は学連HP <http://www.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/> 上のみから、受け付けています。「大会要項」必ず熟読してください。また、出場までの手順等は次のようになっていますので、ご注意ください。

1. 1月末日までにE-mailで mztn@chujo-u.ac.jp へ参加申込を行う。mailの件名は、「〇〇大学東海オープン参加申込」であること。
2. 出場が認められた後、2月初旬に送信される参加申込書（Excelファイル）に必要事項を入力

し、2月20日（水）までに返信する。

3. 参加申込の受理と申込書がE-mailで送信されない場合は問い合わせること。
（ウイルス感染の疑いがあるE-mailは開きません。1週間以内に返信がない場合は、別のパソコンから送信すること。）
4. 参加が認められたチームは、2月20日（水）までに参加料を振り込む。
5. 参加が認められなかったチームにも2月6日（水）頃までにはE-mailで連絡します。
6. 3月初旬に、組み合わせ抽選の結果など必要事項を郵便で連絡します。

トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯 第7回大学ソフトボール東海オープン大会要項

1. 主 催 東海地区大学ソフトボール連盟
2. 主 管 愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・安城市ソフトボール協会
3. 後 援 全日本大学ソフトボール連盟
安城市・安城市教育委員会・安城市体育協会・中日新聞社
4. 協 賛 トヨタ自動車(株)・(株)豊田自動織機・(株)デンソー・(株)東海理化
5. 特別協賛 ダイワマルエス(株)
6. 大会期間 平成20年3月12日（水）・13日（木）、予備日3月14日（金）
7. 大会会場 安城市総合運動公園（6球場）
8. チーム数 男子12、女子12、計24チーム
9. 参加資格 全日本大学ソフトボール連盟および(財)日本ソフトボール協会に登録されているチーム、もしくはそのチームの登録選手による合同チームであること。
また、監督会議から予備日を含めて全日程に参加できること。
なお、出場申し込み多数の場合は、主催者が各地区における秋季大会の成績と地域性などを参考に選抜する。
10. 出場資格 主催者によって、出場を認められたチームのあらかじめ選手登録された30名以内の選手に限る。
ベンチに入ることのできるのは、選手25名、部長1名、監督1名、コーチ2名、トレーナー1名、記録員の資格を有するスコアラー1名の計31名以内とする。なお、新1年生の出場については出身高校と当該大学部長の承認がある場合は認める。
11. 参 加 料 1チーム30,000円
12. 申込方法 E-mailアドレス mztn@chujo-u.ac.jp へ1月末日までに申込書を請求し、返信する

こと。また、出場が認められた後、参加料を次の振込口座へ2月20日(水)までに振り込むこと。

【振込口座】

銀行：三菱東京UFJ銀行大府支店 普通口座番号 1 5 2 9 5 4 7

名義：東海地区大学ソフトボール連盟理事長水谷博

13. 競技方法 男女各12チームを3チームずつ4グループに分けて予選リーグ戦を1日で実施し、翌日1位グループ・2位グループ・3位グループ各4チームによる順位決定トーナメント戦を行う。
14. 競技規則 2008年度オフィシャルソフトボールルール及び競技運営規則による。なお、第一日の予選リーグ戦においては、90分を過ぎて次のイニングに入らない。
また、サスペンデッドゲームを採用する。
15. 使用球 ダイワマルエス社製公認革ボールとし、主催者が提供する。
16. 審判員 (財)日本ソフトボール協会公認審判員
17. 記録員 (財)日本ソフトボール協会公認記録員
18. 表彰 優勝チームに対し賞状とトヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯を、準優勝・第3位のチームに対し賞状と盾を授与する。なお、トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯は持ち回りとする。
最優秀選手賞と敢闘選手賞として男女各1名に賞状と盾を授与する。
19. 組合抽選 2月20日(水)午後5時から安城市体育館において公開抽選を行う。
20. 監督会議 3月11日(火)午後3時から安城市総合運動公園体育館会議室において行う。
21. 開会式 3月11日(火)午後4時から安城市総合運動公園ソフトボール場A球場において行う。
22. 閉会式 全試合終了後、安城市総合運動公園ソフトボール場A球場において行う。
23. 費用 参加チームの旅費、滞在費はすべてチームの負担とする。
24. 傷病等 主催者・主管者は大会期間中における傷害・疾病並びに事故等について一切の責任を負わない。保険証を持参すること。
25. 宿泊弁当 主催者は幹旋しない。ただし、宿泊については関係機関を紹介する。
26. 備考 出場チームは部長または監督に引率され、チームの行動について責任を負うこと。
27. 交流試合 大会が順調に終了した場合、予備日に最大8試合の交流試合を実施する。なお、この対戦チームについては、希望は伺うものの、主催者に一任されたい。
28. 問合せ先 中京女子大学 水谷 博 E-mail mztn@chujo-u.ac.jp



平成17・18・19年度
全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	大 内 敬 哉	中京大学	—	
副 会 長	一 谷 宣 宏	園田学園女子大学	中 野 紀 明	国士舘大学
	武 藤 幸 政	城西大学	—	
顧 問	坂 井 正 郎	国士舘大学名誉教授	角 田 真一郎	早稲田大学名誉教授
	水 野 信 義	WSM教育研究所	斎 藤 滋 雄	学習院大学名誉教授
理 事 長	末 井 健 作	兵庫県立大学	—	
副理事長	逢 坂 秀 樹	鳥取短期大学	高 橋 伸 次	高崎経済大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長） hmorita@life.hyogo-u.ac.jp		
	水 谷 博	中京女子大学（広報記録委員長） mzttn@chujo-u.ac.jp		
	大和田 寛	仙台大学	小 川 幸 三	日本体育大学
	黒 田 重 靖	富山大学	久保田 豊 司	大阪国際大学
	宮 尾 直 海	愛媛女子短期大学	中 野 元	熊本学園大学
理 事	小 嶋 高 良	八戸工業大学	大 塚 健 樹	盛岡大学
	岡 田 万 嗣	山梨学院大学	丸 山 克 俊	東京理科大学
	立 山 利 治	国際武道大学	青 木 真	上越教育大学
	吉 野 みね子	東京女子体育大学	木 藤 盛 雄	成蹊大学
	山 本 英 弘	朝日大学	矢 澤 久 史	東海学院大学
	丸 山 悟	日本福祉大学	石 井 賀一郎	中京学院大学
	児 玉 公 正	大谷女子大学	中 谷 敏 昭	天理大学
	富 田 国 興	（広島修道大学）	新 垣 實	沖縄国際大学
	吉 末 和 也	園田学園女子大学	—	
評 議 員	飯 島 隆	盛岡大学	舟 山 健 一	東北福祉大学
	大 塚 隆	東海大学	櫻 井 佳代子	新島学園短期大学

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
評 議 員	加 藤 茂 夫	専修大学	合 津 正之助	常葉学園大学
	磯 野 徹	愛知大学	廣 田 真 史	名古屋大学
	谷 口 佳津宏	南山大学	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学
	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学	板 野 道 弘	中国短期大学
	荒 牧 昭二郎	九州東海大学	吉 村 清	琉球大学
	上江州 剛	名桜大学	—	
監 事	藤 井 立 三	明星大学	平 野 義 明	大阪工業大学
事 務 局	〒670-0092 姫路市新在家本町1-1-12 兵庫県立大学環境人間学部			
	FAX : (0792) 93-5710		E-mail : suei@shse.u-hyogo.ac.jp	

平成19年度 全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿

委 員 長	橋本愛希（東京地区・日本大学）				
副委員長	田中 彰（近畿地区・関西大学）・堀口由香里（近畿地区・園田学園女子大学）				
地区	氏 名	所属大学	地区	氏 名	所属大学
関 東	望月 正敏	高崎経済大学	関 東	駒谷 幸子	城西大学
東 京	坪川倫太郎	早稲田大学	東 京	高羽 陽平	慶應義塾大学
北信越	高山 星奈	富山大学	東 海	女川 博之	名古屋商科大学
近 畿	岩崎 悠志	朝日大学	近 畿	松山 陽子	園田学園女子大学
中 国	水本 洋	愛知学院大学	中 国	松原 真寿	鳥取短期大学
四 国	脇坂 美吏	愛媛女子短期大学			

平成19年度 男子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	10	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 宮城教育大学 盛岡大学 北翔大学 北海道大学	
関 東	20	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 城西国際大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 獨協大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	5	金沢大学 信州大学 富山大学 長野大学 福井県立大学	
東 京	23	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本歯科大学 日本体育大学 一橋大学 文教大学湘南 武蔵工業大学 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学	
東 海	18	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 愛知みずほ大学 朝日大学 岐阜大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	28	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺国際仏教大学 同志社大学 奈良教育大学 姫路獨協大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学	
中 国	15	岡山大学 岡山商科大学 岡山理科大学 近畿大学工学部 東亜大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際大学 川崎医科大学 IPU環太平洋大学 美作大学 福山平成大学	
四 国	8	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 四国学院大学 徳島大学 松山大学	
九 州	23	沖縄国際大学 大分大学医学部 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 九州東海大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 産業医科大学 西南学院大学 崇城大学 第一工業大学 長崎県立大学 長崎国際大学 西日本工業大学 日本文理大学 福岡大学 福岡経済大学 福岡工業大学 名桜大学 琉球大学	

平成19年度 女子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	8	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 盛岡大学 札幌学院大学	
関 東	16	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 文教大学	
北 信 越	7	飯田女子短期大学 金沢大学 上越教育大学 信州大学 富山大学 福井大学 松本大学	
東 京	16	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 国際基督教大学 専修大学 成蹊大学 創価大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 明治大学 早稲田大学	
東 海	13	愛知教育大学 桜花学園大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中京女子大学 東海学院大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	18	大阪国際大学 大阪体育大学 大阪府立大学 大阪大谷大学 関西外国語大学 神戸親和女子大学 神戸学院大学 四天王寺国際仏教大学 摂南大学 園田学園女子大学 天理大学 兵庫教育大学 佛教大学 奈良教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学	
中 国	8	岡山大学 川崎医療福祉大学 中国学園大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学 IPU環太平洋大学 広島修道大学	
四 国	3	愛媛女子短期大学 香川大学 四国大学	
九 州	6	沖縄国際大学 九州女子大学 熊本学園大学 福岡大学 日本文理大学 九州共立大学	
男 子 150大学 女 子 95大学 合 計 245大学			平成19年12月25日現在

編 集 後 記

この1年は、全日本大学ソフトボール連盟にとって、大きな飛躍の年となりました。世界に確固たる礎を築くことができたのです。これは、ひとえに、(財)日本ソフトボール協会・JOCをはじめとする関係各位の大学ソフトボール競技に対するご理解とご尽力の賜物と、この場を借りて衷心より御礼申し上げます。

さて、学生諸君諸姉にとってこの1年はどんな年だったのでしょうか。参加選手の長い人生から見れば、ほんの一瞬だったかも知れません。でも、世界の檜舞台に立った一瞬は、何事にも代え難い瞬間であったと思います。ここに記された記録が末永く記憶される一助になり、そして参加選手ばかりでなく、誰もがその一瞬を共有できる可能性を秘めていることに気づいていただければ幸いです。

ところで、昨年北京で開催された世界女子選手権やプラハで今年開催された男子第1回ワールドカップにおいて、国際ルールへの適応に戸惑った日本代表選手が多かったと聞き及んでいます。この点から、国際審判員の後藤春日氏にISFとJSAのルールの相違点について、対比してご紹介いただきました。貴重な資料ですので、活用していただきたいと思います。また、体力に関する研究紹介もトレーニングの目標となりうるものだと思います。

最後になりましたが、本号に原稿や情報をお寄せいただいた方々に感謝申し上げ、編集後記といたします。

広報記録委員会：水谷 博（中京女子大学）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海学院大学）

表紙写真：第1回アメリカンチャレンジシリーズ
第24回ユニバーシアード大会
文部科学大臣杯第42回全日本大学(男)ソフトボール選手権大会開会式

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第11号

2007年12月25日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟 会長 大内 敬哉

編集責任者 広報記録委員長 水谷 博

E-mail: mzt@chujo-u.ac.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12

兵庫県立大学環境人間学部気付

FAX (0792) 93-5710

E-mail: suei@shse.u-hyogo.ac.jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

TEL (058) 263-4101

ISSN 1343-439X

Rawlings®
Est. 1887



君のために、ローリングス

R for you

アメリカで120年を超える時の流れと共に培われてきたローリングスのステイタス。

それは、こだわりの物づくりに対する「信頼」の表れである。そこに宿る不変のスピリットは、スタイルやカラーが時代とともに変わっても、常に多くのプレーヤーの心を捉え続けてきた。そして、2008年ローリングスは新たな一歩を踏み出す。

不変のスピリットを受け継いだ新しいエンブレム「ビッグR」が日本で誕生。

アメリカの伝統を受け継ぐ「フラッグマーク」と共に日本で、そしてアメリカで、新しい夢や感動が生まれるだろう。

それは、日米のトッププロに限らず、頂点を目指す高校球児や、ソフトボールの選手達。そして草野球プレーヤー、キャッチボールをはじめたばかりの小学生…、すべてのプレーヤーに贈る新たな力。

R for you ————— Rawlings

熱いゲームが、
KENKOから
はじまる。



ケンコーソフトボール
(革製/3号球)
財日本ソフトボール協会検定球



健康コミュニティを創造する
ナガセケンコー株式会社
NAGASE KENKO CORPORATION



ぶっ飛ぶパワー。



高反発、新4層構造ソフトボールバット誕生。【新発売】

〈ミズノプロ〉 エーエックス4 ¥39,900 (本体¥38,000) 2TP-51440 (84cm・平均720g) / 2TP-51440 (84cm・平均740g) / 2TP-51450 (85cm・平均750g) ●カーボン+グラス ●3号/革・ゴムボール用 ●φ57mm ●レッド (62)

www.mizunoballpark.com ● www.mizuno.co.jp ● ☎ 0120-320-799



ウインドミル No. 11 (2007)

ISSN 1343-439X